

使いこなす本

B3FH-5831-03

パソコンの各部は
こうなっている

基本的な機能を使おう

電源と節電機能を賢く使おう

オプション機器を活用しよう!

BIOSセットアップ

技術情報

索引

ハード編

FMV-BIBLO

NE3/500LR, NE3/500L, NE3/45LW, NE3/45LR, NE3/45L



FUJITSU

こんなことがやりたい

アウトドアで使いたい！



屋外などのコンセントが使えない場所では、ACアダプタを取り外して、バッテリでパソコンが使えます。

→ P.46

携帯電話 / PHS で インターネットにアクセスしたい！



携帯電話 / PHS を接続してインターネットでメールを送ったり、インターネットのホームページを見たりできます。

→ P.82

BIBLO で音楽が聴きたい！



BIBLO を起動していないときでも、ワンタッチボタンを押すと気軽に音楽 CD を楽しめます。

→ P.28

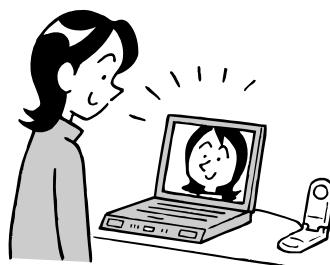
ワンタッチでメールを確認！



今すぐメールを見たい！
E-mail ボタンを押すと、すぐにメールの着信を確認できます。

→ P.26

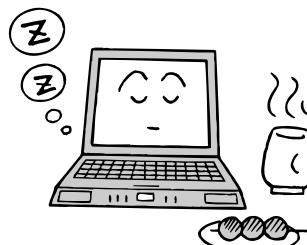
デジタル写真を使いたい！



CCD カメラを使うと、デジタル写真を簡単に取り込めます。

→ P.98

休憩するときは、一時停止で節電！



液晶ディスプレイを閉じるか、SUS/RESスイッチを押すだけで、パソコンの作業を一時停止して、節電できます。

→ P.53

家計簿もすばやく入力したい！



キーボードでは数字の位置がなかなか覚えられなくて...というときは、テンキーボードを使って数字を入力できます。

→ P.77

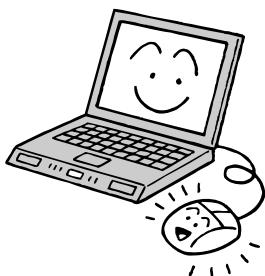
大画面でプレゼンテーション！！



CRTディスプレイや液晶プロジェクタにBIBLOの画面を映すことができます。

→ P.89

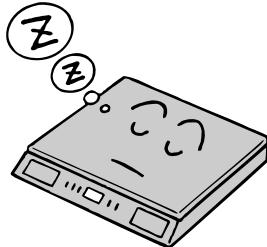
使い慣れたマウスで快適作業！



フラットポイントに慣れないときは、マウスを接続して作業しましょう。

→ P.77

節電設定で省エネしよう！



BIBLOを使っていないときも電源を入れたままにしていませんか？自動的に電力をセーブして、電力の無駄使いを防ぎましょう。

→ P.59

印刷したい！



企画書、年賀状、家計簿...パソコンで作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

→ P.66

もっと快適に作業したい！



たくさんのアプリケーションを開いたり、ゲームをしているとき「パソコンの処理が遅いなあ」と感じたことはありませんか？メモリを増設すると、より快適に作業ができます。

→ P.70

本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 警告	 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次のような記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は一般的な禁止事項）が示されています。
	で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

画面例および入力例について

- 表記されている画面およびイラストは開発中のものです。実際とは異なる場合があります。また、お使いの機種やモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上に  をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

`dir c:`

この場合は、「dir」と入力したあと、 を1回押し、続けて「c:」と入力してください。

その他の記号について

 重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 アドバイス	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
 コツム	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CDを表しています。
 用語	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows または Windows 98
Microsoft® Windows® 95 operating system	Windows 95
Microsoft® WindowsNT® Workstation operating system Version 4.0	Windows NT 4.0
Microsoft® Internet Explorer	Internet Explorer
Intellisync® for Notebooks	Intellisync
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan
Easy CD Creator™ スタンダード版 v4.01J	Easy CD Creator
DirectCD™ 3.0J	DirectCD

機種名の表記について

次のように略して表記します。

機種名	本書での表記
FMV-BIBLO NE3/500LR , NE3/500L , NE3/45LW , NE3/45LR , NE3/45L	本パソコン
FMV-BIBLO NE3/500LR	NE3/500LR
FMV-BIBLO NE3/500L	NE3/500L
FMV-BIBLO NE3/45LW	NE3/45LW
FMV-BIBLO NE3/45LR	NE3/45LR
FMV-BIBLO NE3/45L	NE3/45L

目 次

ContentS



こんなことがやりたい
本書の表記について

第 1 章 パソコンの各部はこうなっている

1. 各部の名称と働き	2
本体前面	2
本体左側面	4
本体右側面	6
本体背面	8
状態表示 LCD	10
キーボード	12
ワンタッチボタン	15
2. 本パソコンの取り扱い上の注意	16
取り扱い上の注意	16
廃棄について	16

第 2 章 基本的な機能を使おう

1. フロッピーディスクを使う	18
気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき	18
使えるフロッピーディスクは？	19
フロッピーディスクをセットする／取り出す	19
フロッピーディスクのデータを守るには	20
2. CD を使う	21
気をつけてください～ CD を使うとき	21
使える CD は？	22
CD をセットする／取り出す	23
3. ワンタッチボタンを使う	26
アプリケーションを起動する	26
アプリケーションの割り当てを変更する	27
音楽 CD を聴く	28
4. 音量を調節する	30
音量ボリュームで調節する	30
音量つまみで調節する	30
5. 画面の解像度や発色数を変える	32
液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数	32
液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える	33
6. 液晶ディスプレイの明るさを変更する	35
明るさを設定する	35
設定した明るさを変更する	35
7. お手入れのしかた	36
パソコン本体／ディスプレイ／キーボードのお手入れ	36
フロッピーディスクドライブのお手入れ	36

第3章 電源と節電機能を賢く使おう

1. 電源を入れる / 電源を切る	40
電源を入れてパソコンを使おう	40
今日はおしまい。電源を切るには?	42
2. AC アダプタで使う	44
AC アダプタを取り付ける	44
AC アダプタを取り外す	45
3. バッテリで使う	46
充電する	46
充電時間	47
稼動時間	48
残量を確認する	48
気をつけてください~バッテリを使うとき	50
内蔵バッテリパックを交換する	51
4. 節電する	53
サスPEND機能と Save To Disk 機能	53
サスPEND機能を使う	54
Save To Disk 機能を使う	57
コラム 節電機能について	58
5. 節電の設定を変更する	59
ご購入時の節電の設定	59
「電源の管理」で設定を変更する	59
「PMSet98」で設定を変更する	60

第4章 オプション機器を活用しよう!

1. オプション機器について	64
オプション機器の紹介	64
オプション機器の接続にあたって	65
2. プリンタを接続する	66
必要なものを用意する	66
プリンタを接続する	67
3. メモリを増やす	70
必要なものを用意する	70
メモリを取り付ける / 取り外す	71
4. マウス / テンキーボードを接続する	77
5. PC カードをセットする	78
気をつけてください~ PC カードを使うとき	78
必要なものを用意する	78
PC カードをセットする	79
PC カードを取り出す	80



6. 携帯電話や PHS を接続する	82
USB/PDC コネクタに接続する	82
PC カードを使って接続する	84
USB/PDC コネクタに携帯電話や PHS を接続して通信する	85
7. 外部ディスプレイを接続する	89
必要なものを用意する	89
外部ディスプレイを接続する	90
ディスプレイの表示を切り替える	91
外部ディスプレイの解像度と発色数について	93
マルチモニタ機能を使う	95
8. CCD カメラを使う	98
必要なものを用意する	98
CCD カメラを接続する	98
FM キャプチャについて	99
コラム「FJV 形式」と「MPEG1 形式」について	103
9. その他のオプション機器を使う	105
ハードディスクを使う	105
MO (光磁気ディスク) ドライブを使う	105

第 5 章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは	108
2. BIOS セットアップの操作のしかた	109
BIOS セットアップを起動する	109
設定を変更する	110
変更内容を取り消す	110
BIOS セットアップを終了する	111
3. ご購入時の設定に戻す	112
4. BIOS セットアップのメニュー詳細	113
メインメニュー	113
詳細メニュー	114
セキュリティメニュー	116
省電力メニュー	118
起動メニュー	119
情報メニュー	120
終了メニュー	120
5. BIOS のパスワード機能を使う	121
パスワード機能を設定する	121
パスワードを入力する	122
パスワードを変更 / 削除する	123

6. BIOS が表示するメッセージ一覧	124
メッセージ一覧	124
メッセージが表示されたときは	129

第6章 技術情報

1. 仕様一覧	132
本体	132
モデム	136
リソース一覧	137
コネクタのピン配列と信号名	138
CRT ディスプレイの走査周波数	139
2. Save To Disk 領域	140
Save To Disk 領域について	140
Save To Disk 領域の容量	140
Save To Disk 領域を変更する	141
3. 赤外線通信について	143
赤外線通信の概要	143
Intellisync	143
制限事項	145
4. モデムについて	146
内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意	146
電話回線の接続口の形状	147
電話回線に電話機を取り付けているとき	148
認証番号の表示	148
5. ドライバのインストール	149
インストールのときに気をつけること	149
ディスプレイドライバをインストールする	150
サウンドドライバをインストールする	154
6. その他の注意事項	156
ACPI について	156
全画面表示の設定について	162
フラットポイントについて	163
インテル® プロセッサ・シリアル・ナンバについて (NE3/500LR, NE3/500L のみ)	163
索引	164

第1章

パソコンの各部はこうなっている

本章では、パソコン本体の各部の名称と働きや、取り扱い上の注意について説明しています。

- | | |
|-------------------------|----|
| 1. 各部の名称と働き | 2 |
| 2. 本パソコンの取り扱い上の注意 | 16 |



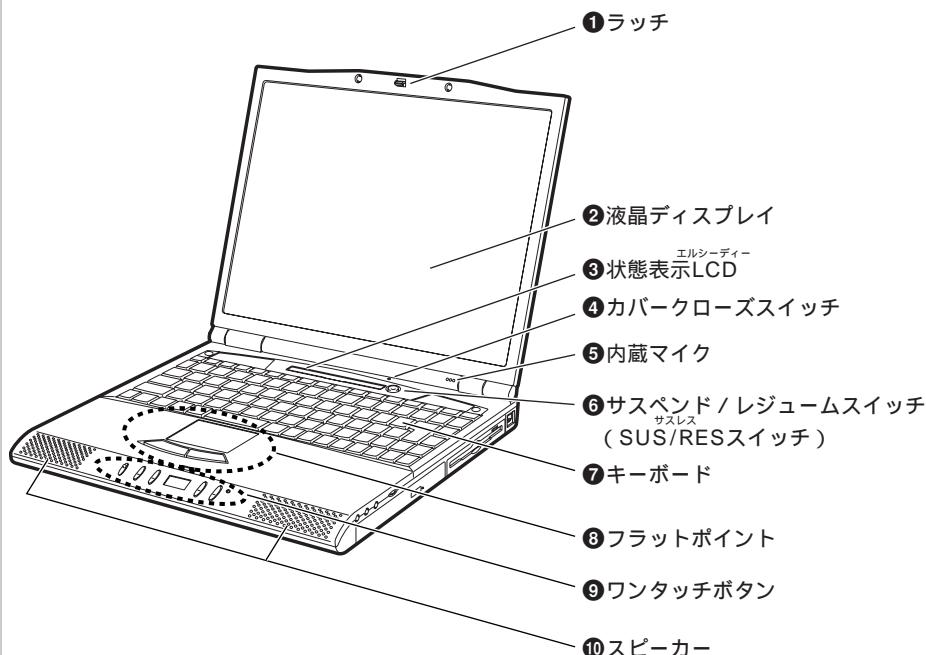
1

各部の名称と働き

パソコン本体各部の名称と働きを、以下の順番で説明します。

- ・本体前面 P.2
- ・本体左側面 P.4
- ・本体右側面 P.6
- ・本体背面 P.8
- ・状態表示 LCD P.10
- ・キーボード P.12
- ・ワンタッチボタン P.15

本体前面



アドバイス 内蔵マイク

- ・カラオケソフトなどマイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリング（キーンと音がなること）が起きることがあります。このようなときは、音量を調節するか市販のヘッドホンやスピーカーをお使いください。「音量を調節する」(☞P.30) ただし、音量を小さくすると、添付のアプリケーション「FAX留守番電話」のスピーカーホン機能を使用したとき、内蔵のスピーカーとマイクでは十分な通話ができないことがあります。このような場合には、市販のヘッドホンとマイクをお使いください。
- ・内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいににくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

フラットポイント

- ・設定は「コントロールパネル」の「マウス」で変更できます。
マウスポインタの速度や、左右ボタンの役割などが変更できます。
詳しくは、画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決！Q & A」をご覧ください。
また、スクロール機能を使用しない場合は、「ジェスチャー」タブの「スクロール機能を使う」のをクリックして□にしてください。
- ・フラットポイントは表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合は、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。

① ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。

液晶ディスプレイを開くときは、ラッチを上方向に引いてロックを外します。

② 液晶ディスプレイ

パソコンの画面を表示します。

③ 状態表示 LCD エルシーディー

パソコンの状態を表示します。

「状態表示 LCD」(☞P.10)

④ カバークローズスイッチ

液晶ディスプレイを閉じたときにサスペンド（一時停止）し、開けたときにレジューム（サスペンドする前の状態に戻す）するためのスイッチです。

「液晶ディスプレイを閉じる」(☞P.55)

⑤ 内蔵マイク

音声（モノラル）を録音するときなどに使います。

⑥ サスペンド / レジュームスイッチ (SUS/RES スイッチ) サスレス

パソコンの電源を入れるためのスイッチです。

また、サスペンド（一時停止）したり、レジューム（サスペンドする前の状態に戻す）するときにも使います。

4秒以上押すと、強制的に電源が切れます。通常は、4秒以上押さないでください。

本書ではSUS/RESスイッチと表記します。

「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.40)

「節電する」(☞P.53)

⑦ キーボード

文字を入力したり、パソコンに命令を与えてします。

「キーボード」(☞P.12)

⑧ フラットポイント

操作面を上下左右になぞることで、マウスポインタを操作できます。操作面の下側と右側になぞると、スクロールできます。

手前のボタンは、マウスの左ボタン、右ボタンに相当します。また、操作面を指でたたくと左ボタンを押したときと同じ機能になります。

⑨ ワンタッチボタン

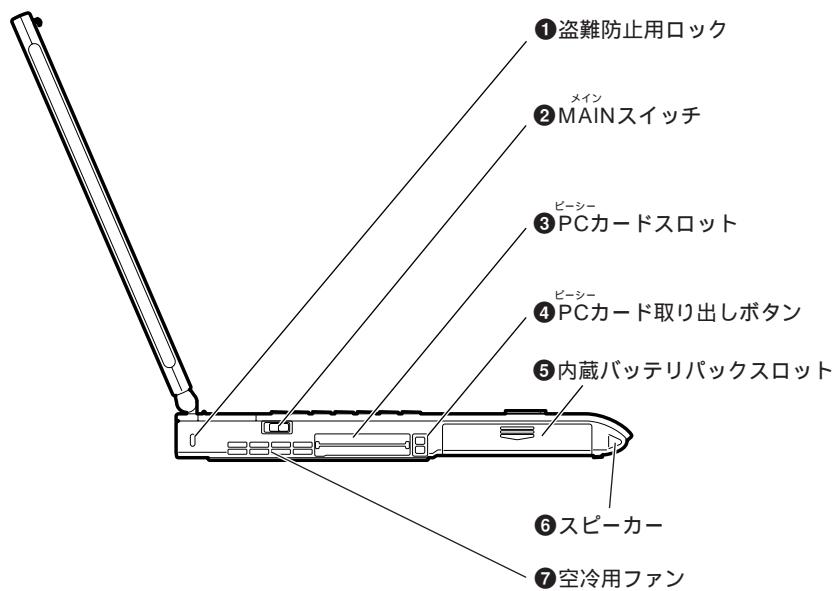
アプリケーションを起動したり、音楽CDを再生したりするボタンです。

「ワンタッチボタン」(☞P.15)

⑩ スピーカー

音声を出力します（ステレオ）。

本体左側面



① 盗難防止用ロック

盗難防止用ケーブルを接続することができます。

Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

商品名 : マイクロセーバー（セキュリティワイヤー）

商品番号 : 0522010

（富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375）

メイン

② MAINスイッチ

本パソコンの主電源スイッチです。

↓側にスライドすると電源が入り、↑側にスライドすると電源が切れます。

本パソコンを携帯するときや長期間使用しないときは、Windows 98 を終了したあと
MAINスイッチを ↓側にスライドして電源を切ってください。

「電源を入れる／電源を切る」（☞P.40）

ビーザー

③ PCカードスロット

別売のPCカードをセットするためのスロットです。

下段が「スロット1」、上段が「スロット2」です。

「PCカードをセットする」（☞P.78）

ビーザー

④ PCカード取り出しボタン

PCカードを取り出すときに押します。

下段がスロット1、上段がスロット2の取り出しボタンです。

「PCカードをセットする」（☞P.78）

⑤ 内蔵バッテリパックスロット

内蔵バッテリパックが装着されているスロットです。

「バッテリで使う」（☞P.46）

⑥ スピーカー

音声を出力します（ステレオ）。

⑦ 空冷用ファン

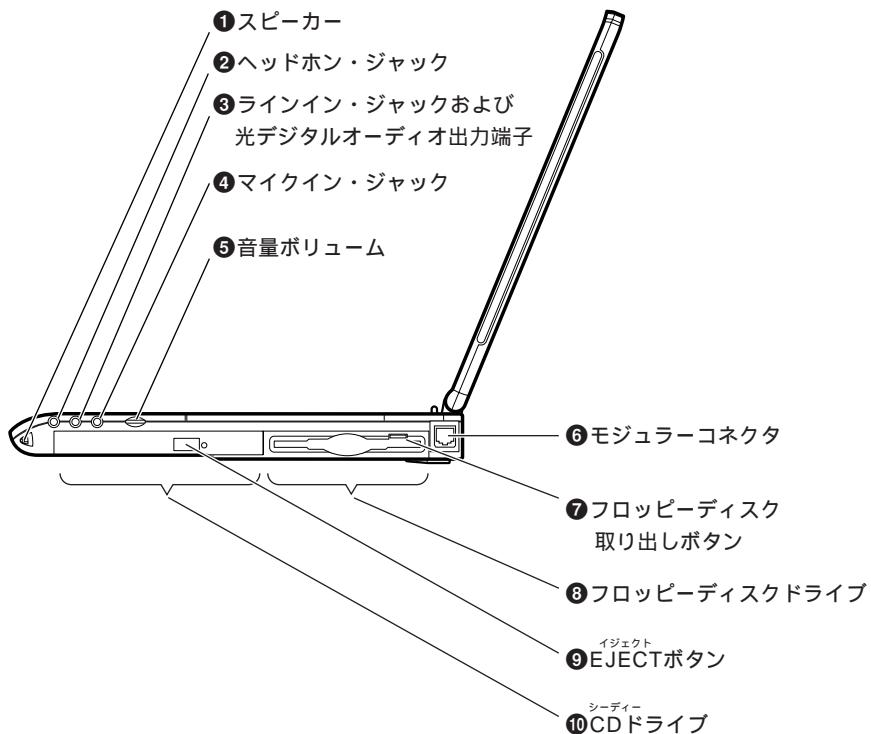
パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのファンです。パソコン本体内部の温度が高くなると、回転します。



注意

故障 空冷用ファンの穴はふさがないでください。
パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となります。

本体右側面



① スピーカー

音声を出力します（ステレオ）。

② ヘッドホン・ジャック

市販のヘッドホンを接続するための端子です（外径3.5mmのミニプラグに対応）。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。



注意

聴力障害 ヘッドホンなどをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害 ヘッドホンなどをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
ヘッドホンなどの破損防止のため、パソコン本体の音量を最小にしておいてから、ヘッドホンなどを接続してください。

③ ラインイン・ジャック / 光デジタルオーディオ出力端子

AV機器の出力端子と接続するための端子です（外径3.5mmのステレオミニプラグに対応）、また、MDプレーヤーなどのデジタル機器にデジタルオーディオを出力する端子としても使用します。

アドバイス

光デジタルオーディオ出力端子

- ・光デジタルオーディオ出力端子から出力されるデジタル音声の周波数は、48kHzに固定されています。接続するデジタル機器（MDプレーヤーなど）にサンプリングレートコンバータが内蔵されていない場合は録音できません。詳しくは、各デジタル機器のマニュアルをご覧ください。
- ・光デジタルオーディオ出力端子にデジタル機器（MDプレーヤーなど）を接続して録音した音声は、デジタル出力できません。光デジタルオーディオ出力端子からの出力には、すべてコピーブロテクトが入ります。
- ・光デジタルオーディオ出力端子とデジタル機器（MDプレーヤーなど）を接続するケーブルには、端子によっていくつかの種類がありますので、ご注意ください。本パソコンの端子は、光ミニプラグ（3.5mmミニプラグ形）です。

重要

光デジタルオーディオ出力端子を使う

光デジタルオーディオ出力端子として使用するときは、以下の設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  ヤマハ DS-XG 設定) をクリックします。
「ヤマハ DS-XG 設定」ウィンドウが開きます。
- 3 「デジタル出力」タブをクリックし、「PCM出力(デジタルソースのみ出力)」の「ON」をクリックして ● します。

端子をのぞきこまないでください

光デジタルオーディオ出力端子からは光が出力されていますので、端子にケーブルを接続するときなどに端子をのぞきこまないでください。

音量ボリュームを下げてください

ラインイン・ジャックにAV機器を接続する際は、いったん音量ボリュームを下げてから接続してください。

不用意に大きな音声が入力されるとスピーカーが破損することがあります。

④マイクイン・ジャック

市販のマイクを接続し、音声（モノラル）を録音するための端子です（外径3.5mmのミニプラグに対応）。

ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

重要

音量ボリュームを下げてください

マイクイン・ジャックに市販のマイクを接続する際は、いったん音量ボリュームを下げてから接続してください。

不用意に大きな音声が入力されるとスピーカーが破損することがあります。

⑤音量ボリューム

音量を調節します。

「音量を調節する」()

⑥モジュラーコネクタ

インターネットやパソコン通信をするとき、添付のモジュラーケーブルを使って電話回線と接続するためのコネクタです。

⑦フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

「フロッピーディスクをセットする／取り出す」()

⑧フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクを差し込み、データを読み書きします。

「フロッピーディスクを使う」()

イージェクト

⑨EJECTボタン

CDをセットしたり、取り出したりするときに押します。

「CDをセットする／取り出す」()

⑩CDドライブ

(NE3/500L, NE3/45LW, NE3/45LにはCD-ROMドライブが、NE3/500LR, NE3/45LRにはCD-R/RWドライブが搭載されています)

CDの情報を読み出したり、音楽CDの再生を行うことができます。

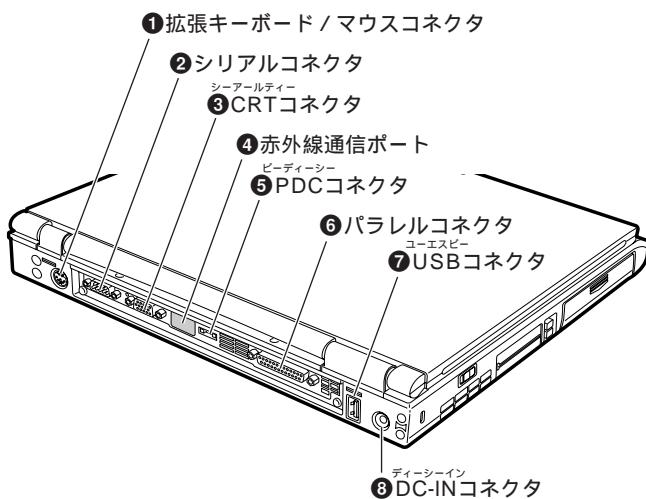
また、CD-R/RWドライブでは、次のこともできます。

- ・CD-Rへのデータの書き込みや再生（読み出し）

- ・CD-RWへのデータの書き込みや消去、再生（読み出し）

「CDを使う」()

本体背面



- ① 拡張キー ボード / マウス コネクタ**
別売のテンキー ボードやマウスを接続するためのコネクタです。
「マウス / テンキー ボードを接続する」（☞ P.77）
- ② シリアル コネクタ**
RS-232C 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。
- ③ CRT コネクタ**
シーアールティー
別売の CRT ディスプレイなどの外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。
「外部ディスプレイを接続する」（☞ P.89）
- ④ 赤外線通信ポート**
赤外線通信の送受光部です。
赤外線通信ポートは、添付のアプリケーション「Intellisync」でお使いになれます。
「赤外線通信について」（☞ P.143）
- ⑤ PDC コネクタ**
ピーディー シー
携帯電話と接続するためのコネクタです。
「USB/PDC コネクタに接続する」（☞ P.82）
- ⑥ パラレル コネクタ**
別売のプリンタなどを接続するためのコネクタです。
「プリンタを接続する」（☞ P.66）
- ⑦ USB コネクタ**
ユーズビー シーシーディー
別売の CCD カメラなど、USB 規格対応の機器を接続するためのコネクタです。
「USB/PDC コネクタに接続する」（☞ P.82）
「CCD カメラを使う」（☞ P.98）
- ⑧ DC-IN コネクタ**
ディーシー イン
添付されている AC アダプタでコンセントに接続するためのコネクタです。
「AC アダプタで使う」（☞ P.44）

アドバイス

オプション機器の接続

各コネクタにオプション機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

用語

ユーズビー
USB

機器の接続に関する規格です。USB 規格に対応した機器には、マウス、キーボード、プリンタ、モデム、スピーカーなどがあります。

状態表示 LCD

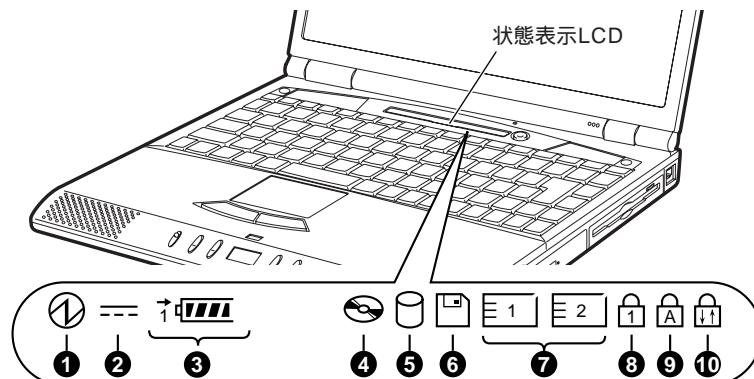
アドバイス

電源を切っているとき

状態表示 LCD の全表示が消えます。ただし、充電中は  と  が表示され、充電が完了すると消えます。

電源を入れると状態表示 LCD にマークが表示されます。

これらのマークは、バッテリの残量など、本パソコンのさまざまな状態を表しています。



① サスレス SUS/RES 表示 ()

本パソコンで作業ができる状態のときに表示されます。サスPEND (一時停止) 状態のときは点滅します。

「サスPEND機能を使う」([P.54](#))

② エーシー AC アダプタ表示 ()

AC アダプタから電力が供給されているときに表示されます。

③ バッテリ装着表示 (1)

内蔵バッテリパックが取り付けられていることを示しています。電源を入れると表示されます。

・バッテリ充電表示 ()

バッテリの充電中に表示されます。

バッテリが熱くなっていたり、冷えていたりするときは、バッテリの保護機能が働き、適温になるまでバッテリの充電を開始しないことがあります。この場合は  が点滅します。

・バッテリ残量表示 ()

バッテリの残量が表示されます。

「残量を確認する」([P.48](#))

④ CD アクセス表示 ()

CD-ROM などにアクセスしているときに表示されます。

⑤ ハードディスクアクセス表示 ()

内蔵のハードディスクにアクセスしているときに表示されます。

⑥ フロッピーディスクアクセス表示 ()

フロッピーディスクにアクセスしているときに表示されます。

重要

や が表示されているときの注意

状態表示 LCD に  や  が表示されているときは、サスPENDしないでください。ハードディスクやフロッピーディスクのデータが壊れるおそれがあります。

⑦ PC カードアクセス表示 ( )

PC カードにアクセスしているときに表示されます。

 は、PC カードスロット 1 (下段) の PC カードにアクセスしているときに表示されます。

 は、PC カードスロット 2 (上段) の PC カードにアクセスしているときに表示されます。

⑧ Num Lock 表示 ()

テンキーモードになっているときに表示されます。 を押して、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。

「テンキーモードについて」(➡ P.14)

⑨ Caps Lock 表示 ()

英大文字固定モード (英字を大文字で入力する状態) になっているときに表示されます。

 を押しながら  を押し、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。

⑩ Scroll Lock 表示 ()

 を押しながら  を押して、画面がスクロールしないように設定すると表示されます。もう一度押すと表示が消え、画面がスクロールするようになります。アプリケーションにより、機能が異なることがあります。

CD アクセス表示) の点滅を止める

この設定を行うと、自動で起動する CD をセットしても、自動起動の機能は働きません。また、CD をセットしていないときは、状態表示 LCD に  が表示されなくなります。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2  (システム) をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

デバイスの一覧が表示されます。

4 「CD-ROM」の左の  をクリックします。

CD-ROM デバイス名が表示されます。

5 CD-ROM デバイス名をクリックし、「プロパティ」をクリックします。

「(CD-ROM デバイス名) のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

6 「設定」タブをクリックし、「挿入の自動通知」をクリックし、 を  にします。

7 「OK」をクリックします。

8 「システムのプロパティ」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

9 表示されるメッセージに従って、再起動します。

アドバイス CD-ROM デバイス名

次のいずれかが表示されます。

- ・ NEC CD-ROM DRIVE:
282
- ・ TOSHIBA CD-ROM
XM-7002B
- ・ MATSHITA UJDA310

自動起動の機能を使うとき

手順 6 で「挿入の自動通知」をクリックし、 を  にします。

キー ボード

キーボードは、パソコンに対しての指示やデータを入力するために使います。各キーの機能は、使用するアプリケーションによって異なる場合があります。ここでは一般的なキーの機能を説明します。

主なキーの名称とはたらき



① エスケープ キー

現在の作業を取り消して、1つ前に行った作業に戻るときなどに使います。

② ファンクションキー

アプリケーションごとにいろいろな機能が割り当てられています。

③ Num Lk (Num Lock) キー

Num Lock を押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。

「テンキーモードについて」(☞P.14)

④ インサート Insert キー

文字を入力するときに、既存の文字列に上書きするか、挿入するかを切り替えるときに使います。

④ Prt Sc (Print Screen) キー

画面表示をビットマップファイルとして保存するときに [Fn] を押しながら押します。

[Alt] と [Fn] を押しながら押すと、アクティブウィンドウだけをビットマップファイルにできます。

キーを押したあとにペイントソフト（「ペイント」など）を起動し、「編集」メニューの「貼り付け」を選ぶことなどで編集、保存、印刷ができます。

⑤ デリート Delete キー

カーソルの右側にある1文字を削除するときに使います。また、選択されているファイルやアイコンを削除します。

[Ctrl] と [Alt] を押しながら [Delete] を押すと、応答のなくなったアプリケーションを終了したり、本パソコンを強制的に再起動したりできます。

- ⑥ バック スペース
Back Space キー**
カーソルの左側にある 1 文字を削除するときに使います。
- ⑦ 半角 / 全角キー**
文字を入力するときに、半角と全角を切り替えたりします。
- ⑧ キャップスロック
Caps Lock 英数キー**
[Shift] を押しながら [CapsLock] を押すと、英大文字固定モードになります。もう 1 度押すと解除されます。
- ⑨ シフト
Shift キー**
他のキーと組み合わせて使います。[Shift] を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。
- ⑩ ホーム
Home キー**
カーソルを行の最初に移動します。
[Ctrl] を押しながら [Home] を押すと、カーソルが文書の最初に移動します。
- ⑪ ページアップ
Pg Up (Page Up) キー**
前のページに切り替えるときに使います。
- ⑫ エンター
Enter キー**
入力した文字を確定するときなどに使います。
- ⑬ ページダウン
Pg Dn (Page Down) キー**
次のページに切り替えるときに使います。
- ⑭ エンド
End キー**
カーソルを行の最後に移動します。
[Ctrl] を押しながら [End] を押すと、カーソルが文書の最後に移動します。
- ⑮ カーソルキー**
カーソルを上下左右に移動するときに使います。
- ⑯ エフエヌ
Fn キー**
本パソコン独自の機能で、他のキーと組み合わせて使います。たとえば次のような使いかたがあります。
 • [Fn] を押しながら [F3] を押すと、スピーカーの ON と OFF が切り替わります。
 • 800 × 600 ドット以下の解像度のときに [Fn] を押しながら [F5] を押すと、全画面表示と通常表示が切り替わります。
 「全画面表示の設定について」(☞ P.162)
 • [Fn] を押しながら [F6] を押すごとに、8 段階まで液晶ディスプレイを暗くすることができます。
 • [Fn] を押しながら [F7] を押すごとに、8 段階まで液晶ディスプレイを明るくすることができます。
 「液晶ディスプレイの明るさを変更する」(☞ P.35)
 • 外部ディスプレイを接続したときに [Fn] を押しながら [F10] を押すと、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先が切り替わります。

**⑯ コントロール
Ctrl キー**

他のキーと組み合わせて使います。

**⑰ ウィンドウズ
Windows キー**

「スタート」メニューを表示するときに使います。

**⑲ オルト
Alt キー**

他のキーと組み合わせて使います。

**⑳ アプリケーション
Application キー**

選択した項目のポップアップメニューを表示するときに使います。

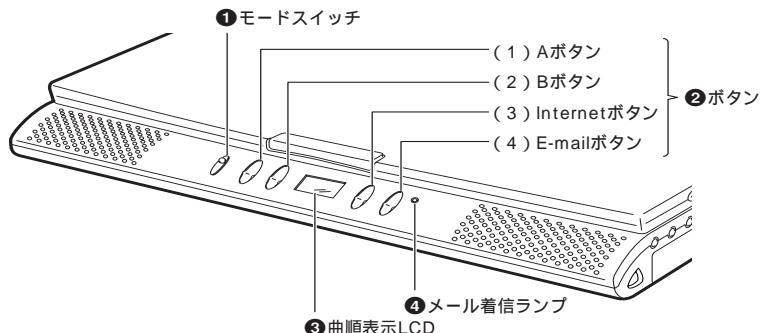
フラットポイントの右ボタンの代わりになります。

テンキーモードについて

文字キーの一部をテンキー(数字の入力を容易にするキー配列)として使えるように切り替えた状態を「テンキーモード」といいます。[Num Lk]を押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示LCDに \square が表示されます。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面に文字が刻印されています。ただし、別売のテンキーボードを接続しているときは、テンキーモードは無効となります。

ワンタッチボタン

ワンタッチボタンを押すだけでアプリケーションを起動したり、音楽CDを再生したりできます。



アドバイス

CD-Playerについて

音楽CD以外のCDでは、ワンタッチボタンを使用しないでください。

モードスイッチ (①) の位置	ボタン (②)			
	(1)	(2)	(3)	(4)
Application (上)	A	B	Internet	E-mail
Lock (中)	○	すべてのボタンが無効になります。不用意にボタンが押されることを防ぎます。		
CD Player (下)	○	停止 / 取り出し	再生 / 一時停止	曲戻し
				曲送り

① モードスイッチ

モードスイッチの位置により、ボタンの機能が切り替わります。

アドバイス

ワンタッチボタンを使用しないときは

モードスイッチを Lock (中) の位置にしてください。

② ボタン

ボタンを押すと、以下の機能が使えます。これらの機能はディスプレイを閉じた状態でも使えます。

- ・アプリケーションを起動します。
- ・新着Eメールをチェックして、受信します。
- ・音楽CDを聴くとき、ボタンだけで操作できます。

「ワンタッチボタンを使う」(☞P.26)

③ 曲順表示LCD

再生中の音楽CDの曲番号などを表示します。

「曲順表示LCDの表示」(☞P.29)

④ メール着信ランプ

E-mailボタンを押したとき、新着Eメールがある場合は点滅します。

受信したEメールがサーバーに残っている場合は、新着Eメールがなくても点滅します。新着Eメールがないときにメール着信ランプが点滅しないようにするときは、Eメールをサーバーに残さないように、メールソフトで設定してください。

☞『使いこなす本 インターネット編』の「メールを受け取ろう」



2

本パソコンの取り扱い上の注意

ここでは以下のことを説明します。

- ・取り扱い上の注意 ➡ P.16
- ・廃棄について ➡ P.16

取り扱い上の注意

本パソコンの取り扱いについて

- ・衝撃や振動を与えないでください。
- ・分解しないでください。
- ・電源を入れたままの状態で持ち運ばないでください。

次の場所での使用および保管は避けてください

- ・極端に温度変化が激しい場所
- ・直射日光のあたる場所や発熱器具に近い場所
- ・衝撃や振動の加わる場所
- ・湿気やほこりの多い場所
- ・磁石や強い磁界を発生する装置に近い場所

電源を切るとき

電源を切るときは、いきなり MAIN スイッチを手前（側）にスライドさせないでください。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(➡ P.42)

液晶ディスプレイの特性について

次の状態は故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・TFT 液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上（解像度 1024×768 の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- ・液晶ディスプレイはその特性上、温度変化で明るさや色合いに多少のむらが発生することがあります。

廃棄について

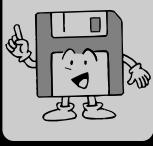
- ・液晶ディスプレイ内のバックライト（蛍光管）の中には、水銀が含まれています。本パソコンの廃棄については、地方自治体の条例、または規則に従ってください。
- ・バッテリを廃棄するときは、バッテリがショートしないよう、バッテリ端子をテープ等で絶縁してください。また、廃棄については地方自治体の条例、または規則に従ってください。

第2章

基本的な機能を使おう

本章では、基本的な機能の操作方法などについて説明しています。

1. フロッピーディスクを使う	18
2. CD を使う	21
3. ワンタッチボタンを使う	26
4. 音量を調節する	30
5. 画面の解像度や発色数を変える	32
6. 液晶ディスプレイの明るさを変更する	35
7. お手入れのしかた	36



1

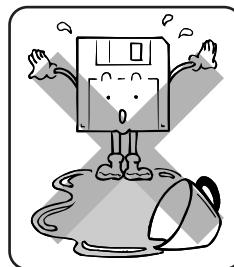
フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクはプログラムやデータを保存するためのものです。
ここでは以下のことを説明します。

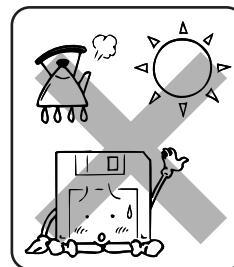
- ・気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき P.18
- ・使えるフロッピーディスクは？ P.19
- ・フロッピーディスクをセットする／取り出す P.19
- ・フロッピーディスクのデータを守るには P.20

気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき

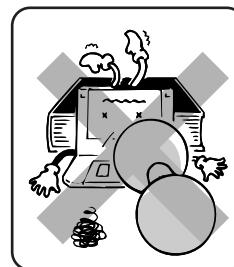
フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。データが保存できなくなったり、読み出せなくなることがあります。



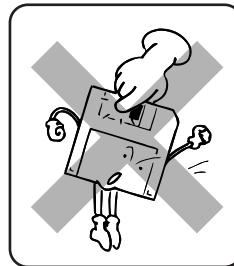
コーヒーなどの液体
がかからないように
注意してください。



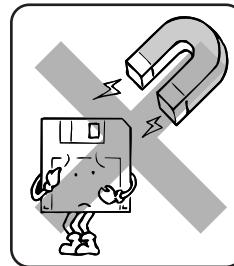
湿度の高い場所や直
射日光のある場所
には置かないでくだ
さい。



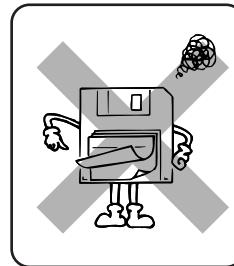
曲げたり、重い物を
のせたりしないでく
ださい。



シャッタを開けて、中
のディスク面に触れな
いでください。



磁石など磁気を帶び
たものを近づけない
でください。



ラベルを重ねて貼ら
ないでください。
ドライブから取り出
せなくなります。

B(バイト)とは、パソコンで扱うデータの大きさの単位のことです。単位は、MBの他にKB(キロバイト)やGB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1MBは約100万バイト、1GBは約10億バイトのデータの大きさを表します。

アドバイス

フォーマットの注意

- ・フォーマットした機種やソフトウェアが違うと、データを読み出せないことがあります。
- ・他社製のパソコンでフォーマットした場合は、お使いになれないことがあります。

フォーマット済みのフロッピーディスクをお買い求めになるとき

「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものを、お買い求めください。

使えるフロッピーディスクは?

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、次のような種類、記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる3モードドライブです。

・2HD フロッピーディスク

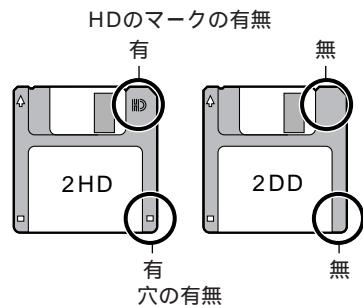
記憶容量は1.44MBまたは1.2MBです。フォーマットにより異なります。

なお、本パソコンでは、1.2MBにフォーマットすることはできません。1.2MBのフロッピーディスクは、データの読み出しや書き込みのみできます。

・2DD フロッピーディスク

記憶容量は、2HD(1.44MB)の半分の720KBです。

2種類のフロッピーディスクの外見上の違いは、右図のとおりです。



フロッピーディスクは、お使いになる前にフォーマットが必要です。

☞画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決! Q&A」

フロッピーディスクをセットする/取り出す



注意



フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

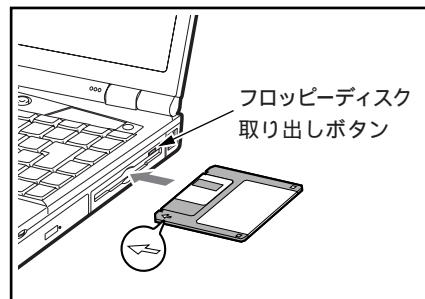
セットする

1 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.40)

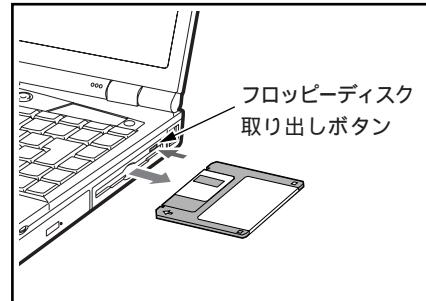
2 フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに差し込みます。

矢印のある面を上向きにして、フロッピーディスク取り出しボタンが「カシャ」と飛び出るまで押し込んでください。



取り出す

- 1 状態表示 LCD に  が表示されていないことを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。
フロッピーディスクが少し飛び出します。



重要

フロッピーディスクを取り出すときの注意

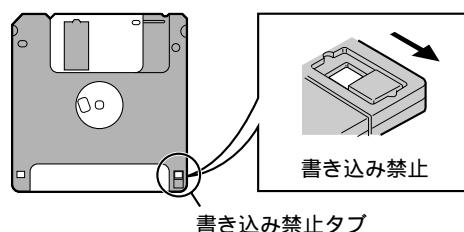
状態表示 LCD に  が表示されているときにフロッピーディスクを取り出すと、フロッピーディスク内のデータが壊れるおそれがあります。

フロッピーディスクのデータを守るには

ここでは保存してあるデータを守るために、フロッピーディスクを書き込み禁止にする方法と、書き込み禁止を解除する方法を説明します。

保存してあるデータの変更や削除をしたくないとき

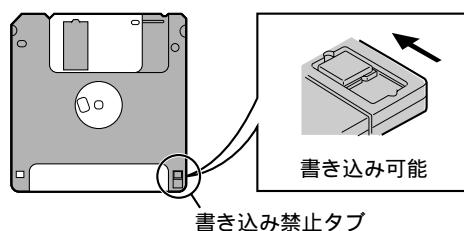
フロッピーディスクの裏面にある書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が開いた状態にします。
書き込み禁止になります。データを読み出すことはできます。



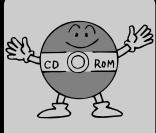
書き込み禁止タブ

データを書き込みたいとき

フロッピーディスクの裏面にある書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。
書き込み可能になります。



書き込み禁止タブ



2 CD を使う

CDには、音楽CDのほかパソコンで扱えるデータやプログラムを保存したCD-ROMや、書き込みのできるCD-R、CD-RW(NE3/500LR, NE3/45LRのみ使用可)などがあります。

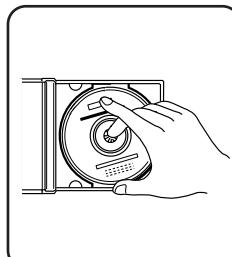
ここでは以下のことを説明します。

- ・気をつけてください～CDを使うとき P.21
- ・使えるCDは？ P.22
- ・CDをセットする／取り出す P.23

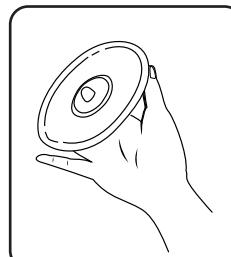
アドバイス

CDが結露したとき

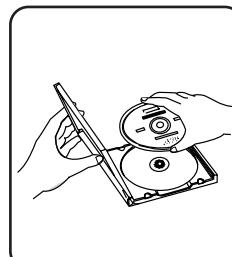
CDの表面に水滴がついて、データを読み出せないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かってキズを付けないように水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。



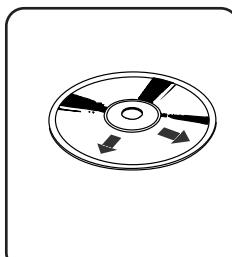
ケースからCDを取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



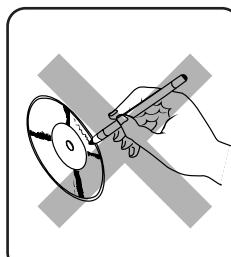
データ面(裏面)に触れないようにCDのふちを持つようにしてください。



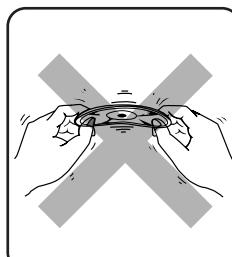
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



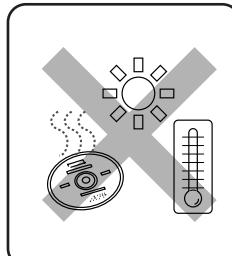
データ面が汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてください。



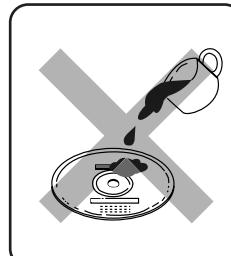
ラベルやシールを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



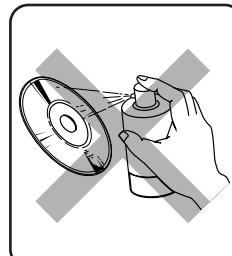
曲げたり、重いものをのせたりしないでください。



高温や低温になる場所を避けて保管してください。



水などの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどを使わないでください。

使える CD は?

本パソコンでは、以下の CD がご利用になります。

- ・CD-ROM : プログラムなどパソコンで見るための情報が入った CD です。
- ・音楽 CD : 音楽が記録されている CD のことです。パソコンの世界では、CD-ROM と区別するために音楽 CD と呼んでいます。
- ・ビデオ CD : 音声と動画が記録された CD です。
- ・フォト CD : 写真を記録した CD です。市販のものだけでなく、自分で撮った写真のネガを写真屋さんなどでフォト CD にしてもらうこともできます。

また、CD-R/RW ドライブを内蔵している NE3/500LR, NE3/45LR では、CD-R や CD-RW を使用することができます。

- ・CD-R : データの書き込みが可能な CD です。大切なデータのバックアップをとったりするときに便利です。
- ・CD-RW : 繰り返しデータの書き込みや消去が行える CD です。

CD-R および CD-RW は、以下のディスクの使用を推奨します。

CD-R		CD-RW	
富士通サプライ品	CD-R63(63分)/0241230 CD-R74(74分)/0241220	富士通サプライ品	CD-RW74/0241410
太陽誘電	CD-R63/570T CD-R74/670T	リコー	CD-RW TYPE 74
三井化学	GOLD-63 GOLD-74	三菱化学	RW74Q1

富士通サプライ品は、富士通コワーコ株式会社の取り扱い品です。

お問い合わせ : 03-3342-5375

気をつけてください ~ CD-R/CD-RW を使うとき

- ・状態表示 LCD に が表示されているときは、振動や衝撃を与えないでください。
- ・Windows98 の CD の自動起動が有効に設定されていると、正しく書き込みができないライターアプリケーションがあります。アプリケーションの指示に従って、Windows98 の CD の自動起動機能を設定してください。
- Easy CD Creator および DirectCD をお使いの場合は、CD の自動起動機能は有効のままでご使用ください。
- ・CD-R や CD-RW に書き込み中は、パソコン本体の電源を切ったり、リセットしたり、EJECTボタンを押したりしないでください。また、[Ctrl] と [Alt] を押しながら [Delete] を押す操作もしないでください。
- ・CD-R や CD-RW に書き込み中は、モードスイッチ () を Lock (中) の位置にしてください。
- ・書き込み中に CD-R や CD-RW のディスク面に傷を検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- ・CD-R や CD-RW に書き込みを行うときは、「コントロールパネル」ウィンドウの「電源の管理」をクリックし、「システムスタンバイ」を「なし」にしてください。
- ・CD-R や CD-RW への書き込みには、多くの電力を使用します。AC アダプタを取り付けてお使いください。
- ・CD-R や CD-RW をセットすると、自動的に DirectCD が起動することがあります。DirectCD を使用しないときは、終了してください。
- ・CD-R や CD-RW に書き込み中は、他のアプリケーションを起動しないでください。他のアプリケーションを起動している場合は、そのアプリケーションを終了させてください。

初期化が始まります。初期化が終了したら、「閉じる」をクリックします。

CD-R/CD-RW ヘデータを書き込む

アドバイス

DirectCDのPDFマニュアルを見るには

DirectCDをインストールしてください。

☞『トラブル解決Q&A』の「アプリケーションのインストールと削除」

Easy CD CreatorとDirectCDを使ってデータを書き込みます。各アプリケーションの使いかたについては、PDFマニュアルをご覧ください。

・Easy CD Creator

「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」「Adaptec Easy CD Creator 4」の順にマウスポインタを合わせ、「クイックリファレンス」をクリックします。

・DirectCD

「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」「Adaptec DirectCD」の順にマウスポインタを合わせ、「クイックリファレンス」をクリックします。

PDFマニュアルの使いかたは、『使いこなす本 ソフト編』の「付録3 PDFマニュアルの使いかた」をご覧ください。

CDをセットする／取り出す



注意



けが CDをセットおよび取り出すときには、トレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

セットする

■ 重要

ACアダプタを取り付けてください

CDに頻繁にアクセスする場合は、ACアダプタを取り付けてください。

「ACアダプタを取り付ける」(☞P.44)

CDをセットするときの注意

トレー中央の突起にCDの穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとはめ込んでください。

きちんとはめ込まないと、CDがドライブ内部で外れて、トレイやドライブの内部、およびCDを破損する原因となることがあります。

セットすると自動で始まるCDを使用しているときは、パソコン本体を

サスペンドさせないでください

セットすると自動で始まるCDを使用しているときにパソコン本体をサスペンド(一時停止)させると、レジューム時(サスペンドする前の状態に戻したとき)にCDが二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、CDのアプリケーションを一度すべて終了し、CDをセットし直してください。

アドバイス

トレーが出ないとき

モードスイッチ(☞P.15)をCD Playerの位置にスライドして□合ボタンを押してから、EJECTボタンを押してください。

MAINスイッチを切っている（側にスライドしている）ときは、MAINスイッチを↓側にスライドして電源を入れてください。

状態表示LCDに☞が点滅しているとき

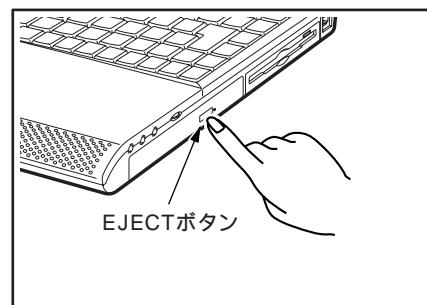
☞が点滅中にEJECTボタンを押してもかまいません。

点滅は止めることもできます。

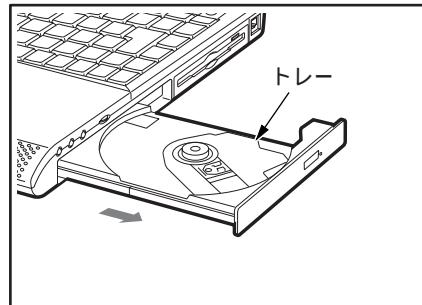
「☞(CDアクセス表示)の点滅を止める」(☞P.11)

1 EJECTボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。

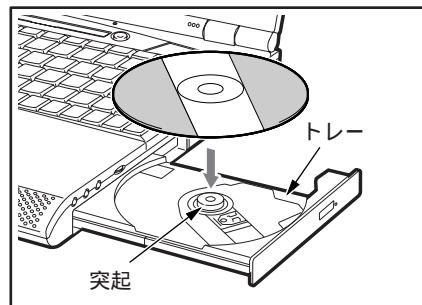


2 トレーを静かに引き出します。



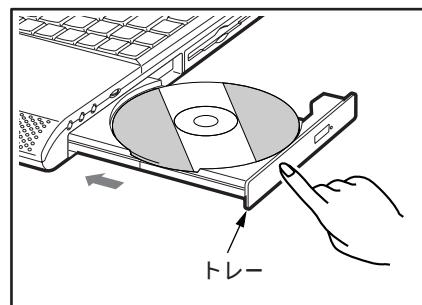
3 トレーを支えながら、CD をセットします。

CD のレーベル面を上にして、トレー中央の突起に CD の穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、CD が取り出せなくなることがあります。



4 トレーを静かに押し込みます。

CD をセットしてから、本パソコンで使えるようになるまで、約 10 秒かかります。

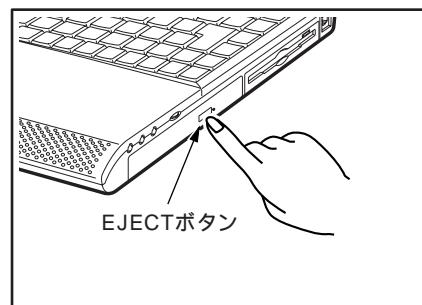


取り出す

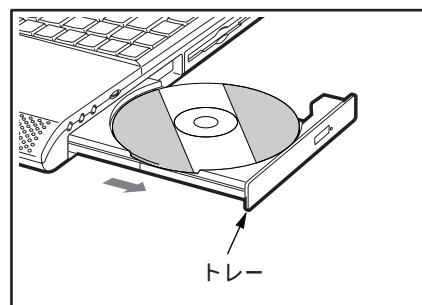
1 CD を利用しているアプリケーションがあれば終了します。

2 EJECT ボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。



3 トレーを静かに引き出します。



アドバイス

マルチセッションディスクについて

マルチセッションディスクをお使いのときは、通常の CD をお使いになるときと比べ、セットしてから使用可能となるまで、多少時間がかかることがあります。

アドバイス

トレーが出ないとき

モードスイッチ([P.15](#))を CD Player の位置にスライドして口合ボタンを押してから、EJECTボタンを押してください。

MAIN スイッチを切っている(側にスライドしている)ときは、MAIN スイッチを側にスライドして電源を入れてください。

状態表示 LCD に 

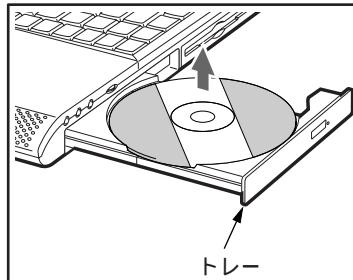


点滅は止めることもできます。

「P.11)

4 トレーを手で支えながら CD を取り出します。

トレー中央の突起を押さえながら、CD のふちを持ち上げてください。



トレー

5 トレーを静かに押し込みます。

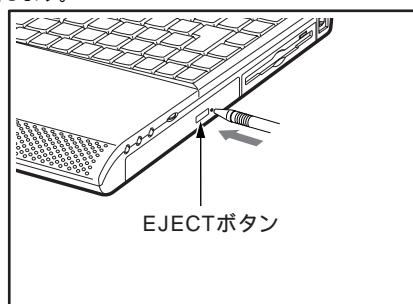
■ アドバイス

CD が取り出せなくなったとき

- 1 デスクトップの (マイコンピュータ) をクリックします。
- 2 「マイコンピュータ」ウィンドウの (E:) にマウスポインタを合わせます。
- 3 フラットポイントの右ボタンを 1 回押します。
- 4 「取り出し」をクリックします。
トレーが少し飛び出します。
- 5 トレーを静かに引き出し、CDを取り出します。

上記の方法で取り出せないときは、次の方法で取り出します。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.42)
- 2 EJECT ボタンの右側にある穴に、ボールペンの先などを差し込みます。
トレーが少し飛び出します。



- 3 トレーを静かに引き出し、CDを取り出します。

3 ワンタッチボタンを使う

ここでは以下のことを説明します。

- ・アプリケーションを起動する P.26
- ・アプリケーションの割り当てを変更する P.27
- ・音楽CDを聴く P.28

重要

次のときはワンタッチボタンが使えません

- ・Windows98が起動していて、FM便利ツールを終了しているとき



- ・MAINスイッチを切っている（側面にスライドしている）とき

モードスイッチをCD Player（下）にしているとき

音楽CD以外のCDでワンタッチボタンを使用しないでください。

パソコンの動作が不安定になる場合があります。

特に□△ボタンを押すとEJECT機能（取り出し機能）が働き、エラー画面が表示される場合があります。



アプリケーションを起動する

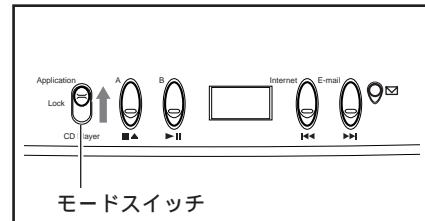
アドバイス

Internetボタン、
E-mailボタンを使うとき

あらかじめプロバイダと契約し、インターネットに接続できるように設定してください。

『使いこなす本 インターネット編』

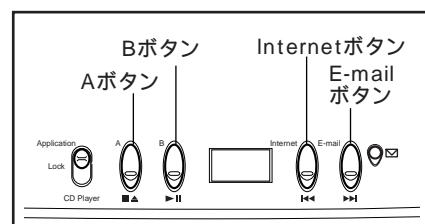
- 1 モードスイッチをApplicationの位置（上）にスライドします。



- 2 起動するアプリケーションのボタンを押します。

本パソコンご購入時は、次のアプリケーションが設定されています。

- ・Aボタン
インターネット無料体験
『取扱説明書』
- ・Bボタン
ワープロ ワープロのマニュアル
- ・Internetボタン
Internet Explorer（ブラウザ）『使いこなす本 インターネット編』
- ・E-mailボタン
らくらくメールBOX（メールソフト）『使いこなす本 インターネット編』



Windows 98 を終了またはサスPENDしているとき

- E-mail ボタンを押すと、新着 E メールをチェックします。
新着 E メールがあるときは、メールソフトが起動し、新着 E メールを受信します。
新着 E メールがないときは、自動的に Windows 98 を終了またはサスPENDし、元の状態に戻ります。
- Windows 98 の終了時、またはサスPEND時にボタンを無効にするには、「FM 便利ツール」の「かんたんボタンの設定」で「スタンバイ状態のときでも、このボタンを有効にする」または「電源が切れているときでも、このボタンを有効にする」をクリックして を にしてください。

アプリケーションの割り当てを変更する

各ボタンに割り当てられているアプリケーションは、変更することができます。

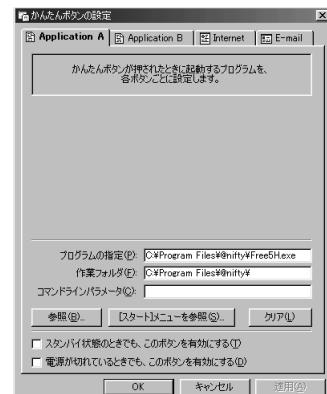
- 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「FM 便利ツール」、「1. 便利ツール」の順にマウスポインタを合わせ、「2. かんたんボタン」をクリックします。

「かんたんボタンの設定」ウィンドウが表示されます。

- 変更するボタンのタブをクリックします。

各タブは次のボタンに対応しています。

- 「Application A」タブ
A ボタン
- 「Application B」タブ
B ボタン
- 「Internet」タブ
Internet ボタン
- 「E-mail」タブ
E-mail ボタン



アドバイス

E-mail ボタンを変更するとき

割り当てたいメールソフトがメールソフトの一覧にないときは、「ボタンが押されたら、メールソフトを起動する」の「その他」をクリックして を にし、手順 4 へ進みます。

また、この場合、Eメールを自動的に受信するには、メールソフト側で「起動時に新着メールを自動的に取りこむ」設定をする必要があります。

設定のしかたについては、各メールソフトのヘルプをご覧ください。

- A ボタンまたは B ボタンを変更するとき

→ 手順 4 (P.28)

- Internet ボタンを変更するとき

「ボタンが押されたら、他のプログラムを起動する」をクリックし、 を にします。

→ 手順 4 (P.28)

- E-mail ボタンを変更するとき

使うメールソフトをクリックし、 を にします。→ 手順 7 (P.28)

 **アドバイス**
C C D カメラの
シャッターボタンを
割り当てる場合
手順5で「FMキャプチャ」
をクリックし、手順6のあとに「コマンドラインパラ
メータ」に「/s」と入力し
てください。

- 4 「[スタート]メニューを参照」をクリックします。
- 5 表示される一覧で、割り当てるアプリケーション名をクリックします。
- 6 「OK」をクリックします。
- 7 他のボタンも変更する場合は、手順2～6を繰り返します。
- 8 「OK」をクリックします。

音楽CDを聴く

音楽CDは、ワンタッチボタンで操作できます。Windows98が終了しているときでも、音楽CDを再生できます。



重要

ACアダプタを取り付けてください

音楽CDを再生するときは、必ずACアダプタを取り付けてください。

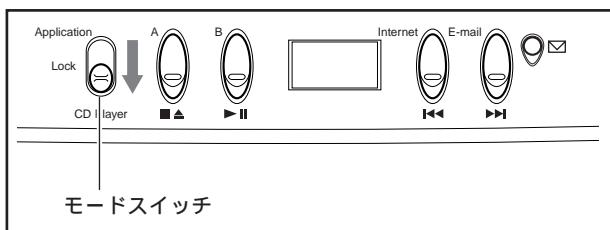
音量についての注意

Windows98が終了しているときやサスペンドしているときは、Windows98の音量つまり([P.30](#))の設定が無効になり、音量が大きくなります。音量ボリューム([P.7](#))をしぼってから再生を始め、好みの音量に調節してください。

「音量ボリュームで調節する」([P.30](#))

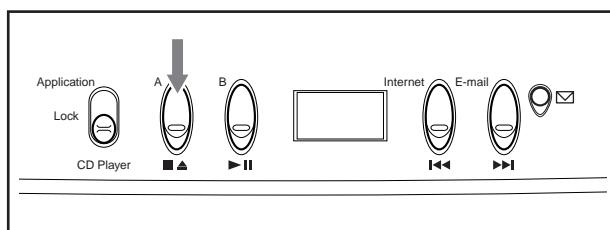
 **アドバイス**
Windows98が起
動しているとき
ワンタッチボタンで音楽
CDを操作するときは、
「CDプレーヤー」を使用し
てください。

- 1 モードスイッチをCD Playerの位置(下)にスライドします。



- 2 □△ボタンを押します。

トレーが少し飛び出します。



- 3 音楽CDをセットします。

「セットする」の手順3、4([P.24](#))

▶ Windows98が起動しているとき

「CDプレーヤー」が起動し、音楽が始まります。

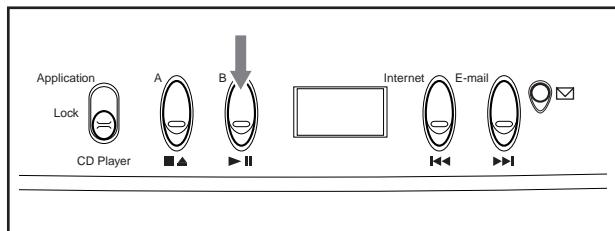
☞手順5(P.29)

▶ Windows98が終了しているときやサスペンドしているとき

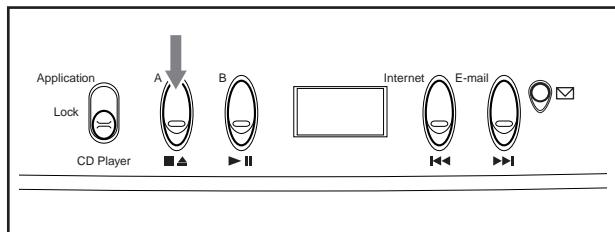
☞手順4(P.29)

4 ▶■ボタンを押します。

音楽が始まります。



5 音楽CDの再生を停止するときは、□△ボタンを押します。



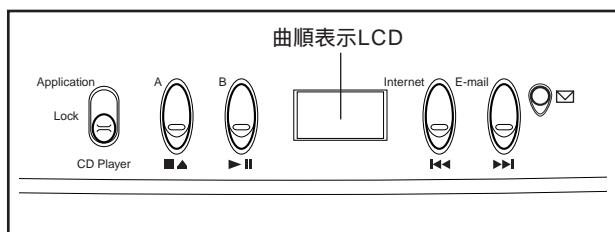
その他の操作

曲戻しや曲送りなどの操作は次のボタンを使います。

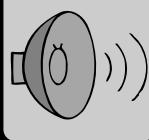
ボタン	□△	▶■	◀◀	▶▶
操作	停止 取り出し	再生 一時停止	曲戻し	曲送り

曲順表示LCDの表示

音楽CDの曲番号などが次のように曲順表示LCDに表示されます。



数字	再生中の曲番号を示します。停止しているときは先頭の曲番号が表示されます。
- -	音楽CDがセットされていないとき、または音楽CDの読み取り中に表示されます。
SP	節電状態になっているときに表示されます。□△ボタンを押すと音楽CDを操作できる状態に戻ります。



4

音量を調節する

アドバイス

ハウリング(キーンと音がなること)が起きたとき

マイクをお使いのときに音量ボリュームを上げすぎると、スピーカーとマイクの間でハウリングが起きる場合があります。音量を小さくするか、ヘッドホンあるいは外付けマイクを使用してください。

また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」(消音)してください。

☞画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決! Q&A」

スピーカーの確認

音量ボリューム、または音量つまみで音量を調節しても音が出ない場合は、スピーカーの状態を確認してください。[Fn]を押しながら[F3]を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。ビーと音がした場合はスピーカーがON、音がない場合はスピーカーがOFFになります。

☞(音量)を表示したいとき

タスクバーが表示されない場合は、[画]を押してください。タスクバーが表示されます。

音量を調節するには、パソコン本体の「音量ボリューム」で調節する方法と、画面に「音量つまみ」を表示させて調節する方法の2種類があります。

それぞれの音量調節は相互に関係しています。音量ボリュームでは、音量つまみで設定した音量を最大音量とし、その範囲で音を大きくしたり、小さくしたりできます。

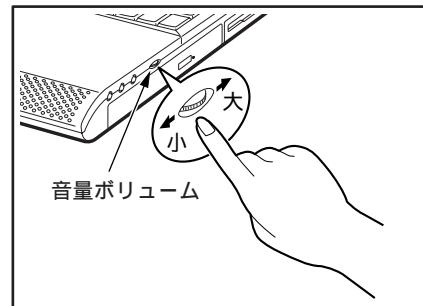
ここでは以下のことを説明します。

・音量ボリュームで調節する ➡ P.30

・音量つまみで調節する ➡ P.30

音量ボリュームで調節する

- 1 音量ボリュームを回して適当な音量に調節します。



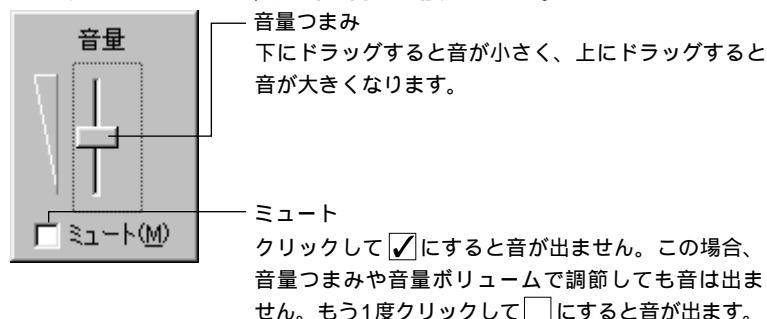
音量つまみで調節する

音量ボリュームで調節しても、音が大きすぎたり、小さすぎたりするときは、音量つまみで調節します。

- 1 タスクバーの(音量)をクリックします。



- 2 音量つまみをドラッグして、適当な音量に設定します。



- 3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量を調節する画面が消えます。

さまざまな音量を設定したいとき

音声入出力時のバランスや音量などを設定したい場合は、「ボリュームコントロール」ウィンドウでそれぞれの音量を調節します。

「ボリュームコントロール」ウィンドウを表示するには、次の2つの方法があります。

アドバイス

「ボリュームコントロール」ウィンドウの一部を表示できないことがあります

解像度によっては、「ボリュームコントロール」ウィンドウの一部を表示できないことがあります。

表示されていない項目を表示させるには

「ボリュームコントロール」ウィンドウまたは「レコーディングコントロール」ウィンドウで、次のように設定します。

1 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。

2 「表示するコントロール」で、項目をクリックして を付けます。

項目が「ボリュームコントロール」ウィンドウまたは「レコーディングコントロール」ウィンドウに表示されます。

「ボリュームコントロール」ウィンドウを表示する

・タスクバーの  (音量) をダブルクリックします。

・「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」「アクセサリ」「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックします。

再生時の音量設定

「ボリュームコントロール」ウィンドウの「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックして表示されるウィンドウで「再生」をクリックして  にし、「OK」をクリックすると、再生時の音量を設定できます。なお、  が付いている項目は、ご購入時には表示されないように設定されています。

項目	設定する音量
ボリュームコントロール	パソコン全体の音量
ライン	ラインイン・ジャックに接続した機器の音量
CD オーディオ	音楽 CD の音量
Wave アウト	Wave ファイルの音量
Midi アウト	MIDI の音量
3D ワイド	3D 効果の調整
レコーディングモニター	録音時のモニター音
レガシー	レガシーオーディオの音量
ZV ポート	I²S の音量
PC ピープ	未使用
テレフォン	モデムの音量
マイクロフォン	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの音量
ビデオ	未使用
AUX	未使用
モノアウト	モデムへマイクの音を出力する際の音量

録音時の音量設定

「ボリュームコントロール」ウィンドウの「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックして表示されるウィンドウで「録音」をクリックして  にし、「OK」をクリックすると、「レコーディングコントロール」ウィンドウが表示され、録音時の音量を設定できます。なお、  が付いている項目は、ご購入時には表示されないように設定されています。

項目	設定する音量
マイクロフォン	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの録音音量
ライン	ラインイン・ジャックに接続した機器の録音音量
CD オーディオ	音楽 CD の録音音量
テレフォン	モデムの録音音量
ビデオ	未使用
AUX	未使用
ステレオアウト	録音全体（ステレオ）の録音音量
モノアウト + マイク	未使用

5 画面の解像度や発色数を変える

ここでは以下のことを説明します。

- ・液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数 [P.32](#)
- ・液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える [P.33](#)

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数

アドバイス

ご購入時の解像度

1024 × 768 ドット

ご購入時の発色数

High Color(16ビット)

High Color、True Color の発色数

High Color(16ビット)は
65536色、True Color
は1677万色です。

別売の外部ディスプレーを接続したとき

別売の外部ディスプレイを接続した場合に表示できる解像度と発色数については、「外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数」([P.93](#))をご覧ください。

解像度	発色数
640 × 480 ドット	256 色 1 High Color(16ビット) 1 True Color(24ビット) 1 2 True Color(32ビット) 1 2
800 × 600 ドット	256 色 1 High Color(16ビット) 1 True Color(24ビット) 1 2 True Color(32ビット) 1 2
1024 × 768 ドット 3	256 色 High Color(16ビット) True Color(24ビット) 2 True Color(32ビット) 2
1280 × 1024 ドット 4	256 色 High Color(16ビット) True Color(24ビット) 2
1600 × 1200 ドット 4	256 色 High Color(16ビット)

- 1 800 × 600 ドット以下の解像度に設定すると、液晶ディスプレイ全体に拡大表示する全画面表示になります。
この設定は変更することができます。
「全画面表示の設定について」([P.162](#))
- 2 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、True Color(24または32ビット)に表示されます。
- 3 1024 × 768 ドットの解像度で3Dアクセラレータを使用する場合、High Color(16ビット)表示に設定してください。
- 4 1280 × 1024 ドット以上の解像度に設定すると、仮想スクリーンモードでの表示となります。仮想スクリーンモードでは、1024 × 768 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示します。

アドバイス 解像度や発色数を変更するとき

- ・設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。
- ・アプリケーションによっては、発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。アプリケーションの動作環境を確認し、発色数を変更してください。

アドバイス 解像度を設定する場合

手順 5 ~ 15 の操作をして解像度を変更したことがある場合、2 回目以降は手順 16 へ進んでください。ただし、ディスプレイドライバをインストールし直したあとは、手順 5 へ進んでください。

液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える

重要

アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックしてチェックマークを外すとアクティブデスクトップが解除され、Windows 98 の標準画面に切り替わります。

解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

解像度や発色数を変更するときの注意

一時的に画面表示が乱れることがあります、故障ではありません。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (画面) をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 設定する項目に合わせて、手順 5 または手順 16 へ進みます。
 - ④ 解像度を 1024×768 ドット以下に設定する場合 ← 手順 16 (P.34)
 - ④ 解像度を 1280×1024 ドット以上に設定する場合 ← 手順 5
 - ④ 発色数を変更する場合 ← 手順 16 (P.34)
- 5 「詳細」をクリックします。
- 6 「モニタ」タブをクリックします。
- 7 「変更」をクリックします。
- 8 「デバイスドライバ更新ウィザード」ウィンドウの「次へ」をクリックします。
- 9 「特定の場所にあるすべてのドライバの……」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。
- 10 「すべてのハードウェアを表示」をクリックして  にします。
- 11 以下のように選びます。
製造元：（標準モニタの種類）
モデル：Super VGA 1600×1200

12 「次へ」をクリックします。

「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というメッセージが表示されます。

13 「次へ」をクリックします。

「ハードウェア用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されます。

14 「完了」をクリックします。

15 「閉じる」をクリックします。

16 発色数や解像度を変更します。

アドバイス

「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたとき

1 「OK」をクリックします。

メッセージが表示されます。

2 「はい」をクリックします。

3 手順 16 へ進みます。

アドバイス

「互換性の警告」ウィンドウが表示されたとき

「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」をクリックして にし、「OK」をクリックしてください。



(この画面は、機種により若干異なります)

17 「OK」をクリックします。

ウィンドウが表示されます。ウィンドウが表示されないときは、自動的に設定が変更されます。

18 「OK」または「はい」をクリックします。

ウィンドウが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。画面の設定が変更されます。



液晶ディスプレイの明るさを変更する

液晶ディスプレイの明るさは、「PMSet98」またはキーボード操作で8段階に調節できます。

なお、パソコンを使っている途中での明るさの変更は、キーボード操作のみ有効です。ここでは以下のことを説明します。

- ・明るさを設定する P.35
- ・設定した明るさを変更する P.35

明るさを設定する

「PMSet98」の「電源依存」タブの「LCD バックライト」(P.61)で設定できます。ACアダプタで使っているときと、バッテリで使っているときの明るさを、それぞれ設定できます。

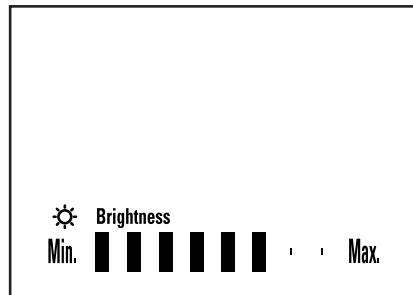
設定した明るさを変更する

アドバイス キーボードで明るさを変更するときの注意

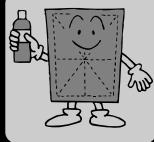
再起動したり、サスPENDからレジュームしたり、ACアダプタの取り付けや取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。しばらくしてから、変更してください。

PMSet98 を終了しているとき

明るさを示すインジケータが表示されません。



パソコンを再起動したり、サスPENDからレジュームしたり、ACアダプタの取り付けや取り外しを行ったときは、「PMSet98」で設定した明るさに戻ります。



7

お手入れのしかた

パソコンを快適にお使いいただくため、パソコンのお手入れのしかたを説明します。お手入れのしかたは、ディスプレイ、フロッピーディスクドライブなど、各部によって違います。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

ここでは以下のことを説明します。

- ・パソコン本体／ディスプレイ／キーボードのお手入れ P.36
- ・フロッピーディスクドライブのお手入れ P.36

パソコン本体／ディスプレイ／キーボードのお手入れ

重要

お手入れ前の確認

感電やけがの原因になることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

- ・パソコン本体のMAINスイッチを切って（側面スライドして）ください。
- ・ACアダプタを取り付けている場合は、取り外してください。
- ・プリンタなど、取り付けている機器の電源を切り、パソコンから取り外してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りのときには、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは別売のクリーニングフロッピーを購入して、3ヵ月に1回はヘッド（データを読み書きする部分）のクリーニングを行ってください。長い期間使用していると、ヘッドは汚れます。ヘッドが汚ると、記憶したデータを正常に読み書きできなくなります。



けが フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

用意するもの

商品名 : クリーニングフロッピィマイクロ

商品番号 : 0212116

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375)

お手入れのしかた

1 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.40)

2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、 「MS-DOS プロンプト」をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。

3 「C:¥WINDOWS >」のあとに `c:¥fjuty¥clndsk 0` と入力し、[Enter] を押します。

「clndsk」と「0」の間は、[] を1回押してください。「0」は、数字のゼロです。

4 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブに差し込み、[Enter] を押します。

「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングが始まります。

クリーニングが終了すると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。

5 「C:¥WINDOWS >」のあとに `exit` と入力し、[Enter] を押します。

Windows98の画面に戻ります。

6 状態表示LCDに [] が表示されていないことを確認し、フロッピーディスク 取り出しボタンを押して、クリーニングフロッピーを取り出します。



第3章

電源と節電機能を賢く使おう

本章では、電源の入れかたと切りかた、ACアダプタやバッテリでの使いかた、節電のしかたについて説明しています。

1. 電源を入れる / 電源を切る	40
2. ACアダプタで使う	44
3. バッテリで使う	46
4. 節電する	53
5. 節電の設定を変更する	59



1

電源を入れる / 電源を切る

ここでは以下のことを説明します。

- ・電源を入れてパソコンを使おう (☞P.40)
- ・今日はおしまい。電源を切るには? (☞P.42)

電源を入れてパソコンを使おう

■ 重要

電源を入れるときの注意

- ・フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがセットされているときは、取り出してください。
「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(☞P.19)
- ・電源を切ったあと、すぐに電源を入れないでください。再度電源を入れる場合は、10秒ほど待ってから電源を入れてください。
- ・電源が入っている状態で、持ち運んだり、衝撃を与えたましください。
- ・長時間お使いになるときや通信をするときなど、大量の電力を消費する作業を行うときは、必ずACアダプタを取り付けてください。

バッテリで使うときの注意

以下の場合は、バッテリが充電されていないことがあります。バッテリ残量を確認し、必要に応じてバッテリを充電してください。

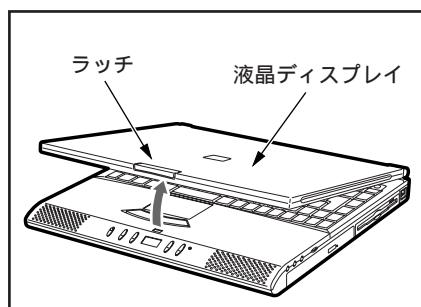
- ・本パソコンをご購入のとき
 - ・約1ヶ月以上充電していないとき
- 「残量を確認する」(☞P.48)
- 「充電する」(☞P.46)

1 ACアダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」(☞P.44)

2 液晶ディスプレイを開きます。

前面のラッチを上方向に引いてロックを外し、パソコン本体に手を添えて液晶ディスプレイを持ち上げます。



■ 重要

液晶ディスプレイを閉じないでください

本パソコンを使用している際、BIOSセットアップの「省電力」メニューの「詳細設定」で、「カバークローズサスPEND」を「使用しない」に設定している場合は(☞P.119)、本パソコンの液晶ディスプレイを閉じないでください。

アドバイス

Windows98 が起動しないときは

電源を入れても Windows98 が起動しないときは、次の点を確認してください。

- ・ ACアダプタを取り付けているとき

ACアダプタが正しく取り付けられているかを確認してください。

「ACアダプタを取り付ける」(☞P.44)

- ・バッテリで使うとき
バッテリの残量が十分にあるかを確認してください。

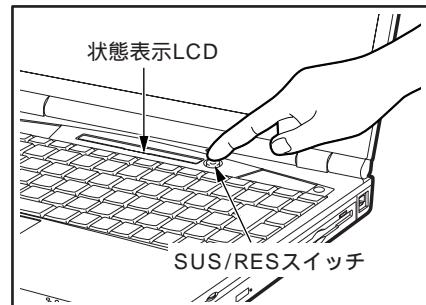
「残量を確認する」(☞P.48)

- ・画面にメッセージが表示されているとき
「BIOSが表示するメッセージ一覧」(☞P.124)

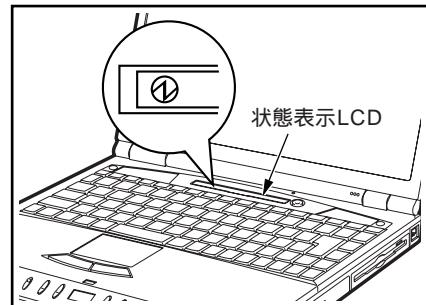
以上の点を確認しても Windows98 が起動しない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご相談ください。

☞『トラブル解決Q&A』の「第8章 それでも解決できないときは」

3 SUS/RESスイッチを押します。



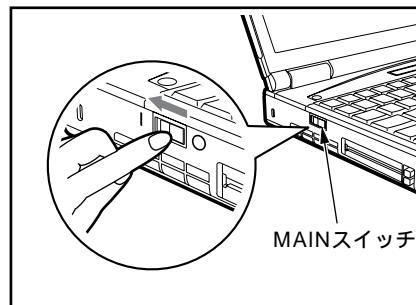
状態表示LCDに①が表示されます。
しばらくすると、Windows98が起動します。



アドバイス

MAINスイッチを切っているとき

MAINスイッチを切っている（側面スライドしている）ときは、MAINスイッチを|側にスライドして電源を入れてください。

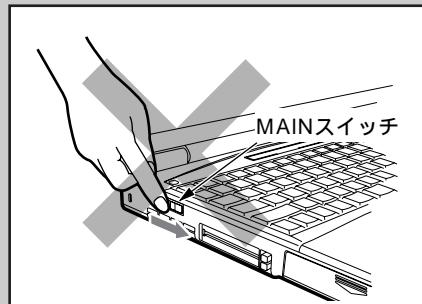


今日はおしまい。電源を切るには？

■ 重要

電源を切るときの注意

- ・ 状態表示 LCD に①(SUS/RES 表示)が点灯または点滅しているときは、MAINスイッチを手前(側)にスライドしないでください。
- ・ 必ず、以下の手順で Windows の終了処理を行ってください。
Windows の終了処理を行うと、自動的に電源が切れます。



- ・ 電源を切る前に、フロッピーディスクや CD を取り出してください。
「フロッピーディスクをセットする／取り出す」(☞P.19)
「CD をセットする／取り出す」(☞P.23)

1 それまで行っていた作業を終了します。

必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 状態表示 LCD に①や②が表示されていないことを確認します。

3 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。





アドバイス

フロッピーディスク
がセットされている
とき

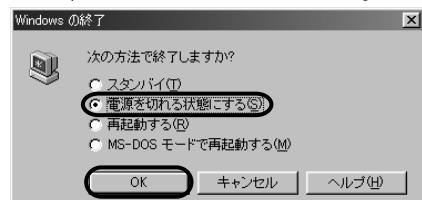
フロッピーディスクドライ
ブにフロッピーディスクが
セットされていると、「フ
ロッピーディスクが入っ
ています。Windows の終了
を中止します。」という
メッセージが表示されま
す。

その場合は、「閉じる」をク
リックし、フロッピーディ
スクを取り出して、手順 3
から操作し直してくださ
い。

続けてバッテリを充 電するとき

電源を切ったあとに AC ア
ダプタを取り外す必要はあ
りません。

4 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。



しばらくすると、状態表示 LCD の①が消え、電源が自動的に切れます。

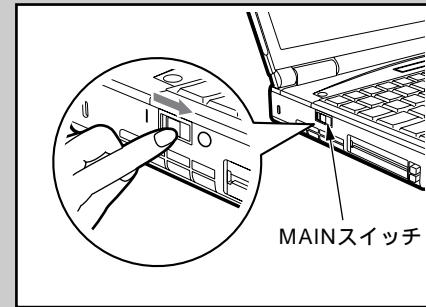


重要

次のときは MAIN スイッチを切って（側面にスライドして）ください

- ・ 携帯するとき
- ・ オプション機器の取り付けや取り外しを
するとき
- ・ バッテリ残量が気になるときや節電し
たいとき
- ・ 本パソコンを長い間使わないとき

MAIN スイッチを切っているときは、ワン
タッチボタンが使えません。



5 AC アダプタを取り外します。

「AC アダプタを取り外す」(☞P.45)



2

AC アダプタで使う

本パソコンを長時間使うとき、またはバッテリを充電するときは、ACアダプタを取り付けて、コンセントに接続します。パソコン本体を持ち運ぶときや、長期間本パソコンを使わないときは、ACアダプタを取り外します。

ここでは、以下のことを説明します。

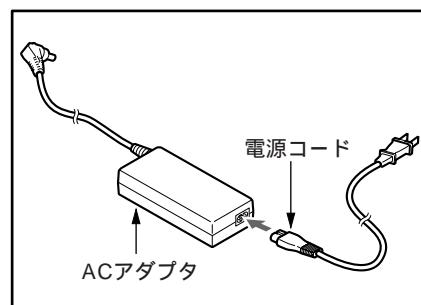
- ・ ACアダプタを取り付ける ➡ P.44
- ・ ACアダプタを取り外す ➡ P.45

ACアダプタを取り付ける

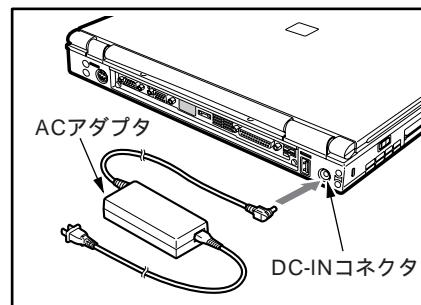
感電
危険

近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

1 電源コードを接続します。



2 ACアダプタをDC-INコネクタに接続します。



3 ACアダプタをコンセントに接続します。

ACアダプタを取り外す

■ 重要

バッテリは充電されていますか

本パソコンを使っている途中でACアダプタを取り外すときは、バッテリが充電されているか確認してください。

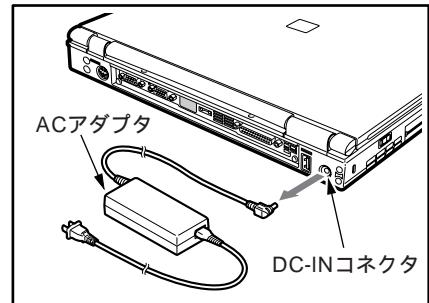
「残量を確認する」(☞P.48)

次の場合は必ずACアダプタを取り外してください

- ・オプション機器の取り付けや取り外しを行うとき
- ・本パソコンを長期間使わないとき

1 ACアダプタをコンセントから抜きます。

2 ACアダプタをDC-INコネクタから取り外します。





3 バッテリで使う

外出先でパソコンを使う場合など、コンセントがないときには、バッテリで使うことができます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・充電する [P.46](#)
- ・充電時間 [P.47](#)
- ・稼動時間 [P.48](#)
- ・残量を確認する [P.48](#)
- ・気をつけてください～バッテリを使うとき [P.50](#)
- ・内蔵バッテリパックを交換する [P.51](#)

■ 重要

充電してください

本パソコンご購入時、または1ヶ月以上充電していないときは、充電してからお使いください。

次の場合は必ずACアダプタを取り付けてください

- ・パソコン通信やインターネットを利用するとき
- ・ハードディスクやCDを頻繁に使用するとき
- ・LANカードを使用するとき
- ・『トラブル解決Q&A』の「第3章 パソコンをふりだしにもどす」の作業を行うとき
- ・音楽CDを再生しているとき

充電する

■ 重要

バッテリを充電するときの注意

- ・バッテリを満充電にするときは、バッテリ充電表示(状態表示LCDの→■■■■の→)が消えるまで、ACアダプタを外さないでください。満充電になると→が消えます。
- バッテリ残量表示が■■■■になっていても、左端が点滅(※■■■■)していたり、→が表示されているあいだは、満充電ではありません。
- ・バッテリが約90%以上残っているときは、充電を開始しないことがあります。
「残量を確認する」([P.48](#))
- ・充電は、周囲の温度が5～35℃の範囲で行ってください。周囲の温度が高すぎたり低すぎたりする場合は、得られる電池容量が低くなります。また、周囲の温度が高いとき(35℃以上)は、バッテリの劣化の原因にもなります。
- ・本パソコンを使った直後は、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働き、適温になるまで充電を開始しないことがあります。



アドバイス

MAINスイッチを手前(側)にスライドしているとき

充電が完了してしばらくすると、状態表示LCDの表示が消えます。その場合は、本パソコンの電源を入れて、バッテリ充電表示を確認してください。

充電中もパソコンを使えます

バッテリの充電中もパソコンを使うことができます。ただし、充電にかかる時間は、パソコンを使っていないときよりも長くなります。

作業の途中で画面が真っ暗になったとき

フラットポイント([P.3](#))に触れてください。フラットポイントに触れても元の状態に戻らないときは、SUS/RESスイッチ([P.3](#))を押してください。

本パソコンは、バッテリで使うときに節電するよう、あらかじめ設定されています。一定時間パソコンの操作をしないと、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。

MAINスイッチを手前(側)にスライドしているとき

充電が完了してしばらくすると、状態表示LCDの表示が消えます。その場合は、本パソコンの電源を入れて、バッテリ充電表示を確認してください。

充電中もパソコンを使えます

バッテリの充電中もパソコンを使うことができます。ただし、充電にかかる時間は、パソコンを使っていないときよりも長くなります。

作業の途中で画面が真っ暗になったとき

フラットポイント([P.3](#))に触れてください。フラットポイントに触れても元の状態に戻らないときは、SUS/RESスイッチ([P.3](#))を押してください。

本パソコンは、バッテリで使うときに節電するよう、あらかじめ設定されています。一定時間パソコンの操作をしないと、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。

1 ACアダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」([P.44](#))

ACアダプタを取り付けると充電が始まり、バッテリ充電表示(状態表示LCDの→の→)が表示されます。

バッテリ充電表示は、充電が完了すると消えます。

バッテリ残量表示は、充電が完了すると点滅(から点灯()に変わります。

「残量を確認する」([P.48](#))

「充電時間」([P.47](#))

状態表示LCDに何も表示されなかつたり、バッテリ充電表示が表示されないときは、充電が完了しています。

2 バッテリ充電表示(状態表示LCDの→の→)が消えたことを確認します。

3 ACアダプタを取り外します。

「ACアダプタを取り外す」([P.45](#))

充電時間

充電時間は、電源の状態によって異なります。

新品で充電残量0%のバッテリパックを満充電(100%充電されている状態)にする場合は、次の表のとおりです。

電源の状態	状態表示LCD	パソコンの状態	充電に必要な時間
電源入	①が点灯	動作中	NE3/500LR, NE3/45LR :約9時間 NE3/500L, NE3/45LW, NE3/45L :約8時間
	①が点滅 (一時停止)状態	サスPEND	NE3/500LR, NE3/45LR :約4時間 NE3/500L, NE3/45LW, NE3/45L :約3.5時間
電源切	①が消灯	終了	

サスPENDについては「サスPEND機能を使う」([P.54](#))をご覧ください。

稼動時間

新品のバッテリを満充電にした場合、本パソコンの稼動時間の目安は以下のとおりです。

NE3/500LR, NE3/45LR	約2.2時間
NE3/500L, NE3/45LW, NE3/45L	約2.0時間

使用条件：オプション機器を取り外している状態で、Windows98の「電源の管理」やBIOSセットアップで節電の設定を有効にしているとき（ご購入時は有効）

本パソコンをバッテリで使える時間（稼動時間）は、バッテリの状態や作業内容によって異なります。

パソコン通信など、大量の電力を消費する作業を行うと、バッテリの稼動時間は短くなります。

■ 重要

バッテリの稼動時間について

- 周囲の温度が低いときは、周囲の温度が高いときに比べて充電と放電の能力が低くなるため、バッテリの稼動時間が短くなります。
- バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリの稼動時間が短くなります。稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリパックに交換してください。

「内蔵バッテリパックを交換する」（P.51）

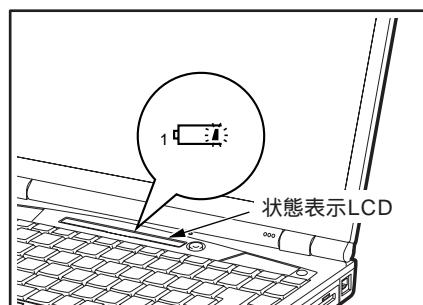
残量を確認する

アドバイス
バッテリ充電表示
(状態表示LCDの
[■■■]の↑)について
バッテリが充電中であることを示しています。充電が完了すると矢印は消えます。

バッテリの残量がなくなると、作業中のデータが保存できなくなることがあります。本パソコンをバッテリで使っているときは、状態表示LCDでバッテリ残量を確認してください。

バッテリ残量表示

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に状態表示LCDで確認できます。バッテリ残量表示は、充電をするタイミングの目安になります。



重要

バッテリ残量表示について

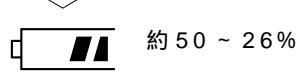
状態表示LCDに表示されるバッテリ残量表示は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充電回数など）により、実際のバッテリ残量と異なる表示をする場合があります。



約 100 ~ 76%



約 75 ~ 51%



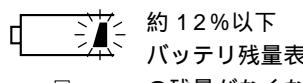
約 50 ~ 26%



約 25 ~ 13%

充電してください。

「充電する」( P.46)

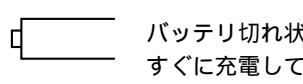


約 12%以下

バッテリ残量表示が点滅し、警告音が鳴ります。しばらくするとバッテリの残量がなくなります。

この状態になったときは、すぐにサスPEND（一時停止）してください。

「LOWバッテリ状態」( P.50)



バッテリ切れ状態（充電残量 0%）

すぐに充電してください。

「充電する」( P.46)

バッテリの異常表示

バッテリが正しく充電されないときは、（バッテリ残量表示）が点滅します。
バッテリを取り付け直してください。

取り付け直しても表示される場合は、バッテリの異常です。新しいバッテリに交換してください。

「内蔵バッテリパックを交換する」( P.51)

LOW バッテリ状態

アドバイス

次の場合は警告音が聞こえません

- スピーカーをOFFにしているとき
[H]を押しながら[F3]を押すと、スピーカーのONとOFFが切り替わります。ビーと音がした場合はスピーカーがON、音がない場合はスピーカーがOFFになります。
- 音量ボリュームを小さくしているとき

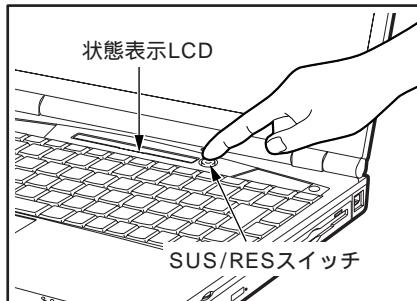
バッテリの残量が約12%以下の状態を「LOWバッテリ状態」といいます。この状態になると、状態表示LCDのバッテリ残量表示の右端が点滅(■)し、警告音が鳴ります。

このままにしておくと、バッテリが切れて、作業中のデータが保存できなくなることがあります。LOWバッテリ状態になったときは、必ず以下の操作をしてください。

1 SUS/RESスイッチを押します。

しばらくすると状態表示LCDに①が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消え、サスPENDします。

「サスPEND機能を使う」(☞P.54)



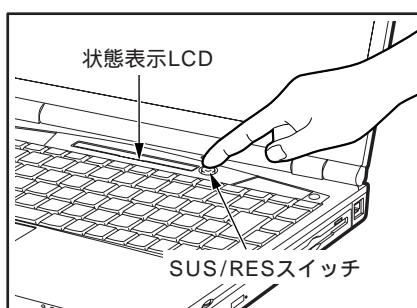
2 ACアダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」(☞P.44)

ACアダプタを取り付けると、充電が始まります。

3 SUS/RESスイッチを押します。

状態表示LCDの①が点滅から点灯になり、しばらくすると画面が表示され、パソコンがレジュームし(サスPENDする前の状態に戻り)ます。



重要

LOWバッテリ状態になったときの注意

- LOWバッテリ状態のまま放置すると、自動的にサスPENDします。ただし、ハードディスクなどデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでサスPENDしません。バッテリの残量にご注意ください。
- LOWバッテリ状態のまま使い続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかにACアダプタを取り付けてください。

「ACアダプタを取り付ける」(☞P.44)

気をつけてください～バッテリを使うとき

自然放電します

- 長期間(約1ヵ月以上)本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリパックを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリパックの寿命が短くなります。
- バッテリは、本パソコンに取り付けたままで使用にならなくとも少しづつ自然放電してきます。バッテリは使う直前に充電することをお勧めします。

消耗品です

バッテリは消耗品です。長期間使用すると充電能力が低下します。バッテリの稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。

また、パソコンを長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度は、パソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。

■ 重要

以下の場合はバッテリを取り外してください

万一、本パソコンから発熱や発煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちにACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いて、内蔵バッテリパックを取り外してください。

内蔵バッテリパックを交換する

バッテリの稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。新しいバッテリは、以下のものをお買い求めください。

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375)

- ・ NE3/500LR, NE3/45LR をお使いの方
商品名 : Li-ion バッテリパック FM-22
商品番号 : 0643790
- ・ NE3/500L, NE3/45LW, NE3/45L をお使いの方
商品名 : Li-ion バッテリパック FM-21
商品番号 : 0643780



警告



- ・ 内蔵バッテリパックの取り付けや取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。
- ・ バッテリは、大変デリケートな製品です。交換などで取り付けや取り外しを行う場合は、誤って落下させるなど、強い衝撃を与えないでください。
また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリは使用しないでください。
感電や火災、破裂の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.42)をご覧になり、MAINスイッチを切って（側にスライドして）ください。

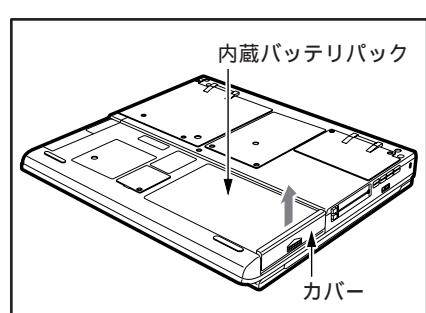
2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 ACアダプタを取り外します。

「ACアダプタを取り外す」(☞P.45)

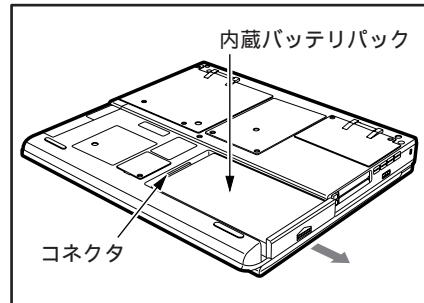
4 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

5 内蔵バッテリパックのカバーを上にスライドします。

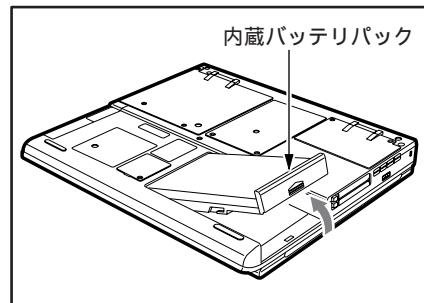


6 内蔵バッテリパックをスライドします。

内蔵バッテリパックが、コネクタから外れます。

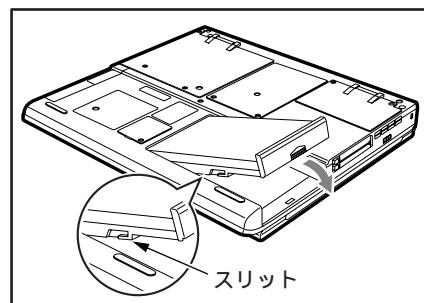


7 内蔵バッテリパックを斜め上に持ち上げながら取り外します。



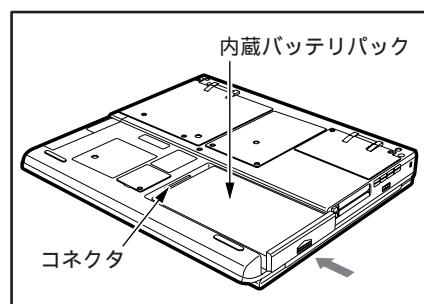
8 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

パソコン本体の突起と内蔵バッテリパックのスリットを合わせます。

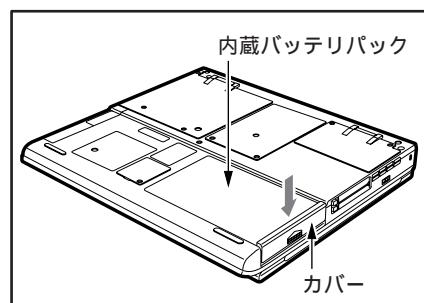


9 内蔵バッテリパックをスライドします。

コネクタが、内蔵バッテリパックとしっかり接続するようにスライドしてください。



10 内蔵バッテリパックのカバーを下にスライドします。



4 節電する

パソコンを使っている途中でひと休みするときは、パソコンも休ませて節電しましょう。本パソコンには、パソコンの動作を停止させて節電するための、「サスPEND機能」と「Save To Disk 機能」があります。

ここでは以下のことを説明します。

- ・サスPEND機能と Save To Disk 機能 P.53
- ・サスPEND機能を使う P.54
- ・Save To Disk 機能を使う P.57

3

サスPEND機能と Save To Disk 機能

サスPEND機能とは、作業している状態をメモリに保存し、パソコンの動作を一時停止させる機能です。

Save To Disk 機能とは、自動的に作業状態をハードディスクに保存したあと、パソコン本体の電源を切る機能です。

これらの機能を利用すると、アプリケーション使用中でも、本パソコンを一時停止したり電源を切ったりして節電することができます。

サスPEND機能と Save To Disk 機能の違いは以下のとおりです。

	サスPEND機能	Save To Disk機能
作業状態の保存場所	メモリ	ハードディスク
電源の状態	節電状態 (メモリの内容を維持するためだけの電力を消費する)	電源を切っている状態 (電力を消費しない)

MAIN スイッチを切っている（側にスライドしている）とき

■ 重要

LAN カードなどの PC カードをお使いのとき

LANカードを使ってネットワークに接続しているときなど、PCカードをセットしているときは、サスPEND機能や Save To Disk 機能が使えないことがあります。PCカードをお使いのときに作業を中断する場合は、PCカードのマニュアルをご覧ください。

サスPEND機能を使う

サスPEND機能を使うと、パソコンの動作を一時停止し、作業を中断できます。中断した作業を再開すると、サスPEND機能を使う前の状態に戻ります。

重要

サスPENDが可能な時間

新品のバッテリを満充電にした状態で、約1日サスPENDできます。

サスPENDが可能な時間が短くなるとき

「PMSet98」で、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」がに設定されている場合（ご購入時は）は、サスPENDが可能な時間が短くなることがあります。

「節電の設定を変更する」（☞P.59）

サスPENDについての注意

- ・ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PCカード利用中は、それらの作業を完了または中断してからサスPENDしてください。
- ・サスPENDしているときにバッテリが切れると、作業中のデータはすべて失われてしまいます。バッテリでパソコンを使っているときにサスPENDする場合には、バッテリ残量に十分注意してください。長い時間サスPENDするときは、ACアダプタを取り付けることをお勧めします。
- ・Windows 98 が起動するまでの間は、サスPENDしない場合があります。

セットすると自動で始まるCDを使用しているときは、サスPENDしないでください

ください

セットすると自動で始まるCDを使用しているときにサスPENDすると、レジューム時にCDが二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、CDのアプリケーションを一度すべて終了し、CDをセットし直してください。

オプション機器を接続しているとき

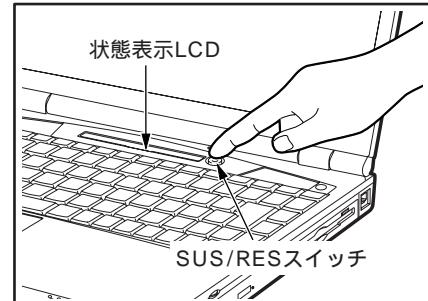
ドライバのインストールが必要なオプション機器を接続しているときは、ドライバのインストールが終了するまでサスPEND機能を使わないでください。

作業を中断する(サスPEND機能)

サスPENDするには、SUS/RESスイッチ([P.3](#))を使う方法や、液晶ディスプレイを閉じる方法などがあります。

SUS/RESスイッチを使う

- 1 状態表示LCDに□や□が表示されていないことを確認し、SUS/RESスイッチを押します。
しばらくすると状態表示LCDに①が点滅し、液晶ディスプレイの表示が消えます。



アドバイス

液晶ディスプレイを閉じたときにサスPENDしないようにするには

BIOSセットアップの「省電力」メニューの「詳細設定」で、「カバークローズサスPEND」を「使用しない」に設定してください(ご購入時は「使用する」)。「BIOSセットアップの操作のしかた」([P.109](#))

サスPENDの別の操作方法

「スタート」ボタンから「Windowsの終了」をクリックして表示される「Windowsの終了」ウィンドウで「スタンバイ」をクリックしても、サスPENDできます。

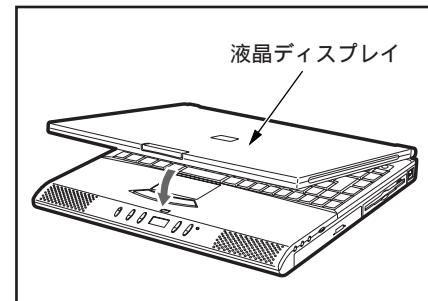
液晶ディスプレイを閉じる

重要

液晶ディスプレイを閉じてサスPENDするときの注意

Windows98の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

- 1 状態表示LCDに□や□が表示されていないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。



中断した作業を再開する

一時停止しているパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。レジュームするには、SUS/RESスイッチ(☞P.3)を使う方法や液晶ディスプレイを開く方法などがあります。



重要

レジュームするときの注意

サスPENDした直後にレジュームしないでください。レジュームするときは、10秒ほど待ってください。

SUS/RESスイッチは4秒以上押さないでください

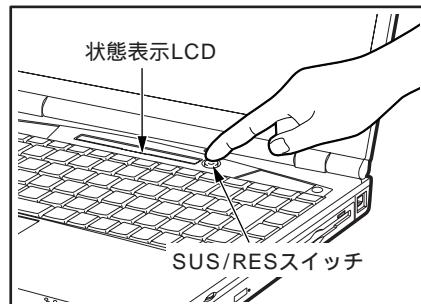
SUS/RESスイッチを4秒以上押し続けると、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

液晶ディスプレイを開いているとき

1 状態表示LCDに①が点滅していることを確認します。

2 SUS/RESスイッチを押します。

状態表示LCDの①が点滅から点灯に変わり、しばらくすると中断する前の画面が表示されます。



液晶ディスプレイを開いているとき

1 液晶ディスプレイを開きます。

アドバイス

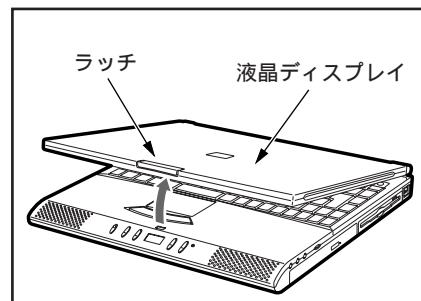
レジューム時の画面の乱れについて

レジュームするとき、一時に画面表示が乱れことがあります。故障ではありません。あらかじめご了承ください。

レジューム後にキーボードが使用できないとき

BIOSセットアップの「セキュリティ」メニュー(☞P.116)で、「起動時のパスワード」と「レジューム時のパスワード」を「使用する」に設定していると、レジューム後はフラットポイント(マウス)と、パスワードを入力する以外のキーボード操作ができません(状態表示LCDの△、□が一定時間交互に表示されます)。

この場合は、起動時のパスワードを入力してください。キーボードとフラットポイント(マウス)が使用できるようになります。



Save To Disk 機能を使う

Save To Disk機能を使うと、作業中の状態をハードディスクに保存して、作業を中断できます。中断しているあいだは、電源が切れているので、電力を消費しません。中断した作業を再開すると、中断する前の作業状態に戻ります。

重要

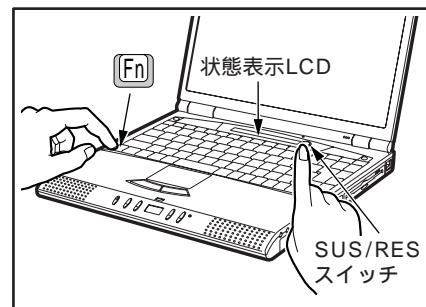
オプション機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使うとき

PC カードやプリンタなどの機器を接続した状態で Save To Disk 機能を使うと、作業を再開するときに機器に対する初期化が行われます。そのため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。

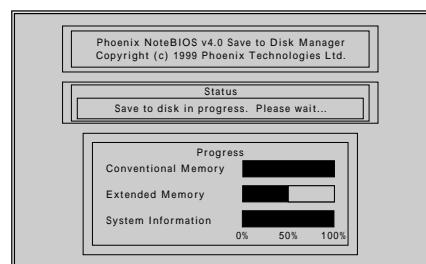
作業を中断する (Save To Disk 機能)

1 状態表示 LCD に  や  が表示されていないことを確認します。

2  を押しながら、SUS/RES スイッチを押します。



ハードディスクへの保存状態が画面に表示され、しばらくすると、電源が切れます。



重要

電力を消費しないようにするには

MAIN スイッチを切って（側面にスライドして）ください。

中断した作業を再開する

一時停止しているパソコンの動作を元の状態に戻すことを「レジューム」といいます。



重要

レジュームするときの注意

Save To Disk 機能で作業を中断した直後にレジュームしないでください。レジュームするときは、10秒ほど待ってください。



アドバイス

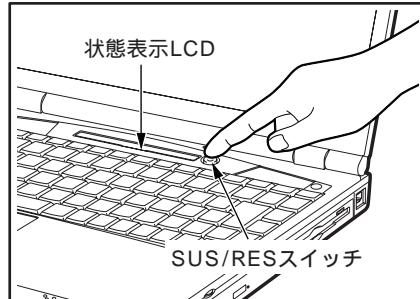
MAINスイッチを切っている（側にスライドしている）とき

MAINスイッチを|側にスライドすると、レジュームします。

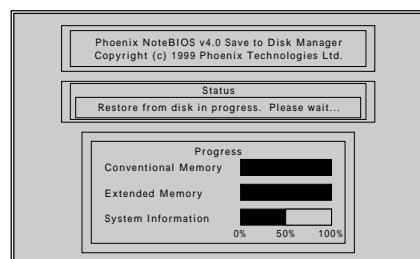
レジューム時の画面表示の乱れについて

レジュームするとき、一時的に画面表示が乱れることがあります。故障ではありません。あらかじめご了承ください。

1 SUS/RESスイッチを押します。



保存された作業状態をハードディスクから呼び出している様子が、画面に表示されます。しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。



節電機能について

コラム

節電の設定

- ・ フラットポイント(マウス)や、キーボードの操作をしないまま一定時間が過ぎると、画面が真っ暗になることがあります。これは、節電機能が働いたためです。
- ・ 本パソコンご購入時は、バッテリで使っているときに節電機能が働くように設定されています。
- ・ Windows 98 の「電源の管理」で、節電の設定を変更できます。ACアダプタで使うときに節電したり、節電機能を使わないようにすることもできます。
なお、通常お使いになるうえでは、節電の設定を変更する必要はありません。
「節電の設定を変更する」(☞P.59)

本パソコンの動作状態がわからないとき

パソコンを使おうとしたときに、パソコンが一時停止状態なのか、終了している状態なのか迷ったときは、次の順番で確認してください。画面が表示されたら、それ以降は操作する必要はありません。

- 1 フラットポイントに触れる。
- 2 SUS/RESスイッチを押す。
- 3 MAINスイッチが手前(| 側)にスライドされているときは、奥(- 側)へスライドする。
間違えてMAINスイッチをスライドして、前回の作業状態が消えてしまった...などといふことがないように、気をつけてください。

節電の設定を変更する

アドバイス

サスペンドするまでの時間を変更するには

「電源設定」タブの「システムスタンバイ」で、時間を変更してください。

BIOS セットアップの「省電力」メニューとの関係

節電方法をさらに細かく設定したいときは、BIOS セットアップの「省電力」メニューの項目も設定してください。

「省電力メニュー」(P.118)

LOW バッテリ状態になったとき

バッテリの残量が約 12% 以下の状態を、「LOW バッテリ状態」といいます。この状態になると、「アラーム」タブでの設定に関わりなく、バッテリ残量表示(状態表示 LCD の )が点滅し、警告音が鳴ります。

「LOW バッテリ状態」(P.50)

Windows 98 のヘルプで関連する項目を探すには

「スタート」ボタンをクリックし、「ヘルプ」をクリックすると、「Windows のヘルプ」ウィンドウが表示されます。「電源」などのキーワードを入力して検索してください。

本パソコンは、電源やパソコンの状況に合わせて適切に節電されるように設定されています。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・ご購入時の節電の設定 P.59
- ・「電源の管理」で設定を変更する P.59
- ・「PMSet98」で設定を変更する P.60

ご購入時の節電の設定

本パソコンご購入時には、バッテリで使うときに節電されるように設定されています。節電の設定は、通常お使いになる上では、変更する必要はありません。変更する場合は、Windows 98 の「電源の管理」または「PMSet98」を使います。

「電源の管理」で設定を変更する

節電機能が働くまでの時間を変更するときは、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで設定します。

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウを表示する

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (電源の管理) をクリックします。
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

設定を変更する

節電機能が働くまでの時間の設定は、「電源設定」タブで変更します。

バッテリの残量が少なくなったときに Windows 98 が出す警告の設定は、「アラーム」タブで変更します。

変更のしかたや設定項目について詳しくは、Windows 98 のヘルプをご覧ください。

「PMSet98」で設定を変更する

「PMSet98」には、現在の設定内容が表示される「PMSet98 のプロパティ」ウィンドウと、電源の状態が表示される「インジケータ」があります。

「PMSet98 のプロパティ」ウィンドウを表示する

1 タスクバーの⑩または□をダブルクリックします。

「PMSet98 のプロパティ」ウィンドウが表示されます。



- タスクバーに⑩または□が表示されていないとき
「PMSet98」が起動していません。「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「PMSet98」の順にマウスポインタを合わせ、「1.PMSet98」をクリックします。
- が点滅しているとき
バッテリの充電中は、タスクバーの□が点滅しています。
- 「PMSet98」を終了するには
「PMSet98」は、Windows98 を起動するたびに自動的に起動します。
「PMSet98」を使用しないときは、タスクバーの⑩または□を右クリックし、「終了」をクリックします。

インジケータを表示する

インジケータには、バッテリ残量や電源の状態が表示されます。

- 「PMSet98 のプロパティ」ウィンドウを表示します。
- 「インジケータ」タブをクリックします。
- 「インジケータを表示する」をクリックして□を✓にします。
- 「表示位置」の右の▼をクリックし、一覧から表示する位置をクリックします。
- 「OK」をクリックします。

インジケータが表示されます。

電源の状態によって、表示されるインジケータは異なります。

⑩: AC アダプタ接続時

: バッテリで使用時

アドバイス 表示位置について

- インジケータと他のウィンドウが重なったときは、インジケータが常に前面に表示されます。
- インジケータの位置を固定していると、他のウィンドウの操作ができないことがあります。
- 「自由位置 [ドラッグして位置決め]」にすると、好きな位置に表示できます。
- 「種類」の右の▼をクリックすると、インジケータの種類を選べます。

電源の状態が表示されないとき

「PMSet98 のプロパティ」
ウィンドウの「インジケータ」タブで、「電源の状態を表示する」をクリックして□を✓にします。



アドバイス

「CPU クロック」について

本パソコンでは、この項目は設定できません。



アドバイス

BIOS セットアップの「省電力」メニューとの関係

BIOS セットアップの「省電力」メニューの「モデム着信によるレジューム」([P.118](#)) でも設定を変更できます。

「PMSet98」で設定を変更すると、BIOS セットアップの設定も変更されます。

レジュームするように設定しているとき

- ・ PDC コネクタまたは USB コネクタに接続した携帯電話や PHS から モデムに着信したときは、レジュームしません。
- ・ **[F1]** を押しながら、SUS/RES スイッチを押して Save To Disk 機能を使っているときは、電話がかかってきてもレジュームしません。
- ・ 「Save To Disk 機能を使う」([P.57](#))
- ・ BIOS セットアップの「省電力」メニューで、「サスペンド動作」([P.118](#))などを「Save To Disk」に設定していても、サスペンドになります。
- ・ サスペンド中でもモデムを動作させておくため、サスペンド中の電力消費が大きくなります。AC アダプタを接続してお使いになることをお勧めします。

設定を変更する

「PMSet98 のプロパティ」ウィンドウで設定できる項目について説明します。

LCD バックライト

液晶ディスプレイのバックライトの明るさを変更して、節電するかどうかを設定します。「電源依存」タブの「LCD バックライト」で、AC アダプタで使っているときとバッテリで使っているときを、別々に設定できます。明るさは 8 段階に設定でき、「暗」に近づけるほど節電できます。

設定を変更したときは、「適用」または「OK」をクリックしてください。

3

設定した明るさを、キーボードで一時的に変更できます。

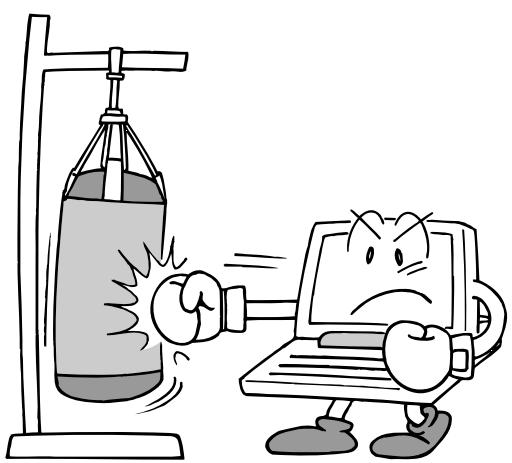
「設定した明るさを変更する」([P.35](#))

電話がかかってきたらレジュームする

サスペンド中に電話回線からモデムに着信したとき、レジュームする(サスペンドする前に戻す)かどうかを設定します。

「その他」タブの「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」をクリックして を にし、「適用」または「OK」をクリックします。ただし、PDC コネクタまたは USB コネクタに接続した携帯電話や PHS からの着信ではレジュームしません。

電源と節電機能を賢く使おう(節電の設定を変更する)



第4章

オプション機器を活用しよう!

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

本章では、取り付けられるオプション機器の例を紹介し、取り付け方法や設定作業などについて説明しています。

1. オプション機器について	64
2. プリンタを接続する	66
3. メモリを増やす	70
4. マウス / テンキー/ボードを接続する	77
5. PC カードをセットする	78
6. 携帯電話や PHS を接続する	82
7. 外部ディスプレイを接続する	89
8. CCD カメラを使う	98
9. その他のオプション機器を使う	105

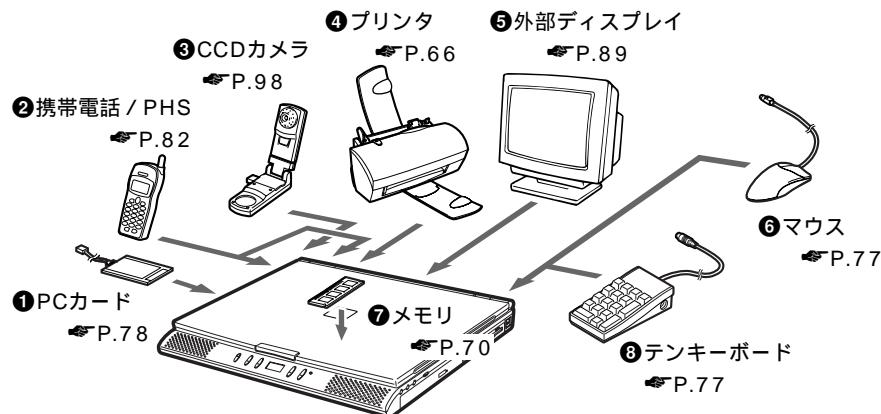
オプション機器について

ここでは以下のことを説明します。

- ・オプション機器の紹介 ➡ P.64
- ・オプション機器の接続にあたって ➡ P.65

オプション機器の紹介

本パソコンのオプション機器には、次のようなものがあります。接続のしかたなどについて詳しくは、各機器の参照先および各機器のマニュアルをご覧ください。



アドバイス

取り付けられるその他のオプション機器

- ・外径 3.5 mm のミニプラグをもつオーディオ機器
マイクやアンプ内蔵スピーカー、ヘッドホンなどを、本体右側面のジャックに接続できます。
- ・SCSI 規格対応の機器
本体左側面の PC カードスロットに SCSI カードをセットすることで、SCSI 規格に対応した外付けハードディスクや MO(光磁気ディスク)ドライブなどを接続できます。
- ・RS-232C 規格対応の機器
RS-232C 規格に対応した機器（デジタルカメラなど）を、本体背面のシリアルコネクタに接続できます。

- ・USB 規格対応の機器
USB 規格に対応した機器（マウスやキーボードなど）を、本体背面の USB コネクタに接続できます。

① PC カード

パソコンにさまざまな機能を追加できます。

② 携帯電話 / PHS

携帯電話や PHS を利用して、インターネットやパソコン通信ができます。

③ CCD カメラ

パソコンに画像を取り込むことができます。

④ プリンタ

パソコンで作った文書や画像などを印刷できます。

⑤ 外部ディスプレイ

液晶ディスプレイよりも高解像度で表示できます。

⑥ マウス

マウスポインタの操作をマウスで行うことができます。

⑦ メモリ

メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになり、パソコンの処理が快適になります。

⑧ テンキーボード

数字を効率よく入力できます。

用語

ドライバ

パソコンに取り付ける機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、パソコンとオプション機器との間を仲介します。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、機器が理解できるように翻訳するのがドライバの役目です。

ドライバは、それぞれの機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどの機器には、ドライバがフロッピーディスクなどで添付されています。

インストール

ソフトウェアをパソコンのハードディスクにコピーして、使える状態にすることです。

オプション機器の接続にあたって

ここでは別売のオプション機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

本パソコンは「PC/AT互換機」です

パソコンにはさまざまな種類のものがあります。本パソコンは、「PC/AT互換機」です。また、通称で「DOS/Vパソコン」と呼ばれることもあります。本書では、オプション機器の接続について、PC/AT互換機の特徴に沿って説明しています。

オプション機器によっては設定作業が必要です

パソコンのオプション機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらない機器もあります。オプション機器の接続は、本書をよくご覧になり、正しく行ってください。

オプション機器のマニュアルもご覧ください

本書で説明しているオプション機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせてオプション機器のマニュアルも必ずご覧ください。

ケーブルは専用です

オプション機器を接続するケーブルは、プリンタには「プリンタケーブル」というように、オプション機器によって専用のケーブルが用意されています。

また、パソコンの規格によっても、使えるケーブルの種類が決まっています。本パソコンで使えるケーブルは、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」などと表示されたものです。形状が同じでつながるように見えても、実際には規格が異なっていて使えない場合もあります。よく確かめてご用意ください。

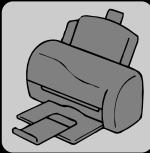
純正品をお使いください

オプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。オプション機器については、販売店にお問い合わせになるか、FAX情報サービスをご利用ください。他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

取り付け／取り外し時の注意

オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、次の点に注意してください。

- ・作業を行う前に、パソコン本体および取り付けられている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・PS/2規格のマウス以外のオプション機器の取り付けは、Windows98のセットアップ終了後に行ってください。Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないことがあります。
- ・電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。内蔵機器の取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めください。



2

プリンタを接続する

プリンタを接続すると、パソコンで作った文書や画像などを、印刷することができます。
ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する P.66
- ・プリンタを接続する P.67

必要なものを用意する



警告



感電 プリンタは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

プリンタによって、用意するものが異なります。プリンタのマニュアルもご覧ください。

プリンタ

Windows98で動作可能なプリンタを用意してください。

プリンタのドライバ

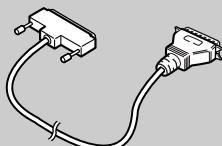
プリンタによっては、CDやフロッピーディスクで添付されています。フロッピーディスクが数種類あるときは、「Windows98用」、「PC/AT互換機用」、「DOS/V用」などと表示されたものをお使いください。

プリンタケーブル

プリンタとパソコンを接続するケーブルです。添付されていない場合は、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」などと表示されているもので、パソコン側のコネクタをネジで固定する形のケーブルを用意してください。

プリンタのマニュアル

プリンタにより接続方法や設定方法が異なります。必ずプリンタのマニュアルもご覧ください。
CDで見るマニュアルもあります。

 アドバイス
プリンタケーブル

プリンタを接続する



警告



感電

プリンタの接続や取り外しを行うときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。

感電、火災または故障の原因となります。



注意



故障

ケーブルは正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

重要

プリンタの接続は、Windows 98 のセットアップ終了後に行ってください

Windows 98 のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

プリンタのマニュアルもご覧ください

接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

1 パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」（☞P.42）をご覧になり、MAINスイッチを切って（側にスライドして）ください。

2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 ACアダプタを取り外します。

「ACアダプタを取り外す」（☞P.45）

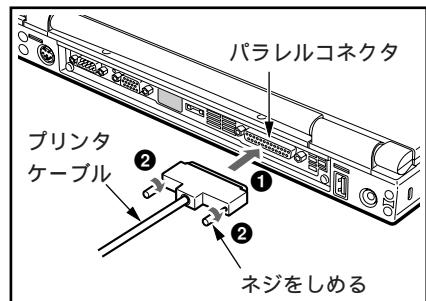
4 パソコン本体背面のパラレルコネクタに、プリンタケーブルを接続します。

パラレルコネクタの位置を確認してください。

「本体背面」（☞P.8）

① コネクタは、正面から見ると台形になっています。コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。

② プリンタケーブルの左右のネジをしめて固定してください。





アドバイス

メッセージが表示されたとき

「Windows 98 Second Edition CD-ROM ラベルの付いたディスクを挿入して「OK」をクリックしてください」というメッセージが表示されることがあります。その場合は、「OK」をクリックし、次に表示されるウィンドウで「c:\windows\options\cabs」と入力して「OK」をクリックしてください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

プリンタを取り外すとき

- ・パソコンとプリンタの電源を切り、ケーブルを取り外してください。
- ・もう一度同じプリンタを取り付けるときは、ドライバのインストールを行う必要はありません。

印刷方法

各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

ご購入時の CD ドライブは E です

CD からプリンタのドライバをインストールする場合、CD ドライブ名を指定するときは、「e:\」と入力してください。

5 プリンタに、プリンタケーブルを接続します。

接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。

6 プリンタに電源ケーブルを接続します。

プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

7 プリンタの電源ケーブルのプラグを、コンセントに差し込みます。

8 初めて接続したプリンタを使うには、ドライバのインストールという設定作業を行います。

プリンタのマニュアルをご覧になり、必ずドライバのインストールを行ってください。

ドライバのインストールでフロッピーディスクや CD を使うことがあります。

「フロッピーディスクをセットする／取り出す」(P.19)

「CD をセットする／取り出す」(P.23)

プリンタドライバをインストールするときの注意

プリンタのマニュアルに、「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されている場合、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは次のように操作してください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。

2 「プリンタ」ウィンドウで「プリンタの追加」をクリックします。

「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

3 画面の指示に従ってドライバをインストールします。



アドバイス

弊社製 FMLBP シリーズのプリンタを接続したとき

FMLBP シリーズのプリンタを接続したときに、プリンタ側とパソコン側のモードが合っていないために、印刷が正常に行われないことがあります。

その場合は以下の手順でモードを変更してください。

- 1 プリンタの操作パネルなどで、現在のプリンタのモードを調べます。
操作パネルについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 接続したプリンタのアイコンをクリックします。
- 4 「プリンタ」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 5 「現在のモード」をクリックします。
- 6 プリンタ側のモードと同じモードを選びます。
プリンタ側のモードが ESC/P モードの場合は、「ESC/P モード」をクリックします。
プリンタ側のモードが FM モードの場合は、「FM モード」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。

弊社製プリンタ「XJ-350 / XJ-550」をお使いのとき

- ・本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。
そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイでプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。

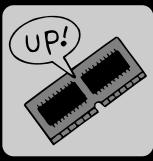
XJ-350 : V1.0L10 XJ-550 : V1.0L10 (2000年1月現在)

- ・プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。

- @nifty 富士通 FM シリーズ情報「FM INFO」
(GO FMINFO でアクセスできます)
- インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.ne.jp>)

- ・最新版のドライバのインストールは、次の手順で行ってください。

- 1 プリンタの電源を切ります。
- 2 古いバージョンのドライバを削除します。
削除のしかたは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 3 本パソコンを再起動します。
- 4 Windows98 が起動したら、プリンタの電源を入れます。
- 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。
本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。
インストール方法などについて詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。



3

メモリを増やす



用語

メモリ

記憶装置の総称です。ここ
でいうメモリは、CPUが処
理するデータを一時的にた
めておく記憶装置です。

メモリを増やすと、より大きなデータを扱えるようになります。また、複数のアプリケーションを同時に起動するときにパソコンの処理が快適になります。

本パソコンご購入時のメモリ容量は64MBです。メモリは最大192MBまで増やすこ
とができます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する P.70
- ・メモリを取り付ける／取り外す P.71

必要なものを用意する



感電 メモリは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

メモリ（拡張RAMモジュール） FMVNM64SD、FMVNM12SDのメモリ
のうち、1枚取り付けられます。

それぞれの数字はメモリの容量を示してい
ます（ただし、12は128MBを示します）。

プラスのドライバー

本パソコンのネジを取り外すときに使いま
す。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサ
イズに合ったものをお使いください。

針や安全ピンなどの
先のとがったもの

本パソコンのネジカバーを取り外すときに
使います。

メモリを取り付ける／取り外す



警告



感電 メモリの取り付けや取り外しをするときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。



誤飲 取り外したカバー、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



注意



けが メモリの取り付けや取り外しをするときは、指定された場所以外のネジは取り外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。
また故障の原因となることがあります。



故障 メモリの取り付けや取り外しをするときは、端子やICなどには触れないよう、ふちを持ってください。
指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

■ 重要

メモリの取り付けは、Windows 98 のセットアップ終了後に行ってください

Windows 98 のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

取り付け／取り外し時の注意

- メモリは静電気に対して非常に弱い部品でできています。そのため人体にたまつた静電気によって壊れる場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。
- メモリを取り扱うときは、右図のようにふちを持ってください。また、メモリの取り付けや取り外しをするときは、メモリの端子やパソコン本体内部の端子には絶対に触れないでください。
- メモリの取り付けや取り外しをするときに外したネジは、パソコン本体内部には絶対に落とさないでください。



Save To Disk 機能で電源を切らないでください

メモリの取り付けや取り外しをするときは、必ず「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順で電源を切ってください。Save To Disk 機能で電源を切ると、作業中のデータが失われるおそれがあります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」（☞P.42）

「Save To Disk 機能を使う」（☞P.57）

メモリを取り付ける

1 パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.42)をご覧になり、MAINスイッチを切って（側にスライドして）ください。

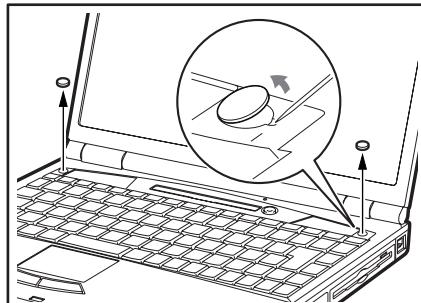
2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 ACアダプタを取り外します。

「ACアダプタを取り外す」(☞P.45)

4 ネジカバーを取り外します。

欠けている部分から針などを入れて、カバーを取り外してください。

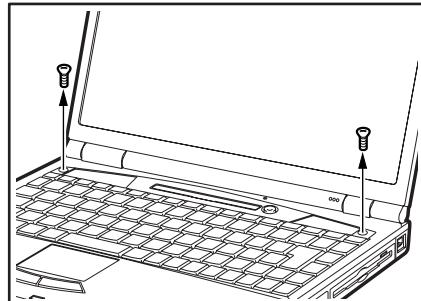


■ 重要

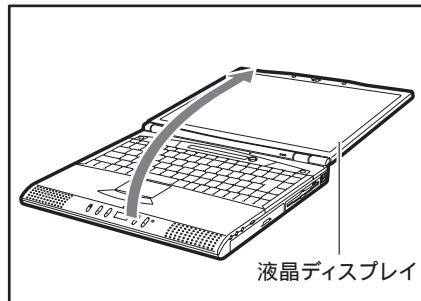
針などの取り扱いについて

針や安全ピンなどは、取り扱いに注意してください。けがをすることがあります。

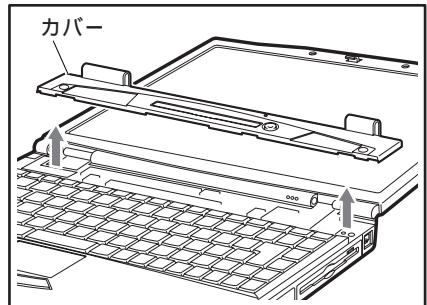
5 キーボードのネジを外します。



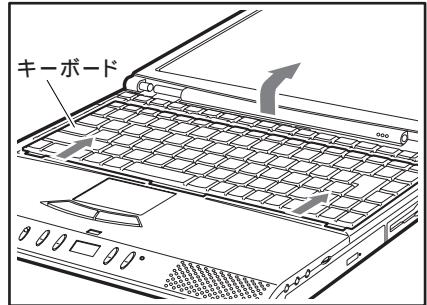
6 パソコン本体下面と水平になるように、液晶ディスプレイを開きます。



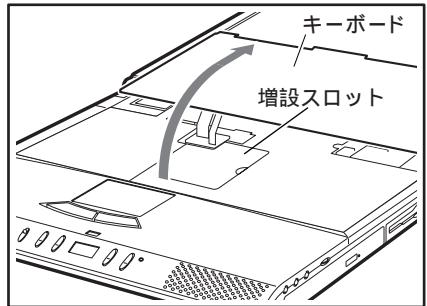
7 カバーを取り外します。



8 キーボードの液晶ディスプレイに近い側を少し持ちあげて矢印の方向にスライドします。



9 キーボードを静かに持ち上げて開きます。

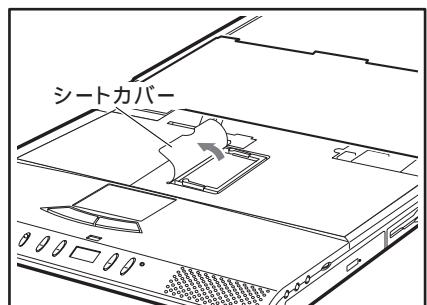


重要

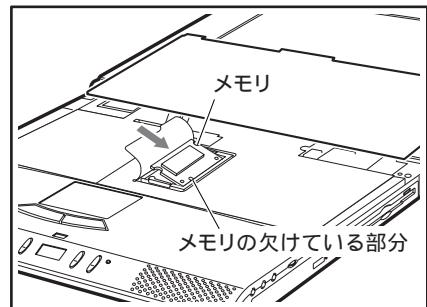
キーボードを引っ張らないでください

パソコン本体とキーボードを接続しているケーブルを破損する原因となります。

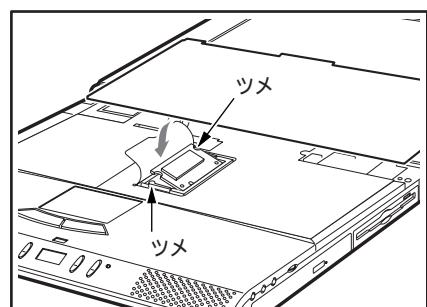
10 シートカバーをめくります。



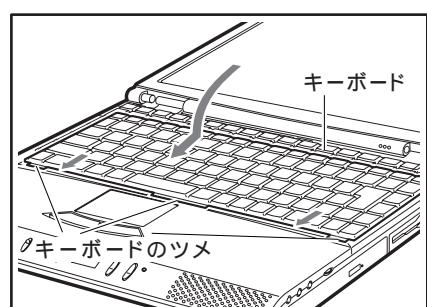
11 メモリを斜めに差し込みます。
メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込んでください。



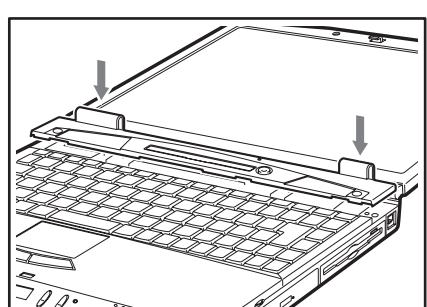
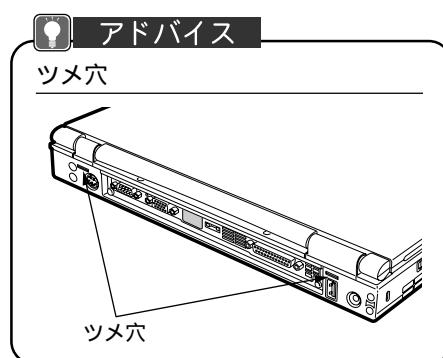
12 メモリをはめ込みます。
メモリが、両側のツメにはさみこまれてパチンと音がするまで下に倒してください。



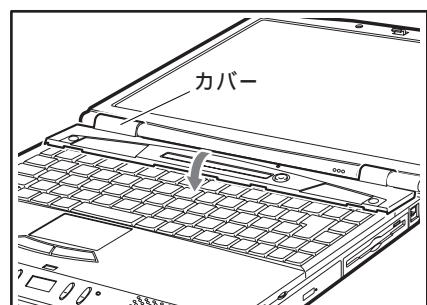
13 キーボードを静かに降ろします。
キーボードのツメとパソコン本体のツメ穴を合わせ、ケーブルをはさまないように閉じます。



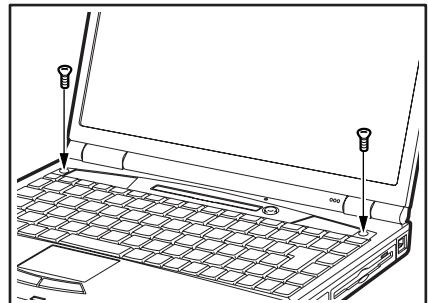
14 カバーのツメをパソコン本体背面のツメ穴に合わせます。



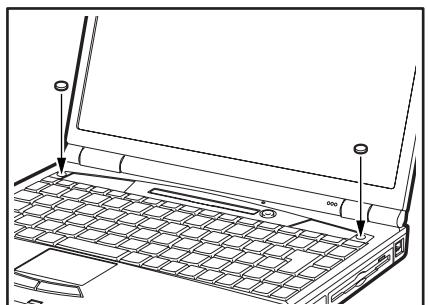
15 カバーを取り付けます。



- 16 手順 5 で取り外したネジでカバーを固定します。



- 17 手順 4 で取り外したネジカバーを取り付けます。



取り付けたメモリがパソコンで使える状態になっているかどうかを確認してください。
「取り付けたメモリが使える状態か確認する」(☞P.75)

重要

Windows 98 が起動しないとき

メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、何も表示されないことがあります。その場合は、MAINスイッチで電源を切り、メモリを取り付け直してください。

「メモリを取り外す」(☞P.76)

「メモリを取り付ける」(☞P.72)

取り付けたメモリが使える状態か確認する

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかどうか確認してください。

- 1 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.40)をご覧になり、MAINスイッチを入れて(| 側にスライドして)ください。

- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

- 3 (システム)をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。



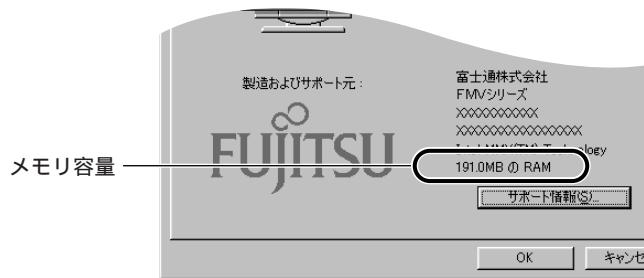
アドバイス

数値が増えていないとき

メモリ容量の数値が増えていなかつた場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。

「メモリを取り付ける」(☞P.72)

- 4 で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかどうかを確認します。



(この画面は機種により若干異なります)

画面は、128MBのメモリを増設して、192MBに増やした例です。

お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

- 5 「OK」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。

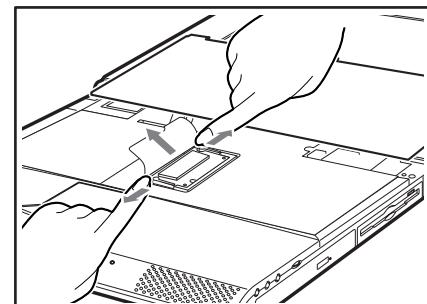
メモリを取り外す

増やしたメモリを大容量のメモリに交換するときは、メモリを取り外す必要があります。

- 1 キーボードを開きます。

「メモリを取り付ける」手順1～手順10(☞P.72)

- 2 メモリを押さえている両側のツメを開き、メモリを取り外します。



- 3 キーボードを閉じます。

「メモリを取り付ける」の手順13～手順17(☞P.74)

**アドバイス**

マウスの練習

『かるがるパソコン入門』
で、実際の画面を使って、マウスの練習ができます。

接続できるキー／ボード

本パソコンの拡張キー／ボード／マウスコネクタには、101キー／ボード、OADGキー／ボード、JISキー／ボード、親指シフトキー／ボードも接続できます。ただし、親指シフトキー／ボードを使うには、弊社製日本語入力システムのOAK V5.0以降が必要です。

テンキー／ボードの傾きを調節できます

テンキー／ボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。

マウスとテンキー／ボードを両方使うには

本パソコンでテンキー／ボードとマウスを併用したいときは、パソコン本体にテンキー／ボードを接続し、マウスはテンキー／ボードのマウスコネクタに接続してください。



テンキー／ボードで数字を入力できるとき

状態表示LCDに「□」が表示されているときにテンキー／ボードで数字を入力できます（パソコン本体のテンキーは無効になります）。

状態表示LCDに「□」が表示されていないときは、[Num Lk]を押すか、テンキー／ボードの[Num Lk]を押してください。状態表示LCDに「□」が表示され、テンキー／ボードで数字を入力できるようになります。

マウスを接続すると、より快適にマウスポイントの操作をすることができます。

テンキー／ボードを接続して使うと、数字を効率よく入力できます。

ここではPS/2規格のマウスやテンキー／ボードの接続方法を説明します。

感電
ビーエス

マウス、テンキー／ボードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

重要

接続は、Windows 98のセットアップ終了後に行ってください

Windows 98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

ただし、PS/2規格のマウスは、セットアップ前に接続することができます。

マウスの接続についての注意

PS/2規格のマウスを接続すると、自動的にフラットポイントは使えなくなります。

マウスとフラットポイントを併用したいときは、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「キー／ボード／マウス設定」で、「内蔵ポインティングデバイス」（☞P.115）を「常に使用する」に設定してください。

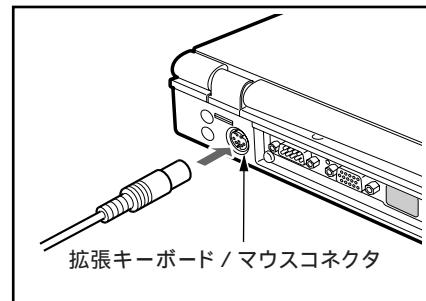
1 パソコン本体の電源を切ります。またはサスペンドします。

「今日はおしまい。電源を切るには？」（☞P.42）

「作業を中断する（サスペンド機能）」（☞P.55）

2 マウスまたはテンキー／ボードを、パソコン本体背面の拡張キー／ボード／マウスコネクタに接続します。

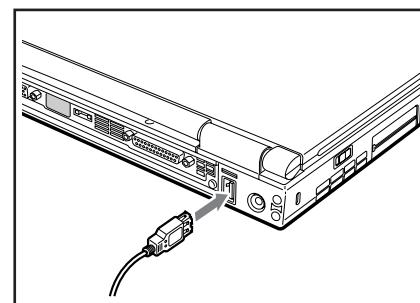
マウスまたはテンキー／ボードのコネクタに示されている矢印を下向きにし、奥までしっかりと差し込んでください。

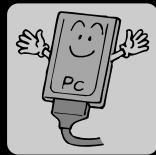
**アドバイス**

USBマウス

本パソコンは、別売のUSBマウス（FMV-MO202L）を使用することができます。USBマウスの使用にあたっては以下の点に留意してください。

- ・パソコン本体の電源が入った状態で取り付け／取り外しを行えます。なお、取り付け時はコネクタをまっすぐ接続してください。
- ・ホットプラグ（☞P.114）が機能しないので、USBマウスを接続してもフラットポイントは無効なりません。
- ・MS-DOSモードではUSBマウスをお使いになれません。





5

オプション機器を活用しよう！

ピーシー

PC カードをセットする

アドバイス

PC カードの種類

代表的な PC カードには、以下のようなものがあります。

・ SCSI カード

SCSI 規格対応のハードディスクや MO (光磁気ディスク) ドライブなどの機器を接続するときに必要な PC カードです。

・ LAN カード

複数のパソコンどうしをケーブルで接続して、データやプリンタなどを共有するときに必要な PC カードです。

・ デジタル携帯電話接続カード、PHS 接続カード

デジタル携帯電話や PHS を使って、インターネットやパソコン通信をするときに必要な PC カードです。

・ ビーエイチエス

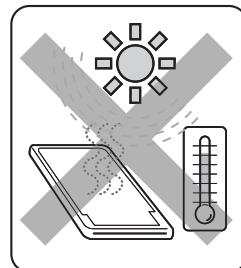
PC カードをセットすると、パソコンにさまざまな機能を追加できます。

ここでは以下のことを説明します。

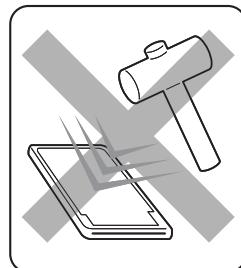
- ・ 気をつけてください～ PC カードを使うとき P.78
- ・ 必要なものを用意する P.78
- ・ PC カードをセットする P.79
- ・ PC カードを取り出す P.80

気をつけてください～ PC カードを使うとき

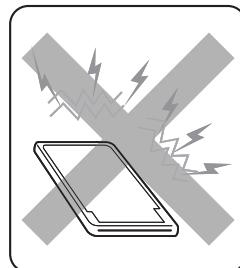
故障を防ぐため、PC カードを取り扱うときは、次の点に注意してください。



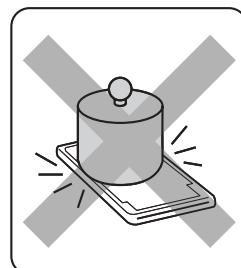
温度の高い場所や直射日光のある場所には置かないでください。



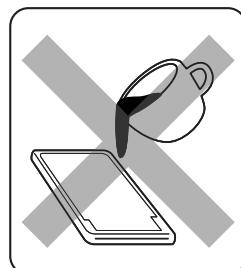
強い衝撃を与えないでください。



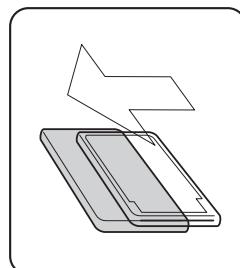
カードをこすったりして静電気を起こさないでください。



重い物をのせないでください。



コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。



保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

必要なものを用意する



警告



感電

PC カードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

アドバイス

PC カードの厚さ

TYPE : 3mm

TYPE : 5mm

TYPE : 10.5mm

PC カード

PC Card Standard に対応した TYPE ~ TYPE の PC カードが使えます。

TYPE と TYPE のカードは、同時に 2 枚セットできます。TYPE のカードは 1 枚のみセットでできます（他の PC カードとの同時使用はできません）。

PC カードのドライバ

PC カードによっては、CD やフロッピーディスクで添付されています。

PC カードのマニュアル

PC カードにより設定方法が異なります。必ず PC カードのマニュアルもご覧ください。

PC カードをセットする



注 意



け が
けが PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れないでください。
けがの原因となることがあります。

■ 重要

PC カードのセットは、Windows98 のセットアップ終了後に行ってください

Windows98 のセットアップを行う前にセットすると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

通信関係の PC カードの同時使用について

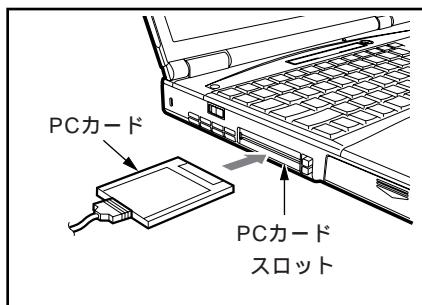
通信関係の PC カード（LAN カード、ISDN カード、モデム / FAX モデムカード、デジタル携帯電話接続カード、PHS 接続カードなど）の中には、2 枚同時に使えないものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

PC カードをセットするときの注意

PC カードによっては、セットするときに本パソコンの電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルをご覧ください。

1 PC カードを PC カードスロットにセットします。

製品名のある面を上にして、PC カードスロットへ差し込みます。



■ 重要

PC カードスロットについて

各 PC カードスロットで使える PC カードの種類は、以下のとおりです。

スロット	使用可能な PC カード
スロット 2（上段）	TYPE /
スロット 1（下段）	TYPE / /

別売のOSによっては、PCカードスロットのスロット1、スロット2をそれぞれスロット0、スロット1と読み替える場合があります。

PC カードのコネクタ部分についての注意

PC カードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

2 ドライバをインストールします。

初めてセットするPCカードの場合は、ドライバのインストールという設定作業を行う必要のあるものもあります。PCカードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。



PCカードによっては、上記の画面は表示されず、自動的にドライバがインストールされることがあります。

PCカードを取り出す

■ 重要

PCカード取り出し時の注意

- 必ず手順どおりにPCカードを取り出してください。手順どおりに行わないと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。
- タスクバーの(PCカード)をダブルクリックしたり、コントロールパネルで(PCカード)をクリックして表示される「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」ウィンドウで、「停止」をクリックして取り出さないでください。システムが不安定になる場合があります。
- PCカードによっては、取り出すときに本パソコンの電源を切る必要のあるものがあります。PCカードのマニュアルをご覧ください。

注意

けが PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

高 温 使用した直後のPCカードは、高温になっているときがあります。PCカードを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。
火傷の原因となります。

1 タスクバーの(PCカード)をクリックします。

2 「××××××の中止」をクリックします。

××××××には、お使いのPCカードの名称が入ります。

重要

必ず「XXXXXXの中止」をクリックしてください

「XXXXXXの中止」をクリックせずに、PCカードを取り出すと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。

アドバイス

「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されたとき

「OK」をクリックして、パソコン本体の電源を切つてから手順4へ進んでください。

「今日はおしまい。電源を切るには？」（☞P.42）

3 「OK」をクリックします。



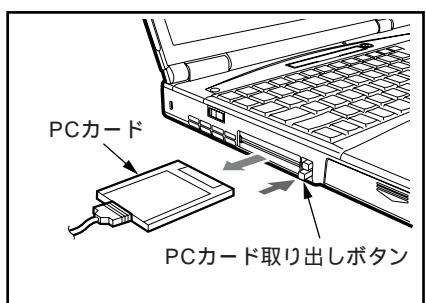
4 PCカード取り出しボタンを押します。

PCカード取り出しボタンが飛び出します。

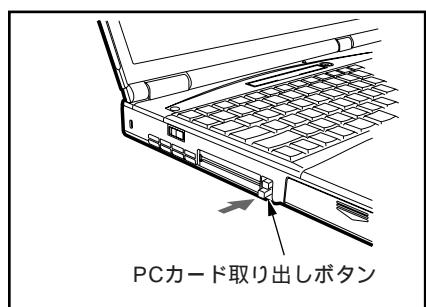


5 PCカードを取り出します。

PCカード取り出しボタンを押し、飛び出したPCカードを引き抜きます。



6 PCカード取り出しボタンを押し込みます。



重要

コードやケーブルを引っ張らないでください

コード付きのPCカードや、ケーブルを接続しているPCカードを取り出すときは、コードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。



ピーエイチエス 携帯電話や PHS を接続する

携帯電話や PHS を接続すると、外出先でも自由にインターネットやパソコン通信ができます。

携帯電話や PHS は、対応の接続ケーブルをパソコン本体背面のコネクタに接続します。接続ケーブルに対応していない携帯電話や PHS は PC カードを利用して接続します。ここでは、以下のことを説明します。

- ・ USB/PDC コネクタに接続する [P.82](#)
- ・ PC カードを使って接続する [P.84](#)
- ・ USB/PDC コネクタに携帯電話や PHS を接続して通信する [P.85](#)

ユーエスピーピーディーシー USB / PDC コネクタに接続する

必要なものを用意する

用語

PIAFS

PHS Internet Access Forum Standard の略で、PHS によるデジタルデータ通信の標準規格です。PHS のデジタル通信回線（32/64Kbps）を利用して、非常に高速な通信が行えます。ただし、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末も PIAFS に対応している必要があります。

**デジタル携帯電話または
PIAFS 対応の PHS**

お使いになれる機種については、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmwORLD.ne.jp/support/hikken/index.html>)にてご案内します。「2000年春モデル必見情報」にある「FMV-BIBLO」をご覧ください。

**携帯電話接続ケーブル
(別売)**

FMV-NCBL92をお使いください。
PDC コネクタに接続して使用します。

**携帯電話接続用 USB ケーブル
(別売)**

FMV-CBL101をお使いください。
USB コネクタに接続して使用します。
携帯電話接続用 USB ケーブルについて詳しくは、
ケーブルに添付の CD の readme.txt をご覧ください。

**PHS 接続用 USB ケーブル
(別売)**

FMV-CBL102をお使いください。
USB コネクタに接続して使用します。
PHS 接続ケーブルについて詳しくは、ケーブルに
添付の CD の readme.txt をご覧ください。

アドバイス

携帯電話接続ケーブル (FMV-NCBL92) で動作確認済みの携帯電話

2000年1月現在で、お使いになれる携帯電話は下記のとおりです。

- ・ NTT DoCoMo..... F208, F207, F206, F203, F201, P208, P207, P206, P205, P156, D208, D207, D206, D203, N208, N207, N207S, N206, N206S, R207, KO207, DE207, NM206, NM157, SH206, TS206, SO206, F501i, P501i, D501i, N501i, F601ev, P601ev, SH811¹, P302², N302²
- ・ IDO..... 536G, 534G, 533G, 532G, 531G, 530G, 528G, 527G, 526G, 525G, 524G, 523G, 522G, 521G, 511G, 509G, 508G, 507G, 506G, 503G, 502G, 501G, 500G
- ・ ツーカーホングループ..... TH671, TH681, TH891
- ・ デジタルホン / J-PHONE..... DP-124, DP-125, J-P01, J-N01, J-PE01, J-SA01, J-D01, J-DN01
- ・ DDI-セルラーグループ..... D101P, D205S, HD-51P, HD60NM, HD60S, HD61S

¹ : PHS 通信はお使いになれません。

² : DoPa (パケット通信) はお使いになれません。

携帯電話やPHSを接続する



注意

故障 ケーブルは本書をお読みになり、正しく接続してください。
誤った接続状態で使いになると、パソコンおよび携帯電話やPHSが故障する原因となることがあります。

■ 重要

ケーブルを接続する前に、通信アプリケーションを終了してください

通信アプリケーションが起動している場合は、アプリケーションを終了してからケーブルを接続してください。

PHSを接続するときは

PHSをケーブルに接続する場合は、Windowsが起動した状態で接続してください。

USBコネクタ/PDCコネクタ経由で通信するときの注意

- ・本体内蔵モデムと同時に使用することはできません。
- ・通信中または通信アプリケーションを起動中には、サスPEND機能やSave To Disk機能は使えません。
- ・移動中は、電波の状況などにより通信が切断されることがあります。
- ・USBコネクタまたはPDCコネクタに接続した携帯電話やPHSどうしでの対向接続はできません。
- ・ATコマンドは、電話回線で通信するためのドライバと仕様が異なります。
- ・接続ケーブルは、WindowsNT4.0ではサポートしておりません。

アドバイス

携帯電話やPHSを取り外すとき

携帯電話接続ケーブル(FMV-NCBL92)または携帯電話接続用USBケーブル(FMV-CBL101)の場合は、コネクタの両側にあるボタンを、PHS接続用USBケーブル(FMV-CBL102)の場合は、コネクタの上側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。

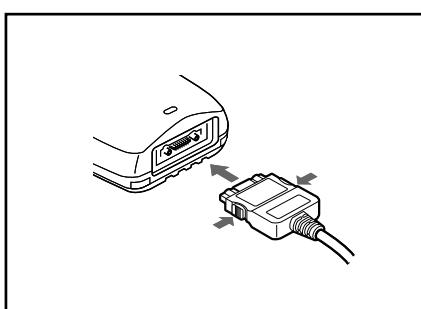
1 携帯電話接続ケーブル(FMV-NCBL92)の場合は、パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.42)をご覧になり、MAINスイッチを切って(側にスライドして)ください。

携帯電話/PHS接続用USBケーブル(FMV-CBL101/102)の場合は、電源を切る必要はありません。手順2へ進んでください。

2 接続ケーブルの大きいほうのコネクタを、携帯電話やPHSに接続します。

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。

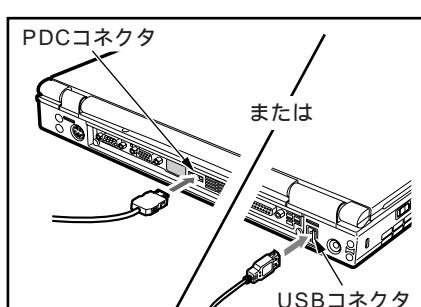


3 接続ケーブルのもう一方のコネクタを、本パソコン背面のUSBコネクタまたはPDCコネクタに接続します。

USBコネクタまたはPDCコネクタの位置を確認してください。

「本体背面」(☞P.8)

コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



- 4 携帯電話接続ケーブル(FMV-NCBL92)の場合は、パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.40)

このあと、接続した携帯電話やPHSで通信するための設定を行ってください。

「USB/PDCコネクタに携帯電話やPHSを接続して通信する」(☞P.85)

PCカードを使って接続する

必要なものを用意する



警告



感電

PCカードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

デジタル携帯電話またはPIAFS対応のPHS

接続カード

本パソコンとデジタル携帯電話またはPHSを接続するためのPCカードです。

デジタル携帯電話には「デジタル携帯電話接続カード」を、PIAFS対応のPHSには「PHS接続カード」をお使いください。

接続カードのドライバ

接続カードによっては、フロッピーディスクやCDで添付されています。

接続カードのマニュアル

接続カードによって設定方法が異なります。必ず接続カードのマニュアルもご覧ください。

携帯電話やPHSを接続する



注意



けが

PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れないでください。
けがの原因となることがあります。

重要

携帯電話やPHSの接続は、Windows98のセットアップ終了後に行ってください

Windows98のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

- 1 接続カードと携帯電話やPHSを添付のケーブルで接続します。
携帯電話またはPHS、接続カードのマニュアルも、あわせてご覧ください。

- 2 接続カードを本パソコンのPCカードスロットにセットします。
「PCカードをセットする」(☞P.79)

接続した携帯電話やPHSで通信を行うには、接続カードや通信ソフトウェアの再設定が必要です。設定方法については、接続カードのマニュアルをご覧ください。

USB/PDC コネクタに携帯電話や PHS を接続して通信する

USB コネクタまたは PDC コネクタに携帯電話や PHS を接続して通信するには、次のような手順で行います。

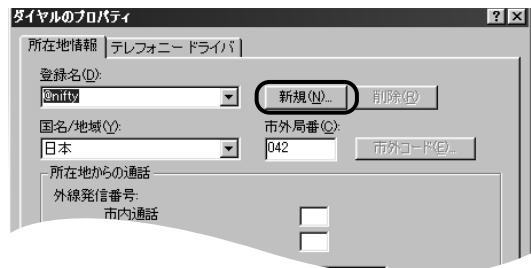
1. 携帯電話または PHS 用の所在地情報を作る (☞P.85)
2. 外出先用のダイヤルアップ接続を作る (☞P.86)
3. 外出先で通信する (☞P.88)

携帯電話または PHS 用の所在地情報を作る

通信をするときには、パソコンを使う地域の市外局番を登録しておきます。携帯電話や PHS で通信するときは、携帯電話または PHS 用の所在地情報を登録する必要があります。

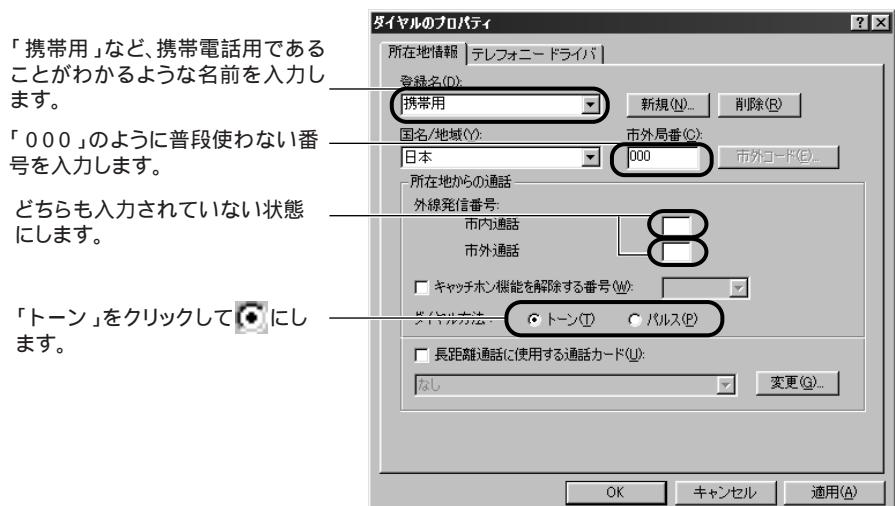
ここでは、登録方法を説明します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (テレフォニー) をクリックします。
- 3 「新規」をクリックします。



「新しい場所が作成されました。」というウィンドウが表示されます。

- 4 「OK」をクリックします。
- 5 携帯電話または PHS 用の所在地情報を設定します。



- 6 「OK」をクリックします。
- 7 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある (閉じるボタン) をクリックします。

これで、携帯電話や PHS で通信するときに使う所在地情報が作成されました。

外出先用のダイヤルアップ接続を作る

通信をするときには、現在の場所からアクセスポイントまでの電話料金がかかります。外出先で通信をするときは、できるだけ外出先に近いアクセスポイントを指定したダイヤルアップ接続を作つておくことで、電話料金を節約できます。
ここでは、@nifty に入会していることを前提に説明しています。

アドバイス 他のプロバイダをご利用の場合

インターネット接続ウィザードでダイヤルアップ接続を作成してください。

『使いこなす本 インターネット編』

その後、次の手順に従つて、使用するモデムを変更します。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」「アクセサリ」「通信」の順にマウスボインタを合わせ、「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。

2 外出先用に作成したダイヤルアップ接続にマウスボインタを合わせ、右ボタンを1回押し、「プロパティ」をクリックします。

3 「全般」タブの「接続の方法」でお使いの機種に合わせてモデムを選択し、「OK」をクリックします。（☞P.87）

FMモバイルスイッチャーとは

LANなどのネットワーク環境で通信を行っているときに、通信設定を簡単に切り替えることができるアプリケーションです。

「FMモバイルスイッチャー」について詳しくは、FMモバイルスイッチャーのヘルプをご覧ください。

- 1 USB コネクタまたは PDC コネクタに携帯電話や PHS を接続します。

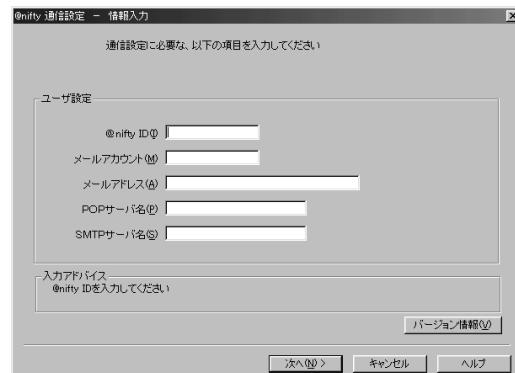
「USB/PDC コネクタに接続する」（☞P.82）

- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」「はじめよう！インターネット(@nifty)」の順にマウスボインタを合わせ、「通信設定」をクリックします。

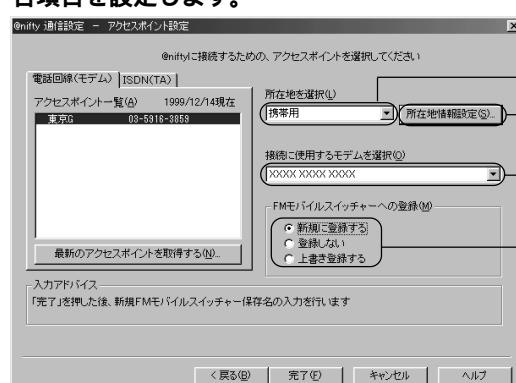
「@niftyへの入会はお済ですか？」というメッセージが表示されます。表示されないときは、手順 4 に進んでください。

- 3 「はい」をクリックします。

- 4 各項目を入力し、「次へ」をクリックします。



- 5 各項目を設定します。



■をクリックして携帯用の所在地情報を選択します。
所在地情報の設定内容を確認するときにクリックします。
■をクリックしてお使いの機種に合わせてモデムを選択します（☞P.87）。
「新規に登録する」をクリックして□にします。

④ 携帯電話の場合

☞手順 6 へ

④ PHS の場合

「完了」をクリックします。

☞手順 9 へ

アドバイス

すでにあるダイヤルアップ接続を更新するとき

接続したいアクセスポイントをクリック後、以下の操作を行います。

1 「FMモバイルスイッチャーへの登録」で「上書き登録」をクリックして②にし、「完了」をクリックします。

2 更新するダイヤルアップ接続の名前をクリックし、「OK」をクリックします。

3 「通信設定は、正常に終了しました。」というウィンドウで「OK」をクリックします。

4 「設定の保存が完了しました。」というウィンドウで「OK」をクリックします。

Windows98 を起動するとき

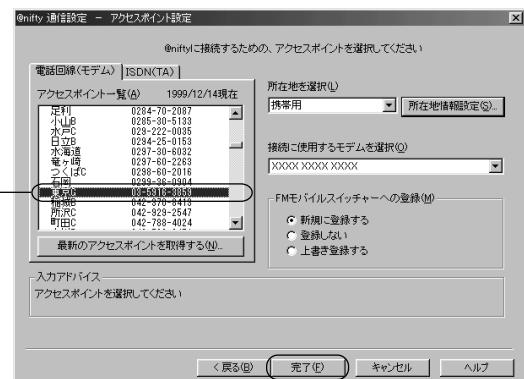
FMモバイルスイッチャーに複数の環境が登録されていると、Windows98の起動時にメッセージが表示されます。その画面で通信環境を選んでください。そのまましばらく待つと、Windows98が起動します。

6 「最新のアクセスポイントを取得する」をクリックします。

7 「所在地付近のアクセスポイントを取得しますか？」というウィンドウで「いいえ」をクリックします。

@nifty 入会受付センターに電話がかかり、全国のアクセスポイントの一覧がダウンロードされます。

8 接続したいアクセスポイントをクリックし、「完了」をクリックします。



外出先に一番近いアクセスポイントをクリックします。

9 「FMモバイルスイッチャー連携」ウィンドウで、ダイヤルアップ接続の名前を入力し、「OK」をクリックします。

10 「通信設定は、正常に終了しました。」というウィンドウで「OK」をクリックします。

11 「設定の保存が完了しました。」というウィンドウで「OK」をクリックします。

これで、携帯電話を使って通信するためのダイヤルアップ接続が作成されました。

PHSを使っている場合は、アクセスポイントの設定を行う必要があります。

詳しくはお使いのプロバイダにご確認ください。

@niftyについては、<http://www.nifty.com/ap/japan/piafs/piafs.htm>を参照してください。

携帯電話やPHS用のモデムを選択する

「接続に使用するモデム」の種類は、お使いの携帯電話またはPHSによって異なります。以下の表とお使いの携帯電話やPHSのマニュアルをご覧になり、お使いの機種に対応するモデムを選択してください。

・ 携帯電話接続ケーブル(FMV-NCBL92)を使用する場合

ケーブル	種類	モデム
FMV-NCBL92	回線交換 9600bps	Fujitsu SOFT PDC

・ 携帯電話接続用USBケーブル(FMV-CBL101)を使用する場合

ケーブル	種類	モデム
FMV-CBL101	回線交換 9600bps	Fujitsu SOFT USB PDC
	パケット交換 28800bps	Fujitsu SOFT USB PDC-PACKET
	Doccimo回線交換 9600bps	Fujitsu SOFT USB PDC-Doccimo
	Doccimo PHS 32K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K-Doccimo
	Doccimo PHS 64K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K-Doccimo

・ PHS接続用USBケーブル(FMV-CBL102)を使用する場合

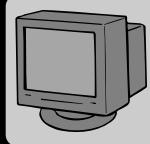
ケーブル	種類	モデム
FMV-CBL102	NTT DoCoMo PHS 32K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K
	NTT DoCoMo PHS 64K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K

外出先で通信する

- 1 USB コネクタまたは PDC コネクタに、携帯電話または PHS を接続します。
「USB/PDC コネクタに接続する」(☞P.82)
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「通信」の順にマウスポインタを合わせ、「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。
- 3 外出先用に作成したダイヤルアップ接続をクリックします。
- 4 「パスワード」の右の欄にパスワードを入力します。
- 5 「発信元」の右の▼をクリックし、携帯電話または PHS 用に作成した所在地情報をクリックします。



- 6 「接続」をクリックします。
- 7 接続されたら、お使いになる通信用のアプリケーションを起動します。



外部ディスプレイを接続する

CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続すると、液晶ディスプレイよりも高い解像度で表示することができます。また、マルチモニタ機能を使用することもできます。ここでは以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する P.89
- ・外部ディスプレイを接続する P.90
- ・ディスプレイの表示を切り替える P.91
- ・外部ディスプレイの解像度と発色数について P.93
- ・マルチモニタ機能を使う P.95

必要なものを用意する



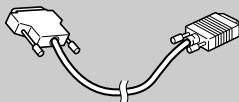
警 告



感 電

外部ディスプレイは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

アドバイス ディスプレイケーブル



外部ディスプレイ

「PC/AT互換機」または「DOS/Vパソコン」対応のものを用意してください。

ディスプレイケーブル

外部ディスプレイとパソコンを接続するケーブルです。外部ディスプレイの背面につながっていたり添付されています。添付されていない場合や、コネクタの形状が異なって接続できない場合は、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」と表示されたもので、外部ディスプレイのコネクタの形状にあったものを用意してください。

外部ディスプレイのマニュアル

外部ディスプレイにより接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイのマニュアルもご覧ください。

外部ディスプレイを接続する



警 告



感 電 外部ディスプレイを接続するときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。

感電の原因となります。



注 意



ケーブル類は、間違えないように接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となることがあります。

■ 重要

外部ディスプレイの接続は、Windows98 のセットアップ終了後に行ってください

Windows98 のセットアップを行う前に接続すると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

外部ディスプレイのマニュアルもご覧ください

接続方法は、外部ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイのマニュアルもあわせてご覧ください。

1 パソコン本体の電源を切ります。

「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.42)をご覧になり、MAINスイッチを切って（側にスライドして）ください。

2 オプション機器の電源を切り、取り外します。

3 ACアダプタを取り外します。

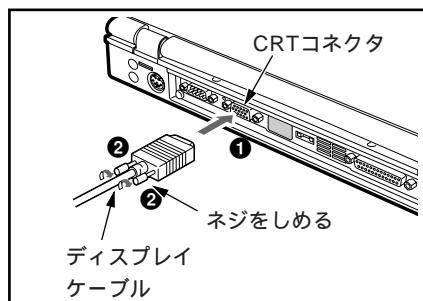
「ACアダプタを取り外す」(☞P.45)

4 パソコン本体背面のCRTコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは、正面から見ると台形になっています。

① コネクタの形を互いに合わせ、しっかりと差し込んでください。

② ディスプレイケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



5 外部ディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。

外部ディスプレイ背面にディスプレイケーブルがつながっている場合もあります。
接続方法は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

6 外部ディスプレイに電源ケーブルを接続します。

外部ディスプレイに電源ケーブルがつながっている場合もあります。外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

7 外部ディスプレイの電源ケーブルを、コンセントに接続します。

続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

「ディスプレイの表示を切り替える」(☞P.91)

ディスプレイの表示を切り替える

アドバイス

外部ディスプレイを接続後パソコンの電源を入れると

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示することができます。

- ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されることがあります。

画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。

ここでは、接続したCRTディスプレイなどの外部ディスプレイとパソコン本体の液晶ディスプレイで、表示を切り替える方法を説明します。

表示を切り替えるには、キーボードから切り替える方法と、画面のプロパティから切り替える方法の2つがあります。どちらの方法で切り替えてもかまいません。

ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイで表示する
- ・接続した外部ディスプレイで表示する
- ・パソコン本体の液晶ディスプレイと接続した外部ディスプレイで同時に表示する

キーボードで切り替える

1 ACアダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」(☞P.44)

2 外部ディスプレイの電源を入れます。

外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

3 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.40)

4 [Fn]を押しながら[F10]を押します。

表示が切り替わります。

2つのキーを押すごとに、「外部ディスプレイ表示 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示 液晶ディスプレイ表示 外部ディスプレイ表示...」の順でディスプレイ表示が切り替わります。

画面のプロパティで切り替える

1 ACアダプタを取り付けます。

「ACアダプタを取り付ける」(☞P.44)

2 外部ディスプレイの電源を入れます。

外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

3 パソコン本体の電源を入れます。

「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.40)

4 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

5 [画面]をクリックします。

6 「設定」タブをクリックします。

7 「詳細」をクリックします。

8 「画面」タブをクリックします。

アドバイス

「画面」タブと「色」タブが表示されないととき

「画面のプロパティ」ウィンドウを一度閉じてから、もう一度「画面のプロパティ」を開いて「詳細」をクリックすると、表示されます。

アドバイス

「セカンダリ」について
「セカンダリ」と表示されているときは、をクリックしてにし、「プライマリ」にしてください。

アドバイス

「はい」をクリックしないと
手順11で「はい」をクリックしないでしばらくすると、元の画面表示に戻ります。手順9からやり直してください。

アドバイス

BIOS セットアップの画面について

BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみで表示されることがあります。BIOS セットアップの画面も外部ディスプレイに表示したいときには、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「ディスプレイ設定」の「ディスプレイ」(P.115) で「外部ディスプレイ」または「同時表示」を選択してください。

表示されるディスプレイ

Windows 98 が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows 98 で使用していた状態になります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。

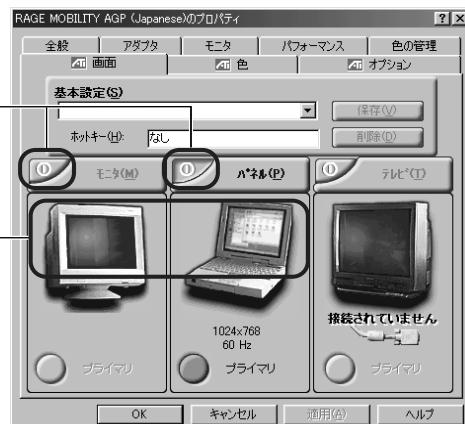
マルチモニタ機能を使うとき

P.95

9 表示するディスプレイを選びます。

緑色のをクリックするたびに、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示するか、個別のディスプレイで表示するかを切り替えます。

- ・液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示する
緑色のをクリックして、両方のを押された状態にします。
- ・液晶ディスプレイのみ、または外部ディスプレイのみで表示する
緑色のをクリックして、両方のを押された状態にしてから、表示しないディスプレイのをクリックして押されていない状態にします。



(この画面は、機種により若干異なります)

10 「OK」をクリックします。

ディスプレイの表示が切り替わり、「ATIプロパティページ」ウィンドウが表示されます。

11 「はい」をクリックします。

12 「画面のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。

重要

外部ディスプレイ表示に切り替えたとき

外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、何も表示されなかったり、正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行ってください。

・何も表示されないとき

何も操作しないでお待ちください。10秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、 を押しながら を押して、表示先を切り替えてください。

・正常に表示されないとき

外部ディスプレイのマニュアルで、外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、以下の方法で設定してください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

2 (画面) をクリックします。

3 「設定」タブをクリックします。

4 「詳細」をクリックします。

5 「アダプタ」の「リフレッシュレート」を外部ディスプレイでサポートする走査周波数に設定し、「OK」をクリックします。

ウィンドウが表示されたときは、「はい」または「OK」をクリックします。

外部ディスプレイの解像度と発色数について

外部ディスプレイを接続すると、本パソコンの液晶ディスプレイよりも高解像度で表示することができます。

ここでは、外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数、および変更方法について説明します。

外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数

アドバイス

液晶ディスプレイと液晶プロジェクタで同時に表示するとき

1024×768 ドットの解像度が表示可能な液晶プロジェクタが必要となります。

High Color、True Color の発色数

High Color(16ビット)は65536色、True Colorは1677万色です。

ディスプレイの解像度と発色数は次の表のとおりです。以下の解像度や発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数	
	液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時表示	外部ディスプレイで表示
640×480 ドット	256色 1 High Color(16ビット) 1 True Color(24ビット) 1 2 True Color(32ビット) 1 2	256色 High Color(16ビット) True Color(24ビット) True Color(32ビット)
800×600 ドット	256色 1 High Color(16ビット) 1 True Color(24ビット) 1 2 True Color(32ビット) 1 2	256色 High Color(16ビット) True Color(24ビット) True Color(32ビット)
1024×768 ドット 3	256色 4 High Color(16ビット) True Color(24ビット) 2 True Color(32ビット) 2	256色 High Color(16ビット) True Color(24ビット) True Color(32ビット)
1280×1024 ドット	256色 4 High Color(16ビット) 4 True Color(24ビット) 2 4	256色 High Color(16ビット) True Color(24ビット)
1600×1200 ドット	256色 4 High Color(16ビット) 4	256色 High Color(16ビット)

- 1 800×600 ドット以下の解像度に設定すると、ディスプレイドライバの初期値により、液晶ディスプレイ全体に拡大表示する全画面表示になります。
この設定は変更することができます。
「全画面表示の設定について」(☞P.162)
- 2 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、True Color(24または32ビット)に表示されます。
- 3 1024×768 ドットの解像度で3Dアクセラレータを使用する場合、High Color(16ビット)表示に設定してください。
- 4 1280×1024 ドット以上の解像度に設定すると、仮想スクリーンモードでの表示となります。仮想スクリーンモードでは、液晶ディスプレイおよび外部ディスプレイに 1024×768 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポイントを動かすことによって表示します。

重要

解像度や発色数を変更するときの注意

- 表示できる解像度はお使いの外部ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイのマニュアルでご確認ください。
- プラグアンドプレイ対応のディスプレイの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイもしくは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- プラグアンドプレイ非対応のディスプレイの場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は、外部ディスプレイの最大解像度になります。
- 同時表示を選択した場合、外部ディスプレイ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。
- 解像度の切り替え時などに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 同時表示時に、外部ディスプレイの画面が正しく表示されないことがあります。

外部ディスプレイの解像度と発色数を変更する



アドバイス

解像度、発色数の設定により画面の調整が必要になることがあります

変更した解像度、発色数の設定によっては、画面の表示される位置、幅、高さの調節が必要になる場合があります。調節のしかたについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

外部ディスプレイの解像度を変更することができます。

変更する手順については、「液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える」(☞P.33)の操作と同じですが、以下の点にご注意ください。

- 手順1の前に外部ディスプレイ表示に切り替えます。
「ディスプレイの表示を切り替える」(☞P.91)
- 手順11「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください」というウィンドウでは、お使いの外部ディスプレイに合ったモデルを選んでください。外部ディスプレイのマニュアルもご覧ください。合うモデルがないときは、手順11の設定に従ってください。

マルチモニタ機能を使う

本パソコンには、パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで、1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここではプライマリアダプタ（メイン画面）として液晶ディスプレイを、セカンダリアダプタ（拡張表示）として外部ディスプレイを使用する場合の手順を次のように説明します。

- ・セカンダリアダプタを設定する（☞P.95）
- ・マルチモニタ機能を使っているときに表示できる解像度と発色数（☞P.97）
- ・アダプタの表示位置を変更する（☞P.97）

セカンダリアダプタを設定する



重要

マルチモニタ機能の注意

- ・マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のアプリケーションを終了してください。
- ・TV を接続することはできません。
- ・2つのディスプレイにまたがるウィンドウがあるときは、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
- ・セカンダリアダプタのみに表示されているアプリケーションを起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了させないでください。アプリケーションおよびWindows 98の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- ・以下の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
 - 液晶ディスプレイの全画面表示
 - MS-DOS プロンプトのフルスクリーン表示
 - 一部のスクリーンセーバー

アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインターを合わせ、「Webページで表示」をクリックしてチェックマークを外すとアクティブデスクトップが解除され、Windows 98 の標準画面に切り替わります。

解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

発色数についての注意

- ・プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の発色数を設定しないでください。
- ・High Color または True Color に設定してください。256 色に設定すると、正しく表示されないことがあります。

解像度についての注意

- ・プラグアンドプレイ対応のディスプレイの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイもしくは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- ・プラグアンドプレイ非対応のディスプレイの場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は、外部ディスプレイの最大解像度になります。

重要

本パソコンの液晶ディスプレイをセカンドリアダプタに設定しているとき

再起動すると、本パソコンの液晶ディスプレイがプライマリアダプタになり、接続したディスプレイがセカンドリアダプタになることがあります。このときは、「設定」タブでセカンドリアダプタを使用不可にし、「OK」をクリックしていったん「画面のプロパティ」ウィンドウを閉じたあと、液晶ディスプレイにセカンドリアダプタを設定し直してください。
リフレッシュレートについての注意

マルチモニタ機能を使用中にWindows98を再起動すると、本パソコンのサポート外のリフレッシュレートが外部ディスプレイに設定されるため、画面が正常に表示されないことがあります。そのときは、外部ディスプレイのリフレッシュレートを85Hz以下に再設定してください。

- 1 「RAGE MOBILITY AGP (Japanese) のプロパティ」 ウィンドウの「画面」タブを表示します。

「画面のプロパティで切り替える」の手順1～手順8（☞P.91）

- 2 緑色の①をクリックして、両方の②を押された状態にしてから、セカンドリアダプタに設定するディスプレイの③をクリックして押されていない状態にします。

- 3 「OK」をクリックします。

「ATI プロパティページ」 ウィンドウが表示されます。

- 4 「はい」をクリックします。

- 5 ブライマリアダプタの解像度と発色数を設定します。

「液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える」の手順16（☞P.34）

「マルチモニタ機能を使っているときに表示できる解像度と発色数」（☞P.97）

- 6 「画面のプロパティ」 ウィンドウの「適用」をクリックします。変更しないときは、クリックする必要はありません。

ウィンドウが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。ただし、再起動を促すメッセージが表示されたときは、「キャンセル」または「いいえ」をクリックして、再起動しないでください。ウィンドウが表示されないときは、自動的に設定が変更されます。

- 7 「画面のプロパティ」 ウィンドウの「設定」タブで、「2」と表示されたディスプレイのイラストにマウスポインタを合わせてフラットポイントの右ボタンを1回押し、「使用可能」をクリックして✓(チェックマーク)を付けます。

「互換性の警告」 ウィンドウが表示されたときは、「OK」をクリックしてください。

- 8 セカンドリアダプタの解像度と発色数を設定します。

「液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える」の手順16（☞P.34）

「マルチモニタ機能を使っているときに表示できる解像度と発色数」（☞P.97）

- 9 「画面のプロパティ」 ウィンドウの「OK」をクリックします。

ウィンドウが表示されるたびに、「OK」または「はい」をクリックしてください。ただし、再起動を促すメッセージが表示されたときは、「キャンセル」または「いいえ」をクリックして、再起動しないでください。ウィンドウが表示されないときは、自動的に設定が変更されます。

アドバイス

ディスプレイの切り替え

マルチモニタ使用時は、キーボードによるディスプレイの切り替えは無効となります。

「セカンドリ」について
「セカンドリ」と表示されているときは、①をクリックして②にし、「ブライマリ」にしてください。

アドバイス

「設定」タブの「1」と「2」について

「1」はブライマリアダプタ、「2」はセカンドリアダプタを示します。

アドバイス

接続したディスプレイのリフレッシュレートを60Hzより高く設定したとき

仮想スクリーンモードになることがあります。このときは、「アダプタ」タブの「リフレッシュレート」を60Hzに設定してください。

マルチモニタ機能を使っているときに表示できる解像度と発色数

次の組み合わせで選択できます。

次の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

発色数	セカンダリの解像度	640 × 480	800 × 600	1024 × 768	1280 × 1024
	プライマリの解像度	640 × 480	800 × 600	1024 × 768	1280 × 1024
High Color (16ビット)	640 × 480				
	800 × 600				
	1024 × 768				×
	1280 × 1024			×	×
True Color (24ビット)	640 × 480				×
	800 × 600				×
	1024 × 768			×	×
	1280 × 1024	×	×	×	×
True Color (32ビット)	640 × 480		×	×	×

1280 × 1024ドット以上の解像度を表示できるディスプレイをお使いの場合でも、1152 × 864ドットの仮想スクリーンモードになります。

アダプタの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1 セカンダリアダプタを設定します。
「セカンダリアダプタを設定する」(P.95)
- 2 「コントロールパネル」ウィンドウの[画面]をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。
- 5 「OK」をクリックします。
分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。



CCDカメラを接続すると、デジタル写真やデジタルビデオ映像をパソコンで扱うことができます。

ここでは、以下のことを説明します。

- ・必要なものを用意する P.98
- ・CCD カメラを接続する P.98
- ・FM キャプチャについて P.99

必要なものを用意する

アドバイス

CCDカメラについて
CCDカメラの接続方法や取り扱いについては、CCDカメラのマニュアルをご覧ください。

アドバイス

「FM キャプチャ」起動中は、CCDカメラの取り付けや取り外しを行わないでください

「FM キャプチャ」が正常に動作しないことがあります。必ず「FM キャプチャ」を終了させてから、CCDカメラの取り付けや取り外しを行ってください。

アドバイス

CCDカメラについて
CCDカメラの接続方法や取り扱いについては、CCDカメラのマニュアルをご覧ください。

CCD カメラ

FMV-NCCD2 をお使いください。

CCD カメラのマニュアル

CCD カメラの取り扱い方法などが記載されています。必ず CCD カメラのマニュアルもご覧ください。

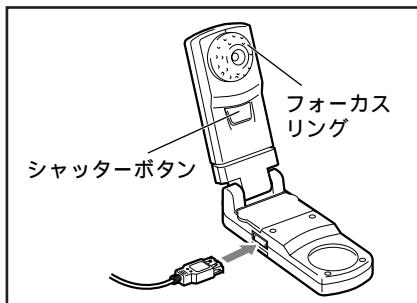
CCD カメラを接続する



注意

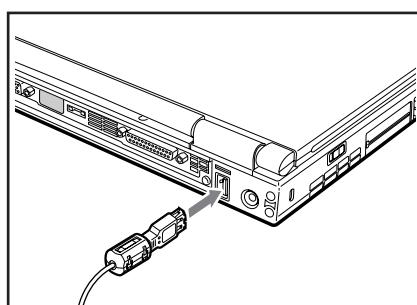
故障 CCDカメラの接続は、マニュアルをよくお読みになり正しく行ってください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよびCCDカメラが故障する原因となることがあります。

- 1 CCD カメラに接続ケーブルを接続します。



- 2 接続ケーブルのもう一方のコネクタをパソコン本体の USB コネクタに接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



アドバイス FM キャプチャが起動しないとき

他のアプリケーションで CCD カメラを使用していると、「FM キャプチャ」が起動しません。他のアプリケーションを終了してから、「FM キャプチャ」を起動してください。

FM キャプチャについて

FM キャプチャは CCD カメラを使ってデジタル写真やデジタルビデオ映像を撮るためのアプリケーションです。

撮影した画像データは、連携するアプリケーションを使って、編集や加工をしたりメールに添付したりすることができます。

FM キャプチャには、次の 4 つの操作モードがあります。

- ・写真を撮るモード
- ・写真を見るモード
- ・ビデオを撮るモード
- ・ビデオを見るモード

各モードの切り替えは、メインパネルのボタンをクリックすることで変更できます。モードを切り替えると、メインパネルの下の操作パネルが変わり、各モードの操作を行うことができます。



重要

FM キャプチャについて

- ・「FM キャプチャ」は弊社 CCD カメラ (FMV-NCCD2) に対応しています。
- ・本パソコンにインストールされている「FM キャプチャ」を使用してください。
別売の CCD カメラに添付されている「FM キャプチャ」をインストールしないでください。本パソコンにインストールされている「FM キャプチャ」と操作方法が異なります。
- ・「FM キャプチャ」を起動させた状態で、CCD カメラの接続および取り外しを行わないでください。
- ・「FM キャプチャ」を使用する際には、画面の発色数を「High Color (16 ピット)」に設定することをお勧めします。
- ・「FM キャプチャ」起動中は、本パソコンはサスペンドできません。

写真を撮って見る

CCD カメラを使って写真を撮ってみましょう。

「FM キャプチャ」では写真を最大で 100 枚まで撮ることができます。

1 CCD カメラを本パソコンに接続します。

「CCD カメラを接続する」(☞P.98)

2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「FM キャプチャ」の順にマウスポインタを合わせ、「1.FM キャプチャ」をクリックします。

メッセージが表示され、しばらくすると「FM キャプチャ」が起動します。

3 メインパネルの(写真を撮るボタン)をクリックします。

写真を撮るモードになります。

- 写真を撮るモードの操作パネル



4 CCD カメラを被写体に向きます。

フォーカスリングで、ピントを合わせます。

左に回すと近くに、右に回すと遠くにピントが合います。

5 写真を撮ります。

写真を撮る方法には以下の方法があります。

- CCD カメラのシャッターを押す
- 操作パネルの(シャッター)をクリックする

続いて撮った写真を見てみましょう。

6 メインパネルの(写真を見るボタン)をクリックします。

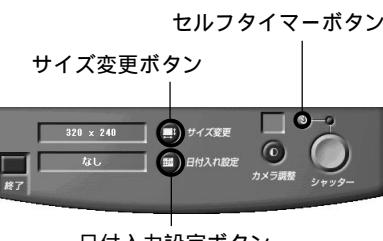
写真を見るモードになり、撮った写真がファインダーに表示されます。



アドバイス

写真を撮るモードのボタンについて

アドバイス
FM キャプチャを終了するには
操作パネルの(終了ボタン)をクリックするか、メインパネル右上の(終了)をクリックして終了してください。



写真のサイズを変更するには

(サイズ変更ボタン)をクリックすると、写真のサイズを変更することができます。「640 × 480」「320 × 240」「160 × 120」の3種類があり、ボタンを押すごとに切り替わります。

写真に日付を入れるには

(日付入り設定ボタン)をクリックすると、写真に日付や時刻を入れることができます。「なし」「日付のみ」「日付と時刻」の3種類があり、ボタンを押すごとに切り替わります。日付と時刻は、コントロールパネルの「地域」で設定されているものが入ります。日付と時刻の設定について詳しくは、Windows98 のヘルプをご覧ください。

セルフタイマーで写真を撮るには

(セルフタイマー)をクリックすると、約10秒後にシャッターが自動的に押されて、写真を撮ることができます。セルフタイマーの左側にカウントが表示されます。

撮った写真を活用する

アドバイス

(編集ボタン)をクリックできないとき

「はーときやんばす」が使用できない状態になっています。「はーときやんばす」をインストールしてください。

『トラブル解決Q&A』の「アプリケーションのインストール／削除」

(アルバムボタン)をクリックできないとき

「らくらく写真館」が使用できない状態になっています。「らくらく写真館」をインストールしてください。

『トラブル解決Q&A』の「アプリケーションのインストール／削除」

その他の活用方法

本パソコンにインストールされている「パーティックス：Facematch」では、CCDカメラで撮った写真を使った相性診断ができます。

詳しくはヘルプをご覧ください。



・写真を送る

(メールボタン)をクリックすると、メールソフトが起動し、撮った写真をEメールに添付することができます。

『使いこなす本 インターネット編』の「第5章 Eメールを使いこなそう」

・写真を加工する

(編集ボタン)をクリックすると「はーときやんばす」が起動し、撮った写真を加工することができます。

詳しくは、「はーときやんばす」のヘルプをご覧ください。

・写真を壁紙にする

(壁紙ボタン)をクリックすると、撮った写真をデスクトップの壁紙にすることができます。壁紙の表示を変更する方法は、画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決！Q&A」をご覧ください。

・写真を保存する

(アルバムボタン)をクリックすると、「らくらく写真館」のPhotoManagerが起動し、撮った写真が「私の写真」フォルダに保存されます。

『使いこなす本 ソフト編』の「楽しもう！デジタル写真」

・写真を削除する

(削除ボタン)をクリックすると、ファインダーに表示されている写真を削除します。

・撮った写真すべてを削除する

(全削除ボタン)をクリックすると、撮った写真をすべて削除します。

ビデオを撮って見る

アドバイス

ビデオ撮影を再開するとそれまでに録画した画像はなくなります

「FMキャプチャ」で撮影したビデオ映像は保存することができます。

ビデオを撮影すると、それ以前に録画した映像は消えてしまいます。また、映像を継ぎ足して撮影することはできません。

CCDカメラを使ってビデオ撮影をしてみましょう。

「FMキャプチャ」ではビデオ映像を最大約60秒間撮影することができます。

1 FMキャプチャを起動します。

「写真を撮って見る」の手順1、2（☞P.100）

アドバイス

録音について

- ・ビデオ撮影時の録音音量の設定、および録音する項目については、「録音時の音量設定」(☞P.31)をご覧ください。
- ・内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。



2 メインパネルの(ビデオを撮るボタン)をクリックします。

ビデオを撮るモードになります。

- ・ビデオを撮るモードの操作パネル

3 CCDカメラを被写体に向けます。

左に回すと近くに、右に回すと遠くにピントが合います。

4 ビデオを撮ります。

ビデオを撮る方法には以下の方法があります。

- ・CCDカメラのシャッターボタンを押す
- ・操作パネルの(録画/停止ボタン)をクリックする

5 撮影を終了します。

ビデオの撮影を終了する方法は、手順4と同様です。

撮影時間が最大の約60秒を過ぎると、撮影は自動的に終了します。

続いて撮影したビデオを見てみましょう。

6 メインパネルの(ビデオを見るボタン)をクリックします。

ビデオを見るモードになります。

7 撮影したビデオの最初のシーンがファインダーに表示されます。

8 (再生ボタン)をクリックします。

撮影したビデオを見るることができます。

ビデオをメールで送る

アドバイス

ご購入時はFJV形式が選択されています

MPEG1形式で送る場合にはメール添付形式の設定を変更してください。

メールソフトについて

ワンタッチボタンのE-mailボタンの設定を変更すると、メールを送信できないことがあります。

「ワンタッチボタンを使う」(☞P.26)



・メールで送る

(メールボタン)をクリックすると、撮影したビデオをEメールに添付できます。添付するビデオの形式には、「MPEG1形式」と「FJV形式」があります。形式の設定は(メール設定ボタン)をクリックして表示される「メール設定」ウィンドウで行います。「FJV形式」のビデオを再生する場合は、「FJV VideoPlayer」(ビデオ再生プレーヤ)が必要になります。

・添付するビデオの形式を設定する

(メール設定ボタン)をクリックすると、「メール設定」ウィンドウが表示されます。「メール設定」ウィンドウではEメールに添付するビデオ形式(MPEG1/FJV形式)の設定、および「FJV形式」専用のビデオ再生プレーヤ「FJV VideoPlayer」の添付を設定することができます。

- ・ビデオを削除する
（X削除ボタン）をクリックすると、撮影したビデオのすべてのシーンが削除されます。いったん削除すると元に戻せないので、気をつけてください。

・メール設定ウィンドウ



アドバイス

FJV VideoPlayer を送る

FJV形式のビデオを再生するためには、「FJV VideoPlayer」(ビデオ再生プレーヤ)が必要です。初めてFJV形式のビデオを送信する相手には、ビデオを送信する前に、「FJV VideoPlayer」を送信してください。

- ・「メール設定」ウィンドウの「送る」ボタンをクリックすると、メールソフトが起動し、「FJV VideoPlayer」が添付されたメールが作成されます。
- ・添付ファイルで送られた「SetupVP.exe」をクリックして実行すると、「FJV VideoPlayer」がインストールされ、FJV形式のビデオを再生できるようになります。

コラム



「FJV形式」と「MPEG1形式」について

FJV形式

富士通独自の形式です。ファイルサイズをMPEG1形式の約1/3に圧縮できますが、画像が粗くなります。

MPEG1形式

一般的なビデオCDで使用されている形式です。画質は鮮明ですが、ファイルサイズが大きくなります。

FM キャプチャをご利用時の留意事項

写真やビデオの撮影について

- ・ハードディスクの空き容量がなくなると、写真やビデオが撮影できなくなります。
- 『トラブル解決 Q&A』の「ハードディスクの空き領域を増やす」
- ・写真やビデオを撮影するときに、ファインダーの映像が実際より少し遅れて表示されることがあります。
- ・「FM キャプチャ」のファインダーには、常に 320×240 のサイズで表示されます。

操作パネルのボタンについて

- ・写真を撮るモードおよびビデオを撮るモードで、操作パネルのボタンを続けて押すときは、2秒以上待ってから次のボタンを押してください。続けて押すと、画面が乱れることがあります。

日付や時刻を入れる場合

- ・日付や時刻の書式は、「コントロールパネル」ウィンドウの「地域」タブで設定します。
- ・「カメラの調整」ウィンドウで、「写真の画質」を「最高画質」にすることをお勧めします。画質を低くすると、日付や時刻の文字が不鮮明になります。
- ・日付や時刻の文字の大きさや色は変更できません。

連携して起動するメールソフトについて

連携して起動するメールソフトは、「FM 便利ツール」が管理しています。「FM 便利ツール」をアンインストールしているときは、「らくらくメールBOX」が起動します。「らくらくメールBOX」をアンインストールしているときは、Outlook Express Ver.4 以上などのMAPI対応のメールソフトが起動します(メールソフトでMAPIを使用できる状態にしているとき)。詳しくは各メールソフトのヘルプをご覧ください。

壁紙について

ファインダーの画像を壁紙に設定するだけです。中央に表示するかなど、表示位置は変更しません。

ビデオをメールに添付する場合

- ・「FJV VideoPlayer」の動作環境に適合しないパソコンをお使いの人に送る場合は、MPEG1形式で送ってください。ただし、送信先に、MPEG1形式のビデオプレーヤーが必要です。詳しくはヘルプをご覧ください。
- ・送信先に DirectX6.1 以上がインストールされていない場合、「FJV VideoPlayer」は使用できません。

用語

MAPI

Message API の略。
Microsoft 社が標準化した、メッセージ通信用の
Windows 標準のシステム
インターフェース。

その他のオプション機器を使う

ここでは本パソコンに接続できるその他のオプション機器の一例として「ハードディスク」と「MO（光磁気ディスク）ドライブ」をご紹介します。

- ・ハードディスクを使う ➡ P.105
- ・MO（光磁気ディスク）ドライブを使う ➡ P.105

ハードディスクを使う



用語

オプション機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格のオプション機器には、ハードディスク、スキャナ、MO（光磁気ディスク）ドライブなどがあります。

アドバイス ハードディスクを増設するには

SCSIカードを本パソコンにセットします。
「PCカードをセットする」
(➡P.78)
外付けハードディスクの接続や設定のしかたについては、ハードディスクとSCSIカードのマニュアルをご覧ください

MO ドライブを使うには

SCSIカードを本パソコンにセットします。
「PCカードをセットする」
(➡P.78)
MO ドライブの接続や設定のしかたについては、MO ドライブとSCSIカードのマニュアルをご覧ください。

4

オプション機器を活用しよう！（その他のオプション機器を使う）

本パソコンには、SCSI規格の外付けハードディスクを増設することができます。

外付けハードディスクを増設すると、より多くのデータを保存できるようになります。
外付けハードディスクを増設するには、次のものが必要です。

外付けハードディスク

SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗（ターミネータ）

SCSI規格対応の機器を使うために必要なものです。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。
終端抵抗は、外付けハードディスクに内蔵されている場合もあります。

外付けハードディスクと SCSI カードのマニュアル

外付けハードディスクやSCSIカードによっては、接続方法や設定方法が異なる場合があります。各マニュアルをご覧ください。

エムオー

MO（光磁気ディスク）ドライブを使う

MO（光磁気ディスク）ドライブとは、レーザーと磁気で光磁気ディスクにデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶媒体です。MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。

MO ドライブを使うには、次のものが必要です。

MO（光磁気ディスク）ドライブ

本パソコンには、SCSI規格の外付けのMO ドライブを取り付けられます。

SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗（ターミネータ）

SCSI規格対応の機器を使うために必要なものです。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。
終端抵抗は、MO ドライブに内蔵されている場合もあります。

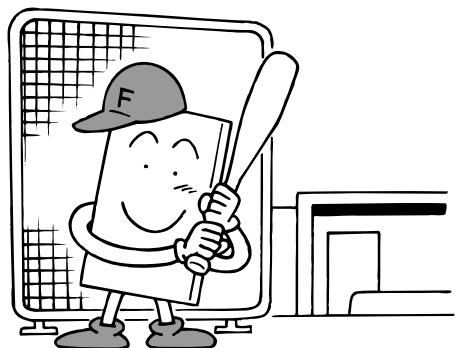
MO（光磁気ディスク）ドライブと SCSI カードのマニュアル

MO（光磁気ディスク）ドライブやSCSIカードによっては、接続方法や設定方法が異なる場合があります。各マニュアルをご覧ください。

MO（光磁気ディスク）

128MB、230MB、540MB、640MB、1.3GBの容量のものが市販されています。
お使いになる前にフォーマットする必要があります。

お使いになるMO ドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになるMO ドライブが対応している容量のMOをお買い求めください。



第5章

BIOS セットアップ

本章では、「BIOS セットアップ」を使って、ハードウェアの設定を変更する方法について説明しています。

本パソコンのハードウェアは、あらかじめ最適な状態に設定されています。通常お使いになる範囲では、変更する必要はありません。必要な場合のみご覧ください。

本章には、ある程度パソコンについての知識を必要とする記述があります。

1. BIOS セットアップとは	108
2. BIOS セットアップの操作のしかた	109
3. ご購入時の設定に戻す	112
4. BIOS セットアップのメニュー詳細	113
5. BIOS のパスワード機能を使う	121
6. BIOS が表示するメッセージ一覧	124



1

BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。本パソコンをご購入になったときは、すでに最適なハードウェア環境が設定されています。通常お使いになる範囲では、これらの設定を変更する必要はありません。

アドバイス

BIOS セットアップの設定値の保存先

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご連絡ください。

起動時の自己診断テスト中に電源を切ると

本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は、4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。

「メッセージ一覧」の 14 (☞P.126)

自己診断テスト中は、不注意に電源を切らないでください。

用語

起動時の自己診断テスト (POST)

本パソコンの電源を入れたときや再起動したとき、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているなどを、自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST : Power On Self Test)といいます。

BIOS とは、「Basic Input/Output System」の略で、ハードウェア環境の設定や OS の起動、基本的な入出力機能の制御などを行うためのプログラムです。

BIOS セットアップは、BIOS の機能についての各種の設定値を変更するためのプログラムです。BIOS セットアップの設定値を変更することによって、パソコン本体と周辺機器の機能や動作モードを、変更することができます。

通常は、以下の場合などに BIOS セットアップを利用します。

- ・特定の人だけが本パソコンを使えるように、パスワード（暗証番号）を設定したいとき
- ・起動時の自己診断テストで、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

BIOS セットアップの設定は、正確に行ってください

設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。

このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定値に戻して、本パソコンを起動し直してください。

「BIOS セットアップの操作のしかた」(☞P.109)

「ご購入時の設定に戻す」(☞P.112)

BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップの設定を変更するには、BIOS セットアップを起動して、設定値を変更し、設定内容を CMOS RAM に保存して終了します。

ここでは以下のことを説明します。

- ・ BIOS セットアップを起動する ☞ P.109
- ・ 設定を変更する ☞ P.110
- ・ 変更内容を取り消す ☞ P.110
- ・ BIOS セットアップを終了する ☞ P.111

重要

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います

フラットポイントやマウスは使えません。

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、起動することができます。

アドバイス

Windows98 の画面が表示されたとき

Windows98 の起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。

起動時の自己診断画面を表示するには

手順 5 で、[F2] の代わりに [Esc] を押します。

「起動メニュー」画面を表示させるには

手順 5 で、[F2] の代わりに [F1] を押します。

項目名に「[]」が付いているとき

この項目にはサブメニューがあります。項目名にカーソルを移動して [Enter] を押すと、サブメニューの画面が表示されます。

元のメニュー画面に戻るには [Esc] を押します。

1 それまで行っていた作業を終了します。

必要に応じて、作業中のデータを保存してください。

2 状態表示 LCD に や が表示されていないことを確認します。

3 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。

4 「再起動する」をクリックして にし、「OK」をクリックします。

5 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「< Esc > キー：自己診断画面 / < F12 > キー：起動メニュー / < F2 > キー：BIOS セットアップ」と表示されている間に、[F2] を押します。

BIOS セットアップが起動し、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

メニューバー

メニューの名称が表示されます。

カーソル

設定する項目に合わせます。

項目ヘルプ

カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

設定フィールド

各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧

設定時に使うキーの一覧です。

PhoenixBIOS セットアップユーティリティ		項目ヘルプ				
メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
システム時刻: [12:34:56] システム日付: [1999/10/23]	フロッピーディスクA: [1.44/1.2 MB 3.5"]	現在の時刻を、時：分：秒で設定します。（24時間制）				
▶ ブライマリマスター [XXXXXX XXXXXXXX] セカンダリマスター [XXXXXX XXXXXXXX]	言語 (Language): [日本語 (JP)]	<Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。				
F1 ヘルプ Esc 終了	項目選択 -/Space メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了	F9 標準設定 F10 保存して終了				

続いて、「設定を変更する」(☞ P.110)をご覧ください。

設定を変更する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードを使って行います。

ここでは、一般的な操作方法を説明します。

- 1 または でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

- 2 または でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

- 3 または を押して、選択している項目の設定値を変更します。

続けて他の設定項目を変更するときは、手順 1 ~ 3 を繰り返してください。

- 4 設定を保存して終了します。

「BIOS セットアップを終了する」( P.111)

設定時に使用するキー一覧

[F1]

「一般ヘルプ」画面が表示され、BIOS セットアップの操作で使用するキーについての説明を見るることができます。次のページを見るときは [Pg Dn] を、前のページに戻るときは [Pg Up] を押します。「一般ヘルプ」画面を閉じるには [Enter] を押します。

/

設定する項目にカーソルを移動します。

/

メニューを切り替えます。

[Enter]

「」が付いている項目で押すと、サブメニューが表示されるか、その項目の処理が行われます。

設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。

/

設定値を変更します。

[F9]

すべての設定値を、本パソコンの標準設定値（ご購入時の設定）に戻します。

[F10]

設定した内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。

[Esc]

「終了」メニューを表示します。

サブメニューが表示されているときは、1 つ前のメニュー画面に戻ります。

変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、CMOS RAM に保存してある変更前の設定値を読み込みます。

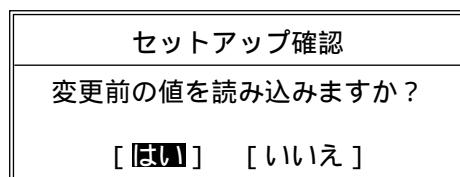
- 1 を押します。

「終了」メニューが表示されます。

 アドバイス
サブメニューを表示しているとき
「終了」メニューが表示されるまで、[Esc] を 2 ~ 3 回押してください。

- 2 または を押して「変更前の値を読み込む」を選択し、 を押します。

次のメッセージが表示されます。



- 3 または で「はい」を選択し、 を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。



アドバイス

すべての変更を取り消して BIOS セットアップを終了するには

設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了します。

- 1 「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」を選択し、 を押します。
設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。

設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！ 変更した内容を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。

- 2 または で「いいえ」を選択し、 を押します。
すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。



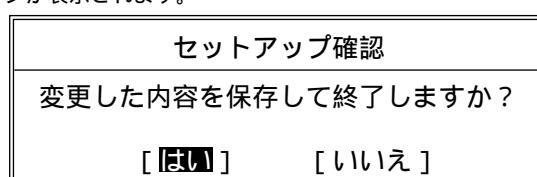
サブメニューを表示しているとき
「終了」メニューが表示されるまで、 を 2 ~ 3 回押してください。

- 1 を押します。

「終了」メニューが表示されます。

- 2 または を押して「変更を保存して終了する」を選択し、 を押します。

次のメッセージが表示されます。



- 3 または で「はい」を選択し、 を押します。

すべての設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。



設定を変更しないで終了するには

「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください。
「変更内容を取り消す」(☞P.110)



BIOS セットアップを終了せずに設定を保存するには

いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定できます。

- 1 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、 を押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。

- 2 または で「はい」を選択し、 を押します。

3 ご購入時の設定に戻す

設定内容をご購入時の状態に戻すには、「標準設定値」を読み込み、読み込んだ設定値を CMOS RAM に保存します。

すでに BIOS セットアップを起動しているときは、手順 2 から始めてください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。

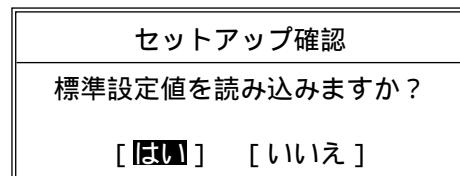
「BIOS セットアップを起動する」(☞P.109)

- 2 **[Esc]** を押します。

「終了」メニューが表示されます。

- 3 **[□]** または **[□]** を押して「標準設定値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。



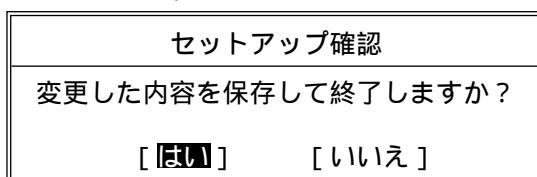
- 4 **[□]** または **[□]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に、標準設定値が読み込まれます。

この状態では、まだ CMOS RAM には保存されていません。

- 5 **[□]** または **[□]** を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。

次のメッセージが表示されます。



- 6 **[□]** または **[□]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。

読み込んだ標準設定値が保存されたあと、BIOS セットアップが終了します。

アドバイス

サブメニューを表示しているとき

「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。

アドバイス

保存後に設定操作を続けたいとき

「変更を保存して終了する」の代わりに「変更を保存する」を選択して、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップのメニュー詳細

ここで使用しているマークは、次の意味です。

- :項目名
- :サブ項目名

ここでは以下のことを説明します。

- ・メインメニュー ➡ P.113
- ・詳細メニュー ➡ P.114
- ・セキュリティメニュー ➡ P.116
- ・省電力メニュー ➡ P.118
- ・起動メニュー ➡ P.119
- ・情報メニュー ➡ P.120
- ・終了メニュー ➡ P.120

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

システム時刻

システム日付

フロッピーディスク A (標準設定値：1.44/1.2MB 3.5")

フロッピーディスクを使用するかどうかを設定します。

プライマリマスター

内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定します。

設定項目については、「セカンダリマスター」を参照してください。

セカンダリマスター

CD ドライブのタイプと動作モードを設定します。

タイプ (標準設定値：自動)

シリンダ数

ヘッド数

セクタ数

最大容量

マルチセクタ転送

LBA モード制御

PIO 転送モード

DMA 転送モード

言語 (Language) (標準設定値：日本語 (JP))

BIOS セットアップや起動時の自己診断テストで、画面に表示する言語を選択します。設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

アドバイス

標準設定値を読み込んだとき

「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(➡P.120) を実行した直後は、「プライマリマスター」「セカンダリマスター」の項目の自動設定が行われていません。

BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

タイプで「自動」以外を選択するとき

接続するドライブに合ったタイプを選択してください。誤ったドライブを選択すると、本パソコンが正常に動作しなくなります。

シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定するとき

必ず正確に設定してください。誤った値を設定すると、本パソコンが正常に動作しなくなります。

詳細メニュー

アドバイス 周辺機器設定を行うとき

I/O ポートアドレス、割り込み番号(IRQ)、DMA チャネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てるとき、項目名の左に * が表示されます。* が表示されたときは、別の設定値を割り当てください。

ご購入時の設定値は、リソース一覧で確認できます。「リソース一覧」(☞P.137) 現在の設定値は、「コンピュータのプロパティ」 ウィンドウで確認できます。「現在のリソースを確認するには」(☞P.137)

「詳細」メニューでは、パソコン本体と周辺機器の機能やリソースなどの設定を行います。

プラグアンドプレイ対応 OS (標準設定値：はい)

デバイス設定の保護 (標準設定値：いいえ)

シリアル／パラレルポート設定

シリアルポート (標準設定値：使用する)

I/O アドレス (標準設定値：3F8-3FF)

割り込み番号 (標準設定値：IRQ 4)

赤外線通信ポート (標準設定値：使用する)

赤外線通信ポートを使用するかどうかを設定します。

モード (標準設定値：FIR)

高速モード用の「I/O アドレス」と「DMA チャネル」も設定してください。

I/O アドレス (標準設定値：2E8-2EF)

割り込み番号 (標準設定値：IRQ 3)

I/O アドレス (標準設定値：118-11F)

DMA チャネル (標準設定値：DMA 3)

パラレルポート (標準設定値：使用する)

モード (標準設定値：双方向)

「ECP」は、パラレルポートに ECP 対応の周辺機器を接続しているときに設定します。ECP モード用の「DMA チャネル」も設定してください。

I/O アドレス (標準設定値：378-37F)

割り込み番号 (標準設定値：IRQ 7)

DMA チャネル (標準設定値：DMA 1)

通常「DMA チャネル」は「DMA 1」に設定してください。「DMA 3」は、標準設定値では赤外線通信ポートの FIR 用に割り当てられています。

キーボード／マウス設定

起動時の Numlock 設定 (標準設定値：自動)

ホットプラグ (標準設定値：使用する)

アドバイス

接続したキーボードやマウスが使えないとき

接続したキーボードやマウスがホットプラグに対応していない場合があります。

本パソコンの動作中に接続したキーボードやマウスが使えないときは、いったん取り外し、しばらく待ってからもう一度接続してください。それでも使えないときは、本パソコンの電源を切るか、サスペンションしてから接続してください。

次のような場合には「使用しない」に設定してください

- ・「ホットプラグ」を「使用する」に設定したときに、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合
- ・拡張キーボード／マウスコネクタに、入力装置（バーコードリーダ：FMV-BCR101、バーコードタッチャリーダ：FMV-BCR201、磁気カードリーダ：FMV-MCR101 など）を接続している場合また、この場合は「省電力モード」(☞P.118) も「使用しない」に設定してください。

内蔵ポインティングデバイス（標準設定値：自動）



アドバイス

Microsoft 社製 IntelliMouse™ の利用について

Microsoft 社製 IntelliMouse™ は、「内蔵ポインティングデバイス」を「自動」に設定しているときのみお使いになれます。

ディスプレイ設定

ディスプレイ（標準設定値：液晶ディスプレイ）

全体表示（標準設定値：使用しない）

その他の内蔵デバイス設定

フロッピーディスクコントローラ（標準設定値：使用する）

IDE コントローラ（標準設定値：両方使用する）

PCI 設定

割り込み番号の予約

特定の割り込み番号をPCカードに割り当てたいとき、その割り込み番号を「予約する」に設定すると、内蔵デバイスに使用されないようになります。

IRQ 3 ~ IRQ 11（標準設定値：予約しない）

CPU 設定 (NE3/500LR, NE3/500Lのみ)

プロセッサシリアルナンバ（標準設定値：使用しない）

ACPI 設定

ACPI 管理機能（標準設定値：使用しない）

イベントログ設定

イベントログ領域の状態

イベントログ内容の状態

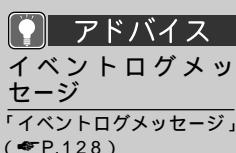
イベントログの表示

イベントログ（標準設定値：保存する）

システム起動（標準設定値：保存しない）

イベントログの消去（標準設定値：消去しない）

イベントログのマーク



アドバイス

イベントログメッセージ

「イベントログメッセージ」
(☞P.128)

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを不正使用から保護するための設定を行います。

「BIOS のパスワード機能を使う」(☞P.121)

管理者用パスワード

管理者(本パソコンをご購入になった方など)用のパスワードの設定状態が表示されます。

ユーザー用パスワード

ユーザー(ご家族など、管理者以外の利用者)用のパスワードの設定状態が表示されます。

管理者用パスワード設定

ユーザー用パスワード設定

設定できる BIOS セットアップの項目が制限されます。

ユーザー用パスワード文字数 (標準設定値: 0)

起動時のパスワード (標準設定値: 使用しない)

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

レジューム時のパスワード (標準設定値: 使用しない)

「管理者用パスワード」が設定され、「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合にのみ有効です。

Windows 98 の「電源の管理」でも設定できます。

■ 重要

レジューム時のパスワード入力について

レジューム時は、パスワード入力を要求する画面は表示されません。フラットポイント(マウス)とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができなくなっているときは、状態表示 LCD に と が交互に点滅します。

キーボードとフラットポイント(マウス)を使用できるようにするには、本パソコン起動時に入力したパスワードをキーボードから入力してください。

USB 規格のオプション機器について

「レジューム時のパスワード」によるセキュリティの対象外となります。

そのため、USB マウスなどの USB 規格のオプション機器は、パスワードを入力しなくても使用できます。

取り外し可能なディスクからの起動 (標準設定値: 常に可能)

フロッピーディスクアクセス (標準設定値: 常に可能)

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

■ 重要

フロッピーディスクアクセスの設定についての注意

BIOS を経由しないで直接フロッピーディスクコントローラにアクセスする OS (Windows NT 4.0 など) では、正しく動作しません。

アドバイス
「電源の管理」で設定を変更する
レジューム時のパスワードは、「電源の管理」でも設定できます。
「電源の管理」で設定を変更する」(☞P.59)

ハードディスクセキュリティ

ハードディスクドライブのパスワードロック機能を設定します。本パソコンの内蔵ハードディスクドライブのように、パスワードロック機能に対応しているハードディスクドライブのみ利用できます。

プライマリマスター（標準設定値：使用しない）

セカンダリマスター（標準設定値：使用しない）

本パソコンでは設定できません。

所有者情報

所有者情報

所有者情報設定

文字色（標準設定値：グレー）

背景色（標準設定値：黒）

ハードディスク起動セクタ（標準設定値：通常動作）

重要

ハードディスク起動セクタの設定についての注意

- ・OSをインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- ・この設定は、BIOSを経由しないで直接ハードディスクにアクセスするOS（WindowsNT4.0など）では、正しく動作しません。

アドバイス

管理者用パスワードとユーザー用パスワード

管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードでBIOSセットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

省電力メニュー

アドバイス

Windows98 をお使いのとき

項目によっては無効になることがあります。詳しくは各項目の説明をご覧ください。

重要

別売のシリアルマウスをお使いのとき

「ディスプレイ省電力」で時間を設定したときは、「シリアルマウス」(☞P.119)を「使用する」に設定してください。「使用しない」に設定していると、シリアルマウスを使用しているときでもディスプレイの表示が消えてしまいます。

スタンバイタイマー（標準設定値：4分）

スタンバイは、Windows98 の「システムスタンバイ」とは異なります。

Windows98 が起動しているときは、本設定は無効です。

サスPENDタイマー（標準設定値：15分）

Windows98 が起動しているときは、「電源の管理」の「システムスタンバイ」の設定に従ってサスPENDします。

サスPEND動作（標準設定値：サスPEND）

アドバイス

「サスPEND動作」を「Save To Disk」に設定しているとき

サスPENDするときに、自動的に Save To Disk 機能が働いて、本パソコンの電源が切れます。

「Save To Disk」に設定してもサスPENDすることができます

次の場合には、Save To Disk 機能が働き、サスPENDします。

- ・ Save To Disk 領域が作成されていないとき
- ・ 「モデム着信によるレジューム」や「時刻によるレジューム」を設定しているとき
- ・ 「PMSet98 のプロパティ」ウィンドウで、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の左が になっているとき
- ・ LOW バッテリ状態で自動的にサスPENDするとき

自動 Save To Disk（標準設定値：使用しない）

モデム着信によるレジューム（標準設定値：使用しない）

「PMSet98」が起動しているときのみ有効です。また、「PMSet98」の「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の設定と連動します。

「PMSet98」で設定を変更する（☞P.60）

アドバイス

モデム着信によるレジューム機能についての注意

- ・ PDC コネクタまたはUSB コネクタに接続した携帯電話やPHS からモデムに着信したときは、レジュームしません。
- ・ 本パソコンがレジュームしてからアプリケーションがモデムと通信できるようになるまでは、多少の時間が必要です。アプリケーションがモデムの着信信号を検出できるように、モデムの自動応答回数を設定してください。
- ・ 「使用する」に設定すると、サスPEND 中でもモデムを動作させておくため、サスPEND 中の電力消費が増加します。この場合には、AC アダプタを接続してください。

アドバイス

モデムの設定方法

◎「アプリケーション CD2」の PDF マニュアル（¥Modempdc¥4661 内蔵モデム取説）をご覧ください。

PDF マニュアルの使いかたは、『使いこなす本ソフト編』の「付録3 PDF マニュアルの使いかた」をご覧ください。

時刻によるレジューム（標準設定値：使用しない）

Windows 98 で「タスクスケジュール」を設定しているときは、Windows 98 と BIOS セットアップの両方とも有効になります。

レジューム時刻

「時刻によるレジューム」を「使用する」に設定したとき、レジュームする（サスペンドする前の状態に戻す）時刻を時：分：秒（24 時間制）で設定します。

詳細設定

サスペンド / レジュームスイッチ（標準設定値：使用する）

カバークローズ サスペンド（標準設定値：使用する）

重要

カバークローズサスペンドについての注意

- ・ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PC カード使用中は、それらの作業を完了または中断してから、液晶ディスプレイを閉じてください。
- ・Windows 98 の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

カバーオープン レジューム（標準設定値：使用する）

シリアルマウス（標準設定値：使用しない）

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

高速起動（標準設定値：使用する）

起動時の自己診断画面（標準設定値：表示しない）

起動デバイスの優先順位（標準設定値：「フロッピーディスクドライブ」「ハードディスクドライブ」「ATAPI CD ドライブ」の順番）

アドバイス

優先順位を一時的に変更したいとき

起動時の自己診断テスト中に [F1] を押すと、「起動メニュー」という画面が表示されます。起動用のデバイスを [] または [] で選択し、[Enter] を押してください。

「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS やパソコン本体についての情報が表示されます。

BIOS 版数

BIOS 日付

BIOS 領域

CPU タイプ

CPU 速度

L1 キャッシュ

L2 キャッシュ

全メモリ容量

搭載しているメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。

標準メモリ

内蔵しているメモリ (RAM) の容量が表示されます。

メモリスロット

増設スロットに取り付けられているメモリ (RAM) の容量が表示されます。

メモリを増設していないときは、「未使用」と表示されます。

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

変更を保存して終了する

変更を保存せずに終了する

標準設定値を読み込む

変更前の値を読み込む

変更を保存する

BIOS のパスワード機能を使う

アドバイス

パスワードの種類

BIOS では、次の 2 つのパスワードが設定できます。パスワードによって制限できる機能が違います。

- 管理者用パスワード
本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。
パスワード機能を使うときは、必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。
「管理者用パスワード」を設定したときにのみ設定できます。

Windows98 のパスワード機能について

Windows98 のパスワード機能は、BIOS のパスワード機能とは異なります。

Windows98 のパスワード機能だけでは、ハードディスクデータの読み出しからデータを保護することはできません。

BIOS のパスワード機能を使うことによって、特定の人以外が本パソコンを使用できないように制限したり、ハードディスクのデータが盗用されないように保護したりできます。

ここでは以下のことを説明します。

- ・パスワード機能を設定する P.121
- ・パスワードを入力する P.122
- ・パスワードを変更 / 削除する P.123

パスワード機能を設定する

パスワードを設定する

管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを設定するときは、以下の操作を行ってください。

ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときにのみ設定できます。

1 BIOS セットアップを起動します。

「BIOS セットアップを起動する」(P.109)

2 を 2 回押して、「セキュリティ」メニューを表示します。

3 または でカーソルを「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」に合わせ、[Enter] を押します。

パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定

新しいパスワードを入力して下さい。 []
新しいパスワードを確認して下さい。 []

または

ユーザー用パスワード設定

新しいパスワードを入力して下さい。 []
新しいパスワードを確認して下さい。 []

4 設定したいパスワード（半角英数字、8 文字まで）を入力します。

英字の大文字、小文字の区別はありません。

入力した文字は、表示されません。

重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

管理者用パスワードを忘れるときには、パスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

管理者用パスワードを忘ってしまった場合には、弊社パーソナルエコーセンターまでご連絡ください。

アドバイス

設定を中止するには

[Esc] を押してください。



アドバイス

確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]**を押して、もう一度手順4からやり直してください。設定を中止するときは、**[Esc]**を押してください。



アドバイス

誤ったパスワードを3回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示されビープ音が鳴ります。この場合は、キーボードやフラットポイント(マウス)が一切反応しなくなるので、いったんMAINスイッチで本パソコンの電源を切り、もう一度電源を入れ直してから、正しいパスワードを入力してください。

「ユーザー用パスワード」でBIOSセットアップを起動すると設定できる項目が制限されます。

Windows98で設定するには

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで、「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の左をにしても、サスPENDから復帰するときのパスワードを設定できます。この場合は、BIOSで設定したパスワードではなく、Windows98のパスワードを入力してください。

5 **[Enter]** を押します。

カーソルが、「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄に移動します。

6 確認のため、設定したパスワードをもう一度入力します。

正しく入力してください。

7 **[Enter]** を押します。

「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

8 **[Enter]** を押します。

これでパスワードが設定されました。

パスワードを入力する

パスワード機能を設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が要求されます。

- ・ BIOS セットアップを起動するとき
- ・ 本パソコンを起動するとき
- ・ サスペンドから復帰するとき

BIOSセットアップや本パソコンの起動時のパスワード入力

「パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。設定してあるパスワードを入力して、**[Enter]**を押してください。

レジューム時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示LCDに A と B が交互に点滅します。この状態では、フラットポイント(マウス)とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力してください。

正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやフラットポイント(マウス)は使えません。

■ 重要

USB 規格のオプション機器について

「レジューム時のパスワード」によるセキュリティの対象外となります。

そのため、USBマウスなどのUSB規格のオプション機器は、パスワードを入力しなくても使用できます。

パスワードを変更 / 削除する

パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、以下の操作を行ってください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
「BIOS セットアップを起動する」(☞P.109)
- 2 □ を 2 回押して、「セキュリティ」メニューを表示します。
- 3 □ または□ でカーソルを「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」に合わせ、[Enter] を押します。
パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。 []	
新しいパスワードを入力して下さい。 []	
新しいパスワードを確認して下さい。 []	
または	
ユーザー用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。 []	
新しいパスワードを入力して下さい。 []	
新しいパスワードを確認して下さい。 []	

- 4 設定してあるパスワードを入力し、[Enter] を押します。
カーソルが、「新しいパスワードを入力して下さい。」の欄に移動します。
- 5 新しく設定したいパスワード(半角英数字、8 文字まで)を入力し、[Enter] を押します。
英字の大文字、小文字の区別はありません。
カーソルが、「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄に移動します。

重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコセンターまでご連絡ください。

- 6 確認のため、新しく設定したパスワードをもう一度入力し、[Enter] を押します。
「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。
- 7 [Enter] を押します。
これで新しいパスワードが設定されました。

パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」(☞P.123)の手順5と6で、何も入力せずに[Enter] を押してください。

アドバイス

入力したパスワードが間違っていたとき

「パスワードが正しくありません。」というメッセージが表示されます。[Enter] を押して、もう一度手順4からやり直してください。設定を中止するときは、[Esc] を押してください。

誤ったパスワードを3回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示されビープ音が鳴ります。この場合は、キーボードやフラットポイント(マウス)が一切反応しなくなるので、いったん MAIN スイッチで本パソコンの電源を切り、もう一度電源を入れ直して BIOS セットアップを起動し直してください。なお、BIOS セットアップの起動時にも、パスワードの入力が要求されます。

確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。[Enter] を押して、もう一度手順5からやり直してください。設定を中止するときは、[Esc] を押してください。

「ユーザー用パスワード文字数」が設定されているとき

「ユーザー用パスワード文字数」(☞P.116)を設定している場合は、設定されている文字数よりも短い文字数のパスワードは設定できません。

6 BIOS が表示するメッセージ一覧

本パソコンは、電源を入れたときや再起動したときなどに、ハードウェアに異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的にチェックし、その結果をメッセージとして黒い画面に表示します。

ここでは以下のことを説明します。

- ・メッセージ一覧 P.124
- ・メッセージが表示されたときは P.129

メッセージ一覧

メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

アドバイス

正常時のメッセージを表示するには

「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、**[Esc]** を押します。

起動時に常に表示させたいときは、BIOS セットアップの「起動」メニューで、「起動時の自己診断画面」を「表示する」に設定します。

- ① <Esc> キー：自己診断画面 / <F12> キー：起動メニュー / <F2> キー：BIOS セットアップ

起動時に「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に **[Esc]** を押すと起動時の自己診断画面が表示されます。また、**[F2]** を押すと BIOS セットアップが起動し、**[F12]** を押すと「起動メニュー」という画面が表示されます。この場合は起動するドライブを **[F1]** または **[F2]** で選択して、**[Enter]** を押してください。「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。



- ② <F12> キー：起動メニュー / <F2> キー：BIOS セットアップ

起動時の自己診断画面の下に表示され、このメッセージが表示されている間に **[F12]** を押すと自己診断終了後に「起動メニュー」が表示され、**[F2]** を押すと、BIOS セットアップが起動します。

- ③ BIOS セットアップを起動しています ...

BIOS セットアップの起動中に表示されます。

- ④ nnnnM システムメモリ テスト完了。

システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

- ⑤ nnnnK メモリキャッシュ テスト完了。

キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

- ⑥ システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。

システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。

- ⑦ マウスが初期化されました。

マウス機能が初期化され、フラットポイント(マウス)が使えるようになったことを示しています。

エラーメッセージ

アドバイス

これ以外のメッセージが表示されたとき

電源を入れ直しても同じメッセージが表示される場合は、「メッセージが表示されたときは」(☞P.129)をご覧になり、手順に従って確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

① Invalid system disk

Replace the disk, and then press any key

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしましたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、□などを押してください。

② Non-System disk or disk error

Replace and press any key when ready

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしましたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、□などを押してください。

③ Operating system not found

OS が見つからなかったことを示しています。

BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

④ システムメモリエラー。オフセットアドレス: xxxx

誤りビット: zzzz zzzz

システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。

メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。

「メモリを取り外す」(☞P.76)

メモリを取り外しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

⑤ 拡張メモリエラー。オフセットアドレス: xxxx

誤りビット: zzzz zzzz

拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。

「メモリを増やす」(☞P.70)

それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

⑥ メモリキャッシュのエラーです。 - キャッシュは使用できません。

キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

⑦ キーボードコントローラのエラーです。

キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

⑧ キーボードエラーです。

キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。

テンキー ボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

⑨ フロッピーディスク A のエラーです。

フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

⑩ ディスクエラーです。: ハードディスク n

ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。

BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

⑪ システムタイマーのエラーです。

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

⑫ リアルタイムクロックのエラーです。

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

⑬ システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

⑭ 前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。

前回の起動時に正しく起動されなかつたため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。

起動途中に電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかつたとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は[F1] を押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は[F2] を押してください。

⑮ <F1> キー : 繙続 / <F2> キー : BIOS セットアップ

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。[F1] を押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、[F2] を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

⑯ 日付と時刻の設定を確認してください。

日付と時刻の設定値が不正です。

設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

⑰ パスワードで保護されています。: ハードディスク n

取り付けたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。

そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」(☞P.116)を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。

- ⑯ サポートされないタイプのメモリが検出されました。**
 本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。
 メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
 「メモリを取り外す」(☞P.76)
 それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑰ メモリタイプのエラーです。 : SPD が 66MHz のメモリを示しています。**
 本システムには 100MHz のメモリが必要です。電源を落としてください。
 本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。
 メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
 「メモリを取り外す」(☞P.76)
 それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑲ SPD が見つかりませんでした。 - メモリ速度が不明です。**
 システムを正しく動作させるためには SPD が必要です。
 メモリ速度 100MHz で起動しますか?
 <Y>を押すとこのまま起動し、<N>を押すとシステムを停止します。
 メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
 [N]を押して電源を切り、メモリを増設しているときはメモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
 「メモリを取り外す」(☞P.76)
 それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑳ SPD が見つかりませんでした。 - メモリ速度が不明です。**
 メモリ速度 100MHz で起動します。
 メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
 メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
 「メモリを取り外す」(☞P.76)
 それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ㉑ ハードディスク上の Save To Disk 領域が見つかりませんでした。**
 Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成してください。
 ハードディスク上に、Save To Disk 領域が確保されていないことを示しています。
 「Save To Disk 領域」(☞P.140)
- ㉒ ハードディスク上の Save To Disk 領域が不足しています。**
 Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
 ハードディスク上の Save To Disk 領域の容量が不足しているため、Save To Disk 機能を使用できないことを示しています。
 「Save To Disk 領域」(☞P.140)
- ㉓ ハードディスクが検出されませんでした。**
 Save To Disk 機能は使用できません。
 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

㉕ 不明な Save To Disk エラーが発生しました。

Save To Disk 機能は使用できません。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

㉖ ハードディスクからの読み取りに失敗しました。

Save To Disk 機能は使用できません。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

㉗ ハードディスクへの書き込みに失敗しました。

Save To Disk 機能は使用できません。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

㉘ ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。

Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。

「Save To Disk 領域」(☞P.140)

㉙ Save To Disk を行ったハードディスクが検出されなかつたため、システム状態を復元できませんでした。

システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。

<F1> キーを押すと、このまま起動します。

㉚ Save To Disk を行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。

システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。

<F1> キーを押すと、このまま起動します。

イベントログメッセージ

主なイベントログメッセージについて説明します。

- ・訂正不可能なメモリエラー : XXXX
- ・POST エラー : XXXXXXXX XXXXXXXX

上記のメッセージが表示された場合は、弊社パーソナルエコセンターにご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

メッセージが表示されたときは

メッセージが表示された場合は、「メッセージ一覧」(☞P.124)をご覧になって対応してください。表示されたメッセージが一覧にない場合や、対処方法が分からぬ場合には、次の手順に従って処置を行ってください。

1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOSセットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOSセットアップの該当する項目の設定値を確認してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOSセットアップの設定値をご購入時の設定に戻して、起動し直してください。

「ご購入時の設定に戻す」(☞P.112)

2 オプション機器を取り外します。

オプション機器を取り付けている場合には、すべてのオプション機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

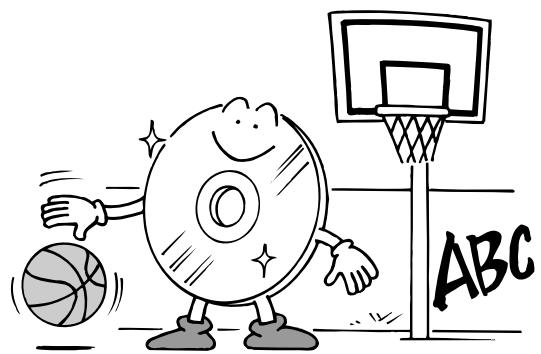
それでも同じメッセージが表示される場合には、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外したオプション機器を、1つずつ取り付けます。

取り外したオプション機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号（IRQ）を使用するオプション機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各オプション機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処置を行っても、まだ同じメッセージが表示される場合には、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

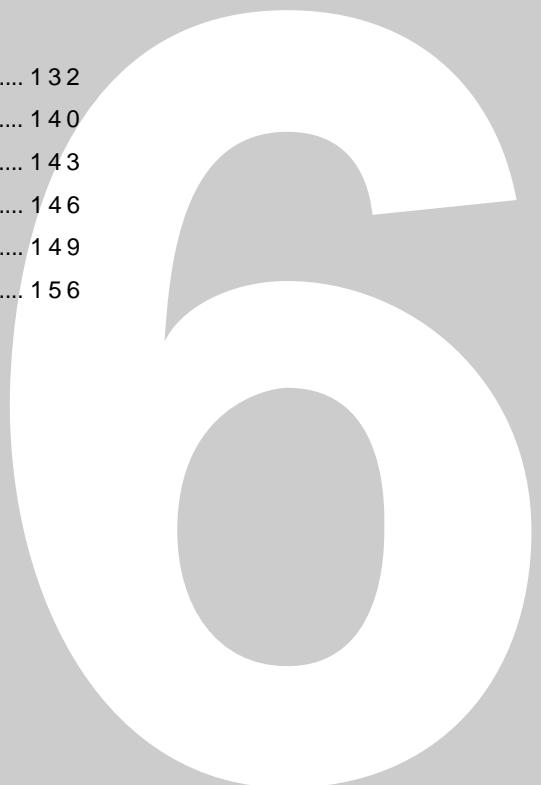


第6章

技術情報

本パソコンの仕様について説明しています。

1. 仕様一覧	132
2. Save To Disk 領域	140
3. 赤外線通信について	143
4. モデムについて	146
5. ドライバのインストール	149
6. その他の注意事項	156



仕様一覧

- ・本体 [P.132](#) ・ モデム [P.136](#) ・ リソース一覧 [P.137](#)
- ・コネクタのピン配列と信号名 [P.138](#)
- ・CRTディスプレイの走査周波数 [P.139](#)

本体

製品名称	FMV-BIBLO NE3/500LR	FMV-BIBLO NE3/500L
CPU (1)	モバイル Pentium®III プロセッサ 500MHz	
キャッシュメモリ	32KB + 256KB (CPU 内蔵)	
BIOS ROM	512KB (Flash ROM)	
メインメモリ	標準 64MB / 最大 192MB (SDRAM / 拡張 RAM モジュール [64 / 128MB]: 空きスロットx1)	
HDD(固定式)	2.5インチ 12GB	
表 示 機 能	画面制御 / VRAM 容量 LCD(ドットピッチ) (2) 色数 CRT 表示 同時表示	3D アクセラレータ内蔵 ATI 社製 RAGE™ Mobility-P [AGP 接続 2x] / 4MB (SDRAM) 14.1型 TFT カラー 1024 x 768 ドット (0.279mm) 1024 x 768 ドット : 1677 万色 (3) 最大 1600 x 1200 ドット : 65536 色 1024 x 768 ドット : 1677 万色 (3)
音源機能	Pci バス接続サウンドチップ (16bit ステレオ PCM) 64 Voice XG Wave table 機能内蔵	
キーボード	一体型 OADG 配列準拠 92キー (Windows キー, アプリケーションキー付)	
ポインティングデバイス	フラットポイント	
内蔵モデム (4)	DATA (V.90 / K56flex™) / FAX (14.4Kbps)	
フロッピードライブ	3.5インチ 3モード [2HD : 1.44MB, 1.2MB, 2DD : 720KB]	
CD ドライブ	書き込み / 書き換え 最大 4倍速 読み出し 最大 20倍速 (9)	最大 24倍速 [平均 17倍速]
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I / II × 2スロットまたは Type I × 1スロット (CardBus 対応)
	外部 CRT	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン
	パラレル	ECP 対応 D-SUB 25 ピン
	シリアル	RS-232C D-SUB 9 ピン (16550A 互換)
	拡張キーボード / マウス	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン
	USB (5)	USB コネクタ 4 ピン x1
	サウンド	ヘッドホン出力、ライン入力 : 3.5mm ステレオ・ミニジャック × 各 1 マイク入力 : 3.5mm モノラル・ミニジャック × 1 光デジタルオーディオ出力 : (ライン入力と共用)
	赤外線ポート	IrDA1.1 準拠 x1 (最大 4Mbps)
	モデムコネクタ	モジュラージャック (RJ-11) x1
	PDC	専用 9 ピン
電源供給方式	AC アダプタまたはリチウムイオンバッテリ	
AC アダプタ仕様	入力 AC100V ~ 240V, 出力 DC16V (3.36A)	
バッテリ	リチウムイオン 10.8V / 3000mAh	リチウムイオン 10.8V / 2400mAh
バッテリ稼動時間 (6)	約 2.2 時間	約 2.0 時間
バッテリ充電時間	約 4 時間	約 3.5 時間
動作時	約 9 時間	約 8 時間
消費電力	約 53W 以下 (AC 運用時)	
省エネ法に基づく エネルギー消費効率 (7)	S 区分 0.0021	
外形寸法	W308 x D282.5 x H37.5 (最薄部) ~ 42.0 (最厚部) mm (突起部含まず)	
重量	約 3.2kg	約 3.1kg
サポート O/S	Windows98 および WindowsNT4.0 (8)	

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

「印について」([P.135](#))

 アドバイス

ハードディスク容量の換算値

本書のハードディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算値です。1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算のものとは表記上同容量でも、実容量は少なくなりますのでご注意ください。

製品名称		FMV-BIBLO NE3/45LW	FMV-BIBLO NE3/45LR
CPU (1)	モバイル Intel® Celeron™ プロセッサ 450MHz		
キャッシュメモリ	32KB + 128KB (CPU内蔵)		
BIOS ROM	512KB (Flash ROM)		
メインメモリ	標準 64MB / 最大 192MB (SDRAM / 拡張RAMモジュール [64 / 128MB]: 空きスロットx1)		
HDD(固定式)	2.5インチ 12GB		
表示機能	画面制御 / VRAM 容量 LCD(ドットピッチ) 2) 色数 CRT表示 同時表示	3Dアクセラレータ内蔵 ATI社製 RAGE™ Mobility-P [AGP接続 2x] / 4MB (SDRAM) 14.1型 TFT カラー 1024 x 768 ドット (0.279mm) 1024 x 768 ドット : 1677万色 (3) 最大 1600 x 1200 ドット : 65536 色 1024 x 768 ドット : 1677万色 (3)	
音源機能	PCIバス接続サウンドチップ (16bitステレオPCM) 64Voice XG Wave table 機能内蔵		
キーボード	一体型 OADG配列準拠 92キー (Windowsキー, アプリケーションキー付)		
ポインティングデバイス	フラットポイント		
内蔵モデム (4)	DATA (V.90 / K56flex™) / FAX (14.4Kbps)		
フロッピードライブ	3.5インチ 3モード [2HD : 1.44MB, 1.2MB, 2DD : 720KB]		
CD ドライブ	最大 24倍速 [平均 17倍速]		書き込み / 書き換え 最大 4倍速 読み出し 最大 20倍速 (9)
ワイヤレス通信機能	ワイヤレス通信セット標準装備 (ワイヤレスステーション / ワイヤレス通信カード)		
インターフェース	PC カード 外部 CRT パラレル シリアル 拡張キー/ボード / マウス USB (5) サウンド 赤外線ポート モデルコネクタ PDC	PC Card Standard 準拠 Type / × 2スロットまたは Type x1スロット (CardBus対応) アナログRGB Mini D-SUB 15ピン ECP 対応 D-SUB 25ピン RS-232C D-SUB 9ピン (16550A互換) PS/2 タイプ Mini DIN 6ピン USB コネクタ 4ピン ×1 ヘッドホン出力、ライン入力 : 3.5mm ステレオ・ミニジャック ×各1 マイク入力 : 3.5mm モノラル・ミニジャック ×1 光デジタルオーディオ出力 : (ライン入力と共に) IrDA 1.1 準拠 x1 (最大 4Mbps) モジュラージャック (RJ-11) ×1 専用 9ピン	
電源供給方式	ACアダプタまたはリチウムイオンバッテリ		
ACアダプタ仕様	入力 AC100V ~ 240V, 出力 DC16V (3.36A)		
バッテリ	リチウムイオン 10.8V / 2400mAh		リチウムイオン 10.8V / 3000mAh
バッテリ稼動時間 (6)	約 2.0 時間		約 2.2 時間
バッテリ充電時間	充電時	約 3.5 時間	約 4 時間
動作時	約 8 時間		約 9 時間
消費電力	約 50W 以下 (AC 運用時)		
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 (7)	S区分 0.0024		
外形寸法	W308 x D282.5 x H37.5 (最薄部) ~ 42.0 (最厚部) mm (突起部含まず)		
重量	約 3.1kg		約 3.2kg
サポートOS	Windows98 および WindowsNT4.0 (8)		

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

「印について」(P.135)

アドバイス

ハードディスク容量の換算値

本書のハードディスク容量は、 $1\text{MB} = 1000^2\text{byte}$ 、 $1\text{GB} = 1000^3\text{byte}$ 換算値です。 $1\text{MB} = 1024^2\text{byte}$ 、 $1\text{GB} = 1024^3\text{byte}$ 換算のものとは表記上同容量でも、実容量は少なくなりますのでご注意ください。

製品名称		FMV-BIBLO NE3/45L
CPU (1)		モバイル Intel® Celeron™ プロセッサ 450MHz
キャッシュメモリ		32KB + 128KB (CPU内蔵)
BIOS ROM		512KB (Flash ROM)
メインメモリ		標準 64MB / 最大 192MB (SDRAM / 拡張 RAM モジュール [64 / 128MB]; 空きスロットx1)
HDD(固定式)		2.5インチ 12GB
表示機能	画面制御 / VRAM 容量	3D アクセラレータ内蔵 ATI 社製 RAGE™ Mobility-P [AGP 接続 2x] / 4MB (SDRAM)
	LCD (ドットピッチ) (2)	14.1型 TFT カラー 1024 x 768 ドット (0.279mm)
	色数	1024 x 768 ドット : 1677 万色 (3)
	CRT 表示	最大 1600 x 1200 ドット : 65536 色
	同時表示	1024 x 768 ドット : 1677 万色 (3)
音源機能		PCI バス接続サウンドチップ (16bit ステレオ PCM) 64 Voice XG Wave table 機能内蔵
キーボード		一体型 OADG 配列準拠 92キー (Windowsキー, アプリケーションキー付)
ポインティングデバイス		フラットポイント
内蔵モデム (4)		DATA (V.90 / K56flex™) / FAX (14.4Kbps)
フロッピードライブ		3.5インチ 3モード [2HD : 1.44MB, 1.2MB, 2DD : 720KB]
CDドライブ		最大 24倍速 [平均 17倍速]
インターフェース	PCカード	PC Card Standard 準拠 Type I / II × 2スロットまたはType II × 1スロット (CardBus対応)
	外部CRT	アナログ RGB Mini D-SUB 15ピン
	パラレル	ECP 対応 D-SUB 25ピン
	シリアル	RS-232C D-SUB 9ピン (16550A互換)
	拡張キーボード / マウス	PS/2タイプ Mini DIN 6ピン
	USB (5)	USB コネクタ 4ピン × 1
	サウンド	ヘッドホン出力、ライン入力 : 3.5mm ステレオ・ミニジャック × 各 1 マイク入力 : 3.5mm モノラル・ミニジャック × 1 光デジタルオーディオ出力 : (ライン入力と共に)
	赤外線ポート	IrDA 1.1 準拠 × 1 (最大 4Mbps)
	モデムコネクタ	モジュラージャック (RJ-11) × 1
PDC		専用 9ピン
電源供給方式		AC アダプタまたはリチウムイオンバッテリ
ACアダプタ仕様		入力 AC100V ~ 240V, 出力 DC16V (3.36A)
バッテリ		リチウムイオン 10.8V / 2400mAh
バッテリ稼動時間 (6)		約 2.0 時間
バッテリ充電時間	充電時	約 3.5 時間
	動作時	約 8 時間
消費電力		約 50W 以下 (AC 運用時)
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 (7)		S区分 0.0024
外形寸法		W308 x D282.5 x H37.5 (最薄部) ~ 42.0 (最厚部) mm (突起部含まず)
重量		約 3.1kg
サポートOS		Windows98 および WindowsNT4.0 (8)

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

「印について」(P.135)

印について

- 1 アプリケーションによっては CPU 名表記が異なる場合があります。
- 2
 - ・TFT液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に235万個以上(解像度 1024 × 768 の場合)の画素(ドット)より作られています。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
 - ・液晶ディスプレイは、その特性上、温度変化などで多少むらが発生することがあります。
- 3 これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 4 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能によって表示されます。
- 5 モデムの仕様をご覧ください(☞P.136)。
- 6 全ての USB 対応周辺機器について動作保証するものではありません。
- 7 本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、使用条件により稼動時間は異なります。
- 8 サスPENDモード(充電なし。ワンタッチボタンがLockモードのとき。ACアダプタを含む。)
エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
- 9
 - ・Service Pack 5 以降
 - ・WindowsNT4.0 をお使いになるときは、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp/>)をご覧ください。
 - ・WindowsNT4.0 に変更した場合、以下の機能などはサポートしておりません。また、搭載アプリケーションの動作は保証できません。
 - ・携帯電話 /PHS 接続
 - ・ワンタッチボタン
 - ・赤外線通信
 - ・USB
 - ・CardBus 対応の PC カード
 - ・省電力機能
 - ・ワイヤレス通信機能
- CD-RW モード時は最大 14 倍速

モデム

品名		Fujitsu LB RWModem V.90 56K J						
通信方式		2 線式 全二重 (FAX モードでは 2 線式 半二重)						
通信規格	データモード	K56flex ITU T V.90 , V.34 , V.32bis , V.32 , V.22bis						
	FAX モード	ITU T V.17 , V.29 , V.27ter , V.21ch2						
通信速度	V.90 モード	受信	56000 , 54667 , 53333 , 52000 , 50667 , 49333 , 48000 , 46667 , 45333 , 44000 , 42667 , 41333 , 40000 , 38667 , 37333 , 36000 , 34667 , 33333 , 32000 , 30667 , 29333 , 28000bps					
		送信	33600 , 31200 , 28800 , 26400 , 24000 , 21600 , 19200 , 16800 , 14400 , 12000 , 9600 , 7200 , 4800 , 2400bps					
	K56flex モード	受信	56000 , 54000 , 52000 , 50000 , 48000 , 46000 , 44000 , 42000 , 40000 , 38000 , 36000 , 34000 , 32000bps					
		送信	31200 , 28800 , 26400 , 24000 , 21600 , 19200 , 16800 , 14400 , 12000 , 9600 , 7200 , 4800 , 2400bps					
	データモード	33600 , 31200 , 28800 , 26400 , 24000 , 21600 , 19200 , 16800 , 14400 , 12000 , 9600 , 7200 , 4800 , 2400 , 1200bps						
	FAX モード	14400 , 12000 , 9600 , 7200 , 4800 , 2400 , 300bps						
同期方式		調歩同期						
データ転送プロトコル		MNP class 4/5 ITU T (CCITT) V.42/V.42bis						
FAX インターフェース		TIA/EIA578 (class1)						
最大端末速度		115200bps						
バスインターフェース		PCI						
使用環境条件		パソコン本体による (温度 : 5 ~ 35 (結露がないこと))						
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動速度検出 ・ 発信音、呼出し音、話中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状態を示す応答音の検出 ・ トーン式 / パルス式ダイヤルの自動選択 ・ ナンバーディスプレイ対応 (Windows98 のみサポート) 						

- ・ 本モデムは Windows98 、 WindowsNT4.0 以外の OS での動作はサポートしておりません。
- ・ K56flex は Lucent Technologies 社、 Conexant Systems Inc. が提唱している通信規格です。
- ・ V.90 および K56flex での接続においては、接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。
- ・ 56000bps は V.90 および K56flex の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。 V.90 による 33600bps (K56flex は 31200bps) を超える通信速度は受信時のみで、 V.90 送信時は 33600bps (K56flex は 31200bps) が最高速度になります。
- 日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては、同規格での通信が行えない場合があります。
- ・ MS DOS モードではお使いになれません。

リソース一覧

アドバイス

現在のリソースを確認するには

オプション機器を増設すると、リソースの値が変更されることがあります。現在のリソースは、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 ■(システム)をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、リソースの種類をクリックします。リソースの値の一覧が表示されます。

本パソコンの割り込み番号(IRQ)、DMAチャネルをどのハードウェアが使っているかの一覧です。

本パソコンご購入時の割り込み番号(IRQ)、DMAチャネルは、次のように設定されています。ご使用の状態によっては、異なることがあります。

割り込み番号 (IRQ)

IRQ	使用状況
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	赤外線シリアルポート
4	通信ポート (COM1)
5	サウンド
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート
8	システムCMOS / リアルタイムクロック
9	CardBus Controller / 内蔵モデム (COM2) / USBホストコントローラ / サウンド / ディスプレイ
10	空き
11	空き
12	ポインティングデバイス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ
15	IDEコントローラ

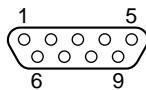
DMAチャネル

DMA	使用状況
0	空き
1	サウンド
2	フロッピーディスクコントローラ
3	赤外線シリアルポート
4	DMAコントローラ
5	空き

コネクタのピン配列と信号名

シリアルコネクタ

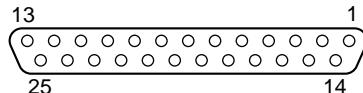
(D-SUB9 ピン、オス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケータ

パラレルコネクタ

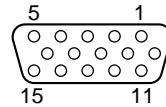
(D-SUB25 ピン、メス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	STROBE	入出力	ストローブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	選択
18	GND	-	グランド
19	GND	-	グランド
20	GND	-	グランド
21	GND	-	グランド
22	GND	-	グランド
23	GND	-	グランド
24	GND	-	グランド
25	GND	-	グランド

CRT コネクタ

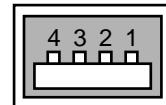
(ミニ D-SUB15 ピン、メス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5	GND	-	グランド
6	GND	-	グランド
7	GND	-	グランド
8	GND	-	グランド
9	+ 5V	-	電源 1
10	GND	-	グランド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	H SYNC	出力	水平同期信号
14	V SYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

1 : MAX 300mA

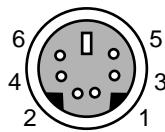
USB コネクタ



ピン信号	信号名	方向	説明
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グランド

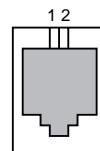
拡張キー ボード / マウスコネクタ

(ミニ DIN6 ピン)



モジュラーコネクタ (モデム)

(RJ-11)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	KDATA	入出力	データ
2	MDATA	入出力	データ
3	GND	-	グランド
4	+ 5V	-	電源
5	KCLK	入出力	クロック
6	MCLK	入出力	クロック

ピン信号	信号名	方向	説明
1	LINE1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE2	入出力	公衆回線に接続

CRT ディスプレイの走査周波数

CRT 表示のみの場合

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数が選択できます。

解像度 (ドット)	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
640 × 480	31-43	60-85
800 × 600	37-53	60-85
1024 × 768	48-68	60-85
1280 × 1024	64-91	60-85
1600 × 1200	75	60

同時表示の場合

解像度や発色数に関係なく一定です。

水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
48.5	60.0

2 Save To Disk 領域

ここでは以下のことを説明します。

- ・Save To Disk 領域について P.140
- ・Save To Disk 領域の容量 P.140
- ・Save To Disk 領域を変更する P.141

Save To Disk 領域について

アドバイス

「ファイル形式」と
「区画設定」

Save To Disk 領域には
「ファイル形式」と「区画設
定」があります。本パソコ
ンご購入時は、あらかじ
め、Save To Disk 領域が
「区画設定」で作成されて
います。

ファイル形式で使う
ときの注意

「ドライブスペース」や「ダ
ブルスペース」などのディ
スク圧縮プログラムで圧縮
されたドライブ上では、
Save To Disk 領域をファ
イル形式で使うことはでき
ません。Save To Disk 領
域をファイル形式で作成し
ているときは、「ドライブ
スペース」や「ダブルス
ペース」などのディスク圧
縮機能は使用しないでく
ださい。

Save To Disk 領域
に必要な容量

Save To Disk 領域には、
メインメモリ容量とビデオ
メモリ容量以外に若干の作
業容量が必要です。そのた
め、Save To Disk 領域の
容量は、メインメモリ容量
とビデオメモリ容量の合計
よりも多くなっています。

Save To Disk 機能では、作業状態（メモリの内容）をそのままハードディスクに保存します。本パソコンご購入時のハードディスクの中には、あらかじめ Save To Disk 機能用の保存場所が確保されています。この Save To Disk 機能用の保存場所を「Save To Disk 領域」といいます。

Save To Disk 領域は PHDISK ユーティリティで変更することができますが、通常は変更する必要はありません。Save To Disk 領域を削除、または変更するときにお読みください。

Save To Disk 領域を削除、または変更して Save To Disk 領域が足りなくなったりしたときは、Save To Disk 機能が使えなくなります。

Save To Disk 領域の容量

Save To Disk 領域として必要になる容量は、次のように決まります。

Save To Disk 領域の必要容量 = メインメモリ容量 + (ビデオメモリ容量 / その他)

本パソコンでは、メモリ容量を最大に拡張したときを想定して、ご購入時は、次の容量の Save To Disk 領域が設定されています。

Save To Disk 領域の容量	最大メインメモリの 容量（増設時）	ビデオメモリ容量 / その他
約 199MB	標準 64MB + 増設 128MB = 192MB	約 7MB

Save To Disk 領域を変更する

アドバイス

Save To Disk 領域を作成するとき

Save To Disk 領域は、「ファイル形式」または「区画設定」のどちらか一方で作成できます。

区画として Save To Disk 領域を作成するとき

- ・区画として Save To Disk 領域を作成するときは、FDISK ユーティリティで MS-DOS 領域を作成する前に作成してください。
- ・「区画設定」で Save To Disk 領域を作成する場合は、「ファイル形式」で作成する場合よりも、大きな容量が必要になります。

Save To Disk 領域を作成したあとは再起動してください

Save To Disk 領域を作成した場合は、作成後に必ず再起動してください。

再起動せずに Save To Disk 機能を使うと、正しく動作しない場合があります。

区画として作成した Save To Disk 領域を増やすとき

区画として作成した Save To Disk 領域の容量を増やす場合は、組み込まれている MS-DOS 領域の容量を FDISK ユーティリティを使って減らす必要があります。ただし、FDISK によって MS-DOS 領域の容量を変更すると、それまでの MS-DOS 領域内のデータはすべて失われます。

作業の前には、必要なデータのバックアップを行ってください。

Save To Disk 領域の作成、再フォーマット、削除および詳細情報の表示などを行うには、PHDISK ユーティリティを使用します。PHDISK ユーティリティ (PHDISK.EXE) は  「リカバリ CD-ROM 1/2」に入っています。

また、Windows98 の場合、PHDISK ユーティリティは、Windows モードが起動されていると正しく動作しません。

PHDISK ユーティリティを起動する

- 1 パソコンの電源が入っている場合は、電源を切ります。
- 2 キーボードの  の位置を確認します。
パソコンの電源を入れたあと、すぐこのキーを押せるようにしてください。
- 3 パソコンの電源を入れ、Fujitsu のロゴマークが表示されている間に、 を押します。
しばらくすると、「起動メニュー」が表示されます。
- 4  をセットします。
- 5  または  で「3. ATAPI CD-ROM ドライブ」を選択し、 を押します。
しばらくすると画面に「Windows98 リカバリメニュー」が表示されます。
- 6  (終了) を押します。
- 7 「Z:¥COMMAND >」のあとに、phdisk とオプションを入力し、 を押します。

コマンド

PHDISK { オプション }

```
    /CREATE /PARTITION ( または /CREATE /FILE )
    /INFO
    /DELETE /PARTITION ( または /DELETE /FILE )
    /REFORMAT /PARTITION
```

PHDISK をオプションなしで起動すると、簡単な使いかた、現在作成されている領域などが表示されます。

なお、Save To Disk 領域の変更を行ったあとは、メッセージに従って操作をしてください。本パソコンが再起動します。

オプション

それぞれのオプションは、先頭の 1 文字だけでも有効です。たとえば、「/CREATE」と「/C」は同じことです。また、「/PARTITION」と「/P」も同じです。

/の前は、 を 1 回押してください。

それぞれのオプションの詳細は以下のとおりです。

- | | |
|----|---|
| 作成 | :/CREATE /PARTITION (または /CREATE /FILE)
Save To Disk 領域がまだ作成されていない場合に使います。
/CREATE /FILE と指定すると、Save To Disk 領域をファイル形式で作成します。
/CREATE /PARTITION と指定すると、Save To Disk 領域を区画設定で作成します。
Save To Disk 領域の容量は、現在のシステム構成に最適な容量の領域を作成します。 |
|----|---|

区画設定でSave To Disk領域を作成したときは、作成が終わると、その領域のフォーマットを開始します。フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。

削除 : /DELETE /PARTITION (または /DELETE /FILE)
すでに作成している Save To Disk 領域を削除する場合に使用します。
/DELETE /FILE と指定すると、ファイル形式で作成された Save To Disk 領域を削除します。
/DELETE /PARTITION と指定すると、区画設定で作成された Save To Disk 領域を削除します。
Save To Disk 領域の容量を変更したい場合は、まず、/DELETE によってすでに作成された Save To Disk 領域を削除したあと、/CREATE によって現在搭載されているメモリ容量の Save To Disk 領域を作成します。

再フォーマット : /REFORMAT /PARTITION
区画として作成されている Save To Disk 領域を再フォーマットします。
このオプションは、Save To Disk 機能を使っていて、読み出しエラーや書き込みエラーが起こった場合に使ってください。すでに作成している Save To Disk 領域を再フォーマットします。再フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使えないようにします。Save To Disk 領域の容量が変わることはありません。

詳細情報 : /INFO
すでに作成されている Save To Disk 領域に関する詳細情報を表示します。

表示例 :

- 区画設定で作成した場合
Save To Disk 領域詳細情報:
開始セクタ:XXXXXX (ヘッド X、シリンド XXX、セクタ X)
全容量:XXXXXX バイト

現在の状態:

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

- ファイル形式で作成した場合
Save To Disk 領域詳細情報:

現在の Save To Disk 領域は、ファイル名が C: ¥SAVE2DSK.BIN で、サイズはXXXXXXk bytes です。属性は、システム、隠しファイル、及び読み取り専用です。

現在の状態:

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

3 赤外線通信について

ここでは、赤外線通信および赤外線通信用のアプリケーション「Intellisync」(インテリシンク)について説明しています。赤外線通信を行う前にお読みください。

- ・赤外線通信の概要 P.143
- ・Intellisync P.143
- ・制限事項 P.145

赤外線通信の概要

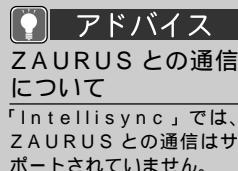
赤外線通信とは、本パソコンの赤外線通信ポートを使用して、赤外線通信機能をもった他のパソコンと、ケーブルを接続することなく通信できる機能です。

赤外線通信を行う場合は、互いのパソコンの赤外線通信ポートを使用可能に設定し、赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにします。距離は20~50cmの範囲内での使用をお勧めします。

赤外線通信をするときの注意

- ・赤外線通信をしているときは、赤外線通信ポートにACアダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。
- ・互いのパソコンの距離を離しすぎないでください。
- ・データの転送中に互いのパソコンを動かすと、データ転送が失敗する場合があります。
- ・次のようなときは、正常に通信ができない場合があります。
 - 互いの赤外線通信ポートが、真正面に向き合っていない場合
 - 互いの赤外線通信ポートの距離が離れすぎていたり、間に遮断物がある場合
 - テレビ、ラジオなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作している場合
 - 直射日光や蛍光燈・白熱灯などの強い光が赤外線通信ポートにあたっている場合
 - 赤外線通信ポートが汚れている場合

Intellisync



本パソコンには、赤外線通信用のアプリケーションとして、「Intellisync」(インテリシンク)がインストールされています。「Intellisync」を使うことにより、2台のパソコンを赤外線通信アダプタやケーブルで接続し、ファイルの転送などを簡単に行うことができます。

なお、「Intellisync」を使った通信について詳しくは、「Intellisync」のマニュアルをご覧ください。

『Intellisync for Notebooks クイック・リファレンス・ガイド』

転送速度について

「Intellisync」を使用すると、最大4Mbpsの速度で通信できます。

転送速度は、通信相手のパソコンにより異なります。

- ・115Kbpsのパソコンと通信する場合
自動的に115Kbpsモードで接続されます。
- ・4Mbpsのパソコンと通信する場合
自動的に4Mbpsモードで接続されます。

本パソコンで Intellisync を使う前に

Intellisync をお使いになる前に、次の項目の設定を確認してください。

Windows 98 の標準の赤外線デバイスを使用不可の状態にする

次の手順で Windows 98 の標準の赤外線デバイスの設定を確認し、必要であれば変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (赤外線モニタ) をクリックします。
「赤外線モニタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「オプション」タブをクリックします。
- 4 「赤外線通信を使用可能にする」が になっていることを確認します。
 になっているときはクリックして にします。
- 5 「OK」をクリックします。

BIOS セットアップの設定を確認する

本パソコンご購入時は、BIOS セットアップは以下のように設定されています。

正常に通信できない場合は、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「シリアル／パラレルポート設定」で、「赤外線通信ポート」の各項目が以下の設定になっているか確認してください。

- ・赤外線通信ポート : 使用する
- ・モード : FIR
- ・I/O アドレス : 2E8-2EF
- ・割り込み番号 : IRQ 3
- ・I/O アドレス : 118-11F
- ・DMA チャネル : DMA 3

「BIOS セットアップの操作のしかた」(☞P.109)

コンピュータ名を変更する

「Intellisync」では、同じコンピュータ名どうしで通信を行うことができません。

次の手順で通信相手のコンピュータ名を確認し、必要であればコンピュータ名を変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「Intellisync」の順にマウスポインタを合わせ、「接続設定マネージャ」をクリックします。
「使用許諾同意書」が表示されます。
表示されないときは、手順 3 へ進んでください。
- 2 「承諾する」をクリックします。
「はじめに - 接続設定マネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「閉じる」をクリックします。
「接続設定マネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「識別」タブの「コンピュータ名」を確認し、必要であれば変更します。
- 5 「OK」をクリックします。

制限事項

- ・Windows98を終了する前に、必ず「Intellisync」を先に終了させてください。
- ・データの通信中に赤外線通信ポートをふさぐなどして通信エラーが発生した場合は、次のようにしてください。そのままお使いになると、正常に通信できないことがあります。
 1. パソコン本体の電源を切ります。
「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.42)をご覧になり、MAINスイッチを切って(側にスライドして)ください。
 2. 10秒ほど待ってから、MAINスイッチを入れ(側にスライドし)ます。
 3. Intellisyncを起動します。
- ・「Intellisync」のシンクロナイズ機能では、ファイル名に全角文字が含まれたファイルを指定すると、正しく動作しない場合があります。
- ・「ファイル転送」機能のツールバーにある「一覧」ボタンのバルーンヘルプは表示できません。
- ・赤外線通信中は、接続設定マネージャの「ローカルデバイス」タブの赤外線のプロパティを開いて「IR ウィザード」を行わないでください。
- ・「TranXit」がインストールされている機種に「Intellisync」を上書きインストールした場合、表示されるウィンドウ内に「Transit」と誤記表示されます。
- ・ドライブとして割り当てられたネットワークコンピュータ名やボリュームラベルに全角の文字が使用されていると、正しく表示されない場合があります。
- ・「ファイル転送」で接続先が表示されない場合は、次のように設定を変更してください。
 1. 「ファイル転送」の「オプション」メニューから「設定」をクリックします。
 2. 「セキュリティ」タブをクリックします。
 3. 「リソースアクセス」の「ドライブの詳細」を選択します。

これで設定は終了です。

4 モデムについて

ここでは以下のことを説明します。

- ・内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意 P.146
- ・電話回線の接続口の形状 P.147
- ・電話回線に電話機を取り付けているとき P.148
- ・認証番号の表示 P.148

内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意



感電
警告

近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。
そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。



感電
注意

モジュラージャックやモジュラーコネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。

・モデムが使用可能な回線

本モデムは、接続する電話回線の仕様がNTTの一般公衆電話回線と電気的に同じでないと正常に動作しません。

・ホームテレホン、ビジネスホンなどには接続できません

本モデムが接続できる回線は、一般的NTT公衆電話回線のみです。ホームテレホン、ビジネスホン、キーテレホン、ボタン電話などは、NTTの電話回線と電気的な仕様が異なるため接続できません。接続前に電話装置メーカーや保守業者にお問い合わせください。

・デジタル回線に接続する場合

本モデムはデジタル網（ISDN等）やデジタル構内交換網（デジタルPBX）の回線に直接接続することはできません。本モデムが故障する恐れがありますので、ターミナルアダプタなどを経由して、アナログポートに接続してお使いください。

・PBXに接続する場合

PBXに接続される通信回線の仕様がNTTの電話回線と電気的に異なる場合、本モデムがお使いになれないことがあります。例えば、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンの条件などについてはNTT回線の仕様に準拠しています。接続する前に、お使いのPBXの製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。

ただし、“0”発信によって外線に接続するPBX内線電話の場合、ご使用のアプリケーションの設定で初期化コマンドに「ATX3」を追加するか、または発信音をチェックしない設定をすることで、発信することができます。

・キャッチホン1契約をしている場合

キャッチホン1契約をしている場合は、パソコン通信やFAX送受信中に他から電話がかかると、回線が一時的に切断されます。その際、通信データが壊れたり、送受信が中止されたりすることがあります。キャッチホン2に変更するか、またはキャッチホン1をご使用にならないでください。

・通信アプリケーションご使用時の注意

通信アプリケーションでデータのアップロード・ダウンロードを行う際には、パソコンをサスPEND状態にならないように設定してください。アップロード・ダウンロードの途中でサスPEND状態になると、データ転送が中断することがあります。

・国内でご使用ください

本モデムは、日本国内での規格に基づいて設計されていますので、海外では使用できません。

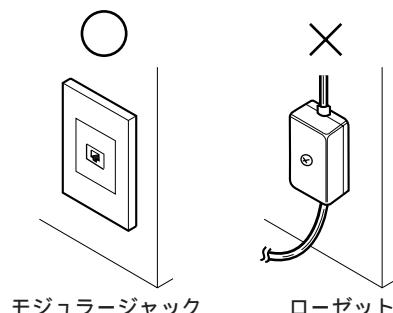
- ・電源ケーブルなどは離してご使用ください
電源ケーブルなどは、ノイズを発生して電話回線に影響をおよぼす場合があります。モードムをお使いになる際は、これらのノイズ源と回線を影響のない程度に離してお使いください。
- ・ナンバーディスプレイ対応の電話番号で接続する場合
「184」「186」の電話番号をつけてダイヤルする場合、正常に接続できないことがあります。その場合は「184」「186」の電話番号と接続先の電話番号の間に「,」(半角のカンマ)を入れてダイヤルしてください。
- ・本モードムのATコマンドについて
◎「アプリケーションCD2」のPDFマニュアル(¥Modempdc¥4661内蔵モードム取説)をご覧ください。
PDFマニュアルの使いかたは、『使いこなす本 ソフト編』の「付録3 PDFマニュアルの使いかた」をご覧ください。

電話回線の接続口の形状

一般的に電話回線の接続口には、「モジュラージャック」と「ローゼット」と呼ばれる2種類があります。モジュラーケーブルは、接続口がモジュラージャックの場合のみ接続できます。

ローゼットなどをモジュラージャックに取り替える場合は、認定を受けた工事担当者またはその監督の下で作業を行ってください。

また、最寄りのNTTの営業所または支店へ取り替え工事を依頼することもできます。



電話回線に電話機を取り付けているとき

電話回線と本パソコンを接続するときは、電話機のモジュラーケーブルは取り外してください。

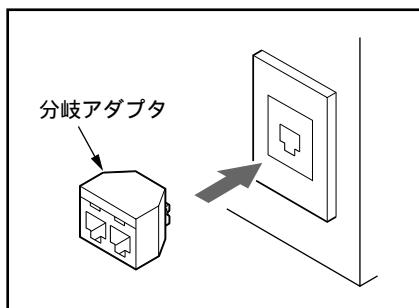


アドバイス

電話機のモジュラーケーブルを取り外したくないとき

市販の分岐アダプタを利用すると、本パソコンと電話機の両方をモジュラージャックに接続できます。分岐アダプタを利用するときは、以下のことに注意してください。

- ・パソコンと電話機で同時に電話回線を使うことはできません。
- ・インターネットやパソコン通信をしているときは、電話機の受話器をはずさないようにしてください。受話器がはずれると、通信の妨害となり、通信が中断されることがあります。
- ・分岐アダプタの2つのモジュラージャックに、接続区別はありません。電話機、または本パソコンをどちらのモジュラージャックに接続してもかまいません。
- ・分岐アダプタを使用するときは、なるべく2分岐以内にしてお使いください。



モジュラーケーブルの長さが足りないとき

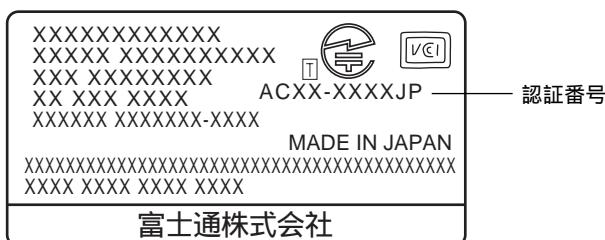
添付のモジュラーケーブルで長さが足りないときは、十分な長さの市販品をお買い求めください。

携帯電話やPHSで通信する場合

「携帯電話やPHSを接続する」(☞P.82)

認証番号の表示

本モデルの技術基準適合認証番号は、パソコン本体下面に表記されています。



ドライバのインストール

ゲームなどをインストールすると、本パソコンに合わないドライバが自動的にインストールされてしまい、本パソコンが正しく動作しなくなることがあります。この場合、ドライバをインストールする必要があります。

ここでは以下のことを説明します。

- ・インストールのときに気をつけること P.149
- ・ディスプレイドライバをインストールする P.150
- ・サウンドドライバをインストールする P.154

インストールのときに気をつけること

アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法

デスクトップの何もないところで、ラットボイントの右ボタンを1回押し、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。

「FM便利ツール」を終了するには

「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「FM便利ツール」の順にマウスポインタを合わせ、「5. 終わる」をクリックします。

「VirusScan」や「PMSet98」を終了するには

タスクバーのアイコンにマウスポインタを合わせてラットボイントの右ボタンを1回押し、表示されたメニューの「終了」をクリックします。

スクリーンセーバーを「なし」に設定するには

☞画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決！Q & A」

アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックしてチェックマークを外すと、アクティブデスクトップが解除されてWindows98の標準画面に切り替わります。

インストール終了後、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

アプリケーションやウィンドウの終了

「Windows98へようこそ」画面など、開いているウィンドウや、実行中のアプリケーションをすべて終了させてください。タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションも終了させてください。

また、何度もパソコンが再起動するので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

スクリーンセーバーの解除

スクリーンセーバーを「なし」に設定してください。

「バージョンの競合」ウィンドウ

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。その場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず◎「アプリケーションCD2」に入っているファイルがインストールされるように、「いいえ」を選んでください。

ディスプレイドライバをインストールする

画面が正しく表示されないときは、ディスプレイドライバをインストールします。

ディスプレイドライバのインストールは、⑤「アプリケーション CD2」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

「インストールのときに気をつけること」(☞P.149)

Windows98が起動しないときは、SafeモードでWindows98を起動してください。Windows98のセットアップ直後など、Windows98が起動しているときは、ディスプレイドライバをインストールします。

「ディスプレイドライバのインストール」(☞P.152)

アドバイス

「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されないとき
[Ctrl]を押すタイミングが合わなかったことが考えられます。本パソコンを再起動して、手順3からやり直してください。

画面に何も表示されていない場合は、SUS/RESスイッチを4秒以上押して本パソコンの電源を切り、手順2から操作し直してください。それでも「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されないときは、本パソコンをSafeモードで起動できません。弊社パーソナルエコーセンター、またはFMインフォメーションサービスにご連絡ください。

Safeモードとは

Windows98を必要最低限の状態で起動する方法です。ディスプレイなどの設定に問題が起きた場合、一時的に使用します。

Windows98が起動してしまったとき

手順4の操作を行わないまま30秒経過すると、自動的にWindows98が起動してしまうことがあります。その場合は、本パソコンを再起動して、手順3からやり直してください。

エラーメッセージについて

Windows98が起動してから、いろいろなエラーメッセージが表示される場合があります。すべて「OK」をクリックしてください。

SafeモードでWindows98を起動する



注意



けが CDをセットおよび取り出すときには、トレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 キーボードの[Ctrl]の位置を確認します。
- 2 パソコン本体の電源を入れます。
「電源を入れてパソコンを使おう」(☞P.40)
- 3 「FUJITSU」のロゴマークが表示されたら、[Ctrl]を押し続けます。
「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。
- 4 [Shift]を押して「3. Safe mode」を反転表示させ、[Enter]を押します。
しばらくすると、SafeモードでWindows98が起動し、Safeモードの説明が表示されます。
- 5 「デスクトップ」ウィンドウの「OK」をクリックします。
- 6 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 7 [画面]をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 8 「設定」タブをクリックします。
- 9 「詳細」をクリックします。
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 10 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 11 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 12 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックして[次へ]にします。

- 13 「次へ」をクリックします。**
- 14 一覧から「ディスプレイアダプタ」を選び、「次へ」をクリックします。**
- 15 製造元とモデルを以下のように選びます。**
製造元：「(標準ディスプレイ)」
モデル：「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」
- 16 [次へ]をクリックします。**
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順18へ進んでください。
- 17 「はい」をクリックします。**
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。
- 18 「次へ」をクリックします。**
「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。
- 19 「完了」をクリックします。**
「(不明なデバイス)のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 20 「閉じる」をクリックします。**
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 21 「閉じる」をクリックします。**
「続行しますか？」というメッセージが表示されます。
- 22 「はい」をクリックします。**
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 23 「はい」をクリックします。**
本パソコンが再起動します。

このあとは、次の「ディスプレイドライバのインストール」をご覧になり、正しいディスプレイドライバをインストールしてください。

■ 重要

メッセージが表示されたとき

再起動後に「ディスプレイ設定に問題があります。」というメッセージが表示されたときは、「OK」をクリックし、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「色」を「16色」に設定します。その後「OK」をクリックして「画面のプロパティ」ウィンドウを閉じ、本パソコンを再起動してください。

ハードウェアウィザードが始まるメッセージが表示されたとき

ドライバを削除したり、間違ったドライバをインストールしたりすると、「OKをクリックするとハードウェアウィザードが始まります。」というメッセージが表示されることがあります。その場合は、必ず「キャンセル」をクリックしてください。

■ アドバイス

「コントロールパネル」ウィンドウに説明を表示させるには
再起動後に「コントロールパネル」ウィンドウを表示すると、左端に説明が表示されないことがあります。
このときは、「コントロールパネル」ウィンドウで「表示」メニューをクリックし、「Webページ」をクリックして✓(チェックマーク)を付けてください。説明が表示されるようになります。

ディスプレイドライバのインストール



注意



けが
CDをセットおよび取り出すときには、トレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 「アプリケーション CD2」を CD ドライブにセットします。
「セットする」(☞P.23)
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面)をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「設定」タブをクリックします。
- 5 「詳細」をクリックします。
- 6 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
「アダプタ」タブが表示されていないときは、「OK」をクリックし、もう一度「画面のプロパティ」ウィンドウで「詳細」をクリックしてください。「アダプタ」タブが表示されます。
- 7 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
- 8 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックしてにします。
- 9 「次へ」をクリックします。
「モデル」の一覧が表示されます。
- 10 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 11 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に、e:¥atiと入力し、「OK」をクリックします。
(e:には、お客様がお使いの CD ドライブ名を入力してください)
- 12 「RAGE MOBILITY AGP (Japanese)[11-29-1999]」が選択されていることを確認し、「OK」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されたときは、「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされます。
- 13 「完了」をクリックします。
- 14 「モニタ」タブをクリックします。

アドバイス

「続行しますか？」というメッセージが表示されたとき

「はい」をクリックしてください。

「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたとき

1 「OK」をクリックします。

「この設定を保存しますか？」というメッセージが表示されます。

2 「はい」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

3 手順 26 へ進みます。

- 15 以下のように表示されているか、確認します。
「ラップトップディスプレイパネル(1024×768)」
表示されているときは、手順 25 へ進んでください。表示されていないときは、手順 16 へ進んでください。
- 16 「変更」をクリックします。
- 17 「次へ」をクリックします。
- 18 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。
- 19 「すべてのハードウェアを表示」をクリックして  にします。
- 20 「製造元」に「(標準モニタの種類)」を選びます。
- 21 「モデル」を以下のように選び、「次へ」をクリックします。
「ラップトップディスプレイパネル(1024×768)」
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されます。表示されないときは、手順 23 へ進んでください。
- 22 「はい」をクリックします。
ファイルがコピーされます。
コピーが終わると、「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウに戻ります。
- 23 「次へ」をクリックします。
- 24 「完了」をクリックします。
- 25 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 26 「閉じる」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 27 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
再起動しない場合は、「スタート」メニューから、「Windows の終了」を実行し、本パソコンを再起動してください。
本パソコンの再起動後に「ATIデスクトップのヘルプ」ウィンドウが表示されたときは、右上の  (閉じるボタン) をクリックしてください。
- 28  「アプリケーション CD 2」を CD ドライブから取り出します。
「取り出す」( P.24)
- 29 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。
- 30 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

- 31 「ディスプレイヤダプタ」の「標準ディスプレイヤダプタ(VGA)」に「！」が表示されているときは、「標準ディスプレイヤダプタ(VGA)」をクリックし、「削除」をクリックします。
「！」が表示されないときは、手順33へ進んでください。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 32 「OK」をクリックします。
- 33 「閉じる」または「OK」をクリックします。
- 34 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の  (閉じるボタン) をクリックします。
- 35 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 36 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

お使いの状況に合わせて、画面の解像度と発色数を変更してください。

「液晶ディスプレイの解像度や発色数を変える」( P.33)

ご購入時の解像度と発色数は次のとおりです。

解像度：1024 × 768 ドット

発色数：High Color (16 ピット)

サウンドドライバをインストールする

ゲームなどをインストールして音が正しく出なくなったときは、サウンドドライバをインストールします。

サウンドドライバのインストールは、 「アプリケーション CD2」から行います。インストールを始める前に、アプリケーションを終了し、開いているウィンドウを閉じてください。

「インストールのときに気をつけること」( P.149)



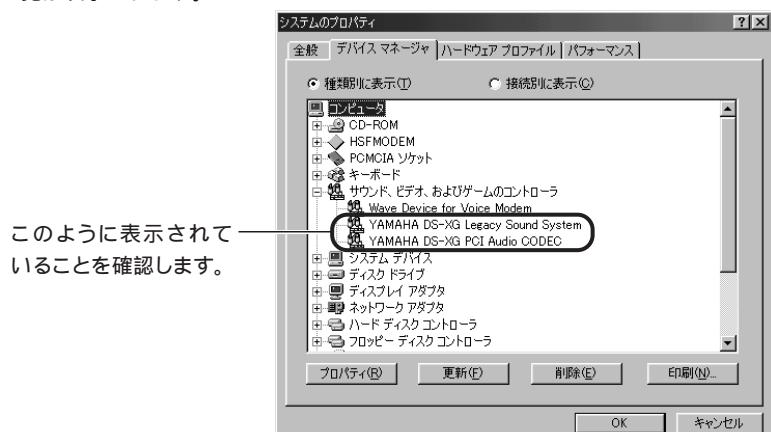
CDをセットおよび取り出すときには、トレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 「アプリケーション CD2」を CD ドライブにセットします。
「セットする」(P.23)
 - 2 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
 - 3 名前の右の欄に e:¥yamaha¥setup.exe と入力し、「OK」をクリックします。
(e:には、お客様がお使いの CD ドライブ名を入力してください)
インストールが始まります。
インストールが終了すると、「セットアップ完了」というウィンドウが表示され、本パソコンが自動的に再起動します。
 - 4 「アプリケーション CD2」を CD ドライブから取り出します。
「取り出す」(P.24)
 - 5 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 - 6 （システム）をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 - 7 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
 - 8 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の左の  をクリックします。
一覧が表示されます

アドバイス

「！」や「×」が表示されたり、正しく表示されていないとき

手順1からやり直してください。
それでも正しく表示されないときは、弊社パーソナルエコセンター、またはFMインフォメーションサービスにご連絡ください。



- ## 9 「OK」をクリックします

その他の注意事項

ここでは以下のことを説明します。

- ・ACPIについて P.156
- ・全画面表示の設定について P.162
- ・フラットポイントについて P.163
- ・インテル® プロセッサ・シリアル・ナンバについて (NE3/500LR, NE3/500Lのみ) P.163

ACPIについて

本パソコンご購入時は、省電力機能としてAPM(Advanced Power Management)モードに設定されています。本パソコンにはWindows98がインストールされているので、ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)モードに変更することもできます。



重要

必要のない方は設定を変更しないでください

本パソコンをACPIモードでお使いになるには、多くの注意事項があります。特に必要な方は、APMモードの設定のままお使いになることを、強くお勧めします。

注意事項をご確認ください

ACPIモードでお使いになるときは、注意していただきたいことがあります。ここに記載している注意事項を十分確認してから、設定を変更してください。

操作手順を間違えないでください

設定を変更するときは、必ず手順どおりに行ってください。操作を間違えると、Windows98が起動できなくなる場合があります。

ACPIモード使用時の注意事項

作成されたデータに関する注意

ACPIモードを有効にする前に、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻します。

☞『トラブル解決Q&A』の「第3章 パソコンをふりだしにもどす」

ご購入時の状態に戻すと、本パソコンご購入後に作成されたファイルは、すべて消えてしまいます。大切なファイルは、必ずバックアップをとっておいてください。

また、本パソコンご購入後にインストールしたアプリケーションは、ACPIモードが有効になったあとに、インストールし直す必要があります。

オプション機器に関する注意

本パソコンで使用するPCカードなどのオプション機器が、ACPIモードに対応している必要があります。

ACPIモードを有効にしたあとで、ACPIモードに対応していないPCカードなどのオプション機器を接続すると、オプション機器が使えなかったり、サスPEND(一時停止)などの省電力モードから復帰できなくなる場合があります。事前にお使いになるPCカードなどのオプション機器が、ACPIモードに対応しているかどうかをご確認ください。なお、ご使用になるPCカードなどのオプション機器によっては、ドライバでACPIモードに対応できるものもあります。

アドバイス

CCDカメラについて

CCDカメラは、ACPIモードには対応していません。

APM モードに戻すときの注意

ACPIモードに設定を変更後、再びAPMモードへ戻すときにも、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻す必要があります。

ネットワーク環境の使用時の注意

ネットワーク環境をご使用の場合、省電力モードへ移行すると通信先との接続が切れてしまい、レジューム（サスペンドする前の状態に戻す）時に、正常に通信を継続できなかつたり、Windows98が正常に動作しなくなる場合があります。

お使いになれない機能

BIOS セットアップの省電力メニュー

ACPIモードでは、Windows98がすべての省電力機能を制御します。そのため、BIOSセットアップの省電力メニューの設定は、すべて無効になります。

モデム着信によるレジューム

サスペンド状態で内蔵モデムに着信すると、常にレジュームします。レジュームさせたくないときは、モジュラーコネクタからモジュラーケーブルを抜いておいてください。

ACPI モードに設定する

必要なものを用意する

- ・ 「トラブル解決 Q&A」
- ・ 「リカバリ CD-ROM」
- ・ 「アプリケーション CD2」

重要

もう一度注意事項を確認してください

- ・ Windows98のACPIモードを有効にしたあとに再びAPMモードに戻すときは、ハードディスク（Cドライブ）の内容をご購入時の状態に戻す必要があります。注意事項を再度ご確認の上、内容にご同意いただける場合のみ、以下の操作を行ってください。
「ACPIモード使用時の注意事項」（P.156）
- ・ 操作手順は間違えないように十分注意してください。手順を間違えると、Windows98が起動できなくなる場合があります。

ACPI モードの設定を始める前に

モードスイッチ（☞P.15）が Lock（中）の位置になっていることを確認してください。また、PC カードなどのオプション機器を接続していたり、アプリケーションをインストールされている場合には、以下の操作を行う必要があります。

オプション機器を取り外す

オプション機器を接続されている場合は、すべて取り外してください。また、すべての作業が完了するまでは、取り付けないでください。

BIOS セットアップの設定を戻す

BIOS セットアップの設定を変更している場合は、ご購入時の設定に戻してください。「ご購入時の設定に戻す」（☞P.112）

バックアップをとる

ご購入後に作成したデータやインストールしたアプリケーションは、すべて削除されます。必要なデータはあらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。また、インストールしたアプリケーションは、すべての作業が完了してからインストールし直してください。

ACPI モードに設定する

1 ハードディスクの内容を、ご購入時の状態に戻します。

☞「トラブル解決 Q&A」の「第3章 パソコンをふりだしにもどす」

2 パソコンの電源を入れ、スタートアップのアプリケーション登録をすべて削除します。

重要

スタートアップには何も登録しないでください

スタートアップにアプリケーションが登録されていると、ACPI モードが正しく設定されない場合があります。スタートアップへの登録は、ACPI モードを有効にしてから行ってください。

3 本パソコンを再起動します。

「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。「Windows の終了」ウィンドウが表示されたら、「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

4 CD ドライブに①「アプリケーション CD 2」をセットします。

5 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイルを指定して実行」をクリックします。

6 「名前」の右の欄に e:\chgacpi\chgacpi.exe と入力し、「OK」をクリックします。

（e:にはお客様がお使いの CD ドライブ名を入力してください）

「FUJITSU ChgACPI」ウィンドウが表示されます。表示される内容をよくお読みください。

7 「次へ」をクリックします。

 **アドバイス**
アクティブデスクトップの解除を行います
「アクティブデスクトップの解除」（☞P.149）

- 8 「ACPIモードに設定する」をクリックして□を☑にし、「次へ」をクリックします。**
- 9 「完了」をクリックします。**
- 「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
画面の表示に従って、ハードウェアの検索を行ってください。検索には数分かかります。
検索が完了したら、画面の表示に従ってWindows 98を再起動してください。
Windows 98を再起動すると、新しいハードウェアの検出が行われます。
- アドバイス**
- メッセージが表示されたとき**
- 新しいハードウェアを検出している途中で、メッセージやウィンドウが表示されたときは、次の操作を行ってください。
- ・「Windows 98 Second Edition CD-ROM ラベルの付いたディスクを挿入して「OK」をクリックしてください。」というメッセージが表示された場合
 - 「OK」をクリックし、次に表示されるウィンドウで「c:¥windows ¥options¥cabs」と入力して「OK」をクリックしてください。
 - ・「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合
「はい」をクリックしてください。
 - ・「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合
「OK」をクリックし、次に表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。
 - ・「不明なデバイス」ウィンドウが表示された場合
「キャンセル」をクリッケして、次に進んでください。
- すべてのハードウェアの検出と設定が完了すると、再起動を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って本パソコンを再起動してください。
- メッセージが表示されない場合は、「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」ウィンドウで「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックしてください。
- アドバイス**
- 「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに不明なデバイスが表示されたとき**
- Windows 98の再起動中に「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに不明なデバイスが表示されたときは、以下の手順でドライバをインストールしてください。
- 1 「キャンセル」をクリックします。
しばらくすると、「不明なデバイス」が表示されます。
 - 2 「キャンセル」をクリックし、再起動します。
 - 3 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
 - 4 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックしてにし、「次へ」をクリックします。
 - 5 デバイスの種類の一覧で「システムデバイス」をクリックして反転表示させ、「次へ」をクリックします。
 - 6 「ディスク使用」をクリックします。
 - 7 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に、e:¥pmsetと入力し、「OK」をクリックします。
(e:にはお客様がお使いのCDドライブ名を入力してください)
 - 8 「モデル」欄に「Fujitsu FUJ02B1 Device Driver [x-xx-1999]」と表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します」というウィンドウが表示されます。
 - 9 「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーがはじまります。
 - 10 「完了」をクリックします。
- 10 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。**
- 11 「名前」の右の欄に e:¥fixacpi¥fixacpi.exe と入力し、「OK」をクリックします。**
- (e:にはお客様がお使いのCDドライブ名を入力してください)
「FixACPI」ウィンドウが表示されます。表示される内容をよくお読みください。
- 12 「OK」をクリックします。**
- 再起動を確認するメッセージが表示されます。
- 13 「はい」をクリックします。**
- 本パソコンが再起動されます。
- 14 「アプリケーション CD2」をCDドライブから取り出します。**

- 15 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 - 16  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブで「接続別に表示」をクリックして  にします。
「Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) BIOS」と表示されていることを確認します。
ACPI モードが有効になりました。
 - 17 「OK」をクリックします。
- 続いて、3 モードフロッピードライバを再インストールしてください。
- 3 モードフロッピードライバを再インストールする**
- 1 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
 - 2 「種類別に表示」をクリックして  にし、「フロッピーディスクコントローラ」の左の  をクリックします。
 - 3 「Fujitsu 3-mode Floppy (FMV Series)」をクリックし、「削除」をクリックします。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
 - 4 「OK」をクリックします。
 - 5 「閉じる」をクリックします。
 - 6 「コントロールパネル」ウィンドウの  (ハードウェアの追加) をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
 - 7 「次へ」をクリックします。
 - 8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というウィンドウが表示されたら、「次へ」をクリックします。
 - 9 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というウィンドウで「いいえ」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。
「インストールするハードウェアの種類を選んでください。」というウィンドウが表示されます。
 - 10 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。
 - 11 「製造元」に「FUJITSU」を、「モデル」に「Fujitsu 3-mode Floppy (FMV Series)(FUJITSU)[11-18-1998]」を選び、「次へ」をクリックします。

12 「完了」をクリックします。

インストールが完了すると、再起動を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って本パソコンを再起動してください。

メッセージが表示されない場合は、「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」ウィンドウで「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックしてください。

Windows 98 の再設定を行う

ACPI モードを有効にすると、Windows 98 の設定の一部が変更されます。次の手順で再設定を行ってください。

SUS/RES スイッチを押したときの動作設定

ACPI モードを有効にすると、SUS/RES スイッチを押したときの動作設定が、「シャットダウン（電源断）」になります。「コントロールパネル」ウィンドウの（電源の管理）の「詳細」タブの「電源ボタン」で、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を設定して、サスペンドするように設定を変更してください。

液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定

ACPI モードを有効にすると、液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定が、「何もない」になります。「コントロールパネル」ウィンドウの（電源の管理）の「詳細」タブの「電源ボタン」で、「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を設定してください。液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定が「何もない」のときは、電源が入っている状態で液晶ディスプレイを閉じないでください。

スタートアップの再登録

ACPI モードを有効にする前に削除したアプリケーションを、再登録します。

ACPI モードで使う際のヒント

Save To Disk 領域

Save To Disk 領域を削除すると、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウに「休止状態」タブは表示されません。「休止状態」の機能を使用する場合には、Save To Disk 領域を作成してください。

「Save To Disk 領域」(☞P.140)

なお、ご購入時には Save To Disk 領域は作成されています。

モデム着信によるレジューム

「モデム着信によるレジューム（Wake up on Modem Ring）」機能は、通信用アプリケーションを起動してから本パソコンをサスペンドすることで、自動的に有効になります。

レジューム時の画面表示

「モデム着信によるレジューム」機能でレジューム（サスペンドする前の状態に戻す）時に画面が表示されません。

フラットポイント（マウス）を操作すると画面が表示されます。表示されない場合は などのキーを押してください。

この操作をしても画面が表示されない場合には、状態表示LCDのが点滅していないか確認してください。点滅している場合にはサスペンドになっています。SUS/RES スイッチを押して、レジュームさせてください。

電源を切る

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「休止状態」タブで、「休止状態をサポートする」をにし、「詳細」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「シャットダウン」を選択したときに、「適用」を押してからSUS/RESスイッチを押した場合は、電源を切るまでの時間が、長くかかることがあります。

全画面表示の設定について

アドバイス

ご購入時の解像度

解像度：1024×768
ドット

ご購入時の解像度よりも小さい解像度を選ぶと、画面が全画面表示になります。ご購入時の解像度よりも小さい解像度を選んだときに画面がディスプレイ中央に小さく表示されるようにするには、次の手順で設定を変えてください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「詳細」をクリックします。
- 5 「画面」タブをクリックします。
- 6 「パネル」をクリックします。



「[ATI] のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 7 「イメージをパネルサイズに」の左側のをクリックしてにします。
にすると、ご購入時の解像度よりも小さい解像度を選んだ場合は、画面が液晶ディスプレイ中央に小さく表示されます。
にすると、ご購入時の解像度よりも小さい解像度を選んだ場合は、画面が液晶ディスプレイ全体に大きく表示されます。
- 8 「OK」をクリックします。
「RAGE MOBILITY AGP (Japanese)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 9 「OK」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 10 「OK」をクリックします。

フラットポイントについて

- ・PS/2規格以外のマウスを接続すると、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。
- ・スクロール機能付マウスを拡張キーボード / マウスコネクタに接続しているときは、本パソコンの動作中にマウスを抜かないでください。

インテル®プロセッサ・シリアル・ナンバについて(NE3/500LR, NE3/500Lのみ)

インテル®プロセッサ・シリアル・ナンバ

モバイル Pentium® III プロセッサに組み込まれた電気的に読み取り可能なシリアル番号で、ウェブでのセキュリティ向上や情報管理・資産管理などに利用することができます。

プロセッサ・シリアル・ナンバはソフトウェア アプリケーションを使用して読み取りが可能です。また、BIOS セットアップを使用して読み取り機能の「有効」 / 「無効」を設定することができます。

BIOS セットアップについて

BIOS セットアップの「詳細」メニューの「CPU 設定」(☞P.115)でもプロセッサ・シリアル・ナンバの読み取り機能の設定をすることができます。

プロセッサ・シリアル・ナンバについての詳細情報

プロセッサ・シリアル・ナンバの詳細については、<http://www.intel.com/jp/pentiumiii> を参照してください。

索引

記号

- 2DD フロッピーディスク 19
2HD フロッピーディスク 19

A

- ACPI 156
AC アダプタ 44
- 表示 10
- を取り付ける 44
- を取り外す 45
Alt キー 14
APM 156
Application キー 14
A ボタン 15

B

- Back Space キー 13
BIOS
- のパスワード機能を使う 121
- メッセージ一覧 124
- メッセージが表示されたとき 129
BIOS セットアップ 108
- 購入時の設定に戻す 112
- の操作のしかた 109
- を起動する 109
- を終了する 111
B ボタン 15

C

- Caps Lock 英数キー 13
Caps Lock 表示 11
CCD カメラ 64, 98
- を接続する 98
CD 21
- アクセス表示 10
- が取り出せなくなったとき 25
- の注意 21
- をセットする 23
- を取り出す 24
CD-R 22
CD-R/RW ドライブ 7
CD-ROM 21, 22
- ドライブ 7

- CD-RW 22
CMOS RAM 108
CRT コネクタ 9, 138
CRT ディスプレイ 89
- 解像度を変更する 94
- の走査周波数 139
- 発色数を変更する 94
Ctrl キー 14

D

- DC-IN コネクタ 9
Delete キー 12
DMA チャネル 137

E

- E-mail ボタン 15
EJECT ボタン 7
End キー 13
Enter キー 13
Esc キー 12

F

- FJV 形式 103
FM キャプチャ
- の留意事項 104
Fn キー 13

H

- High Color 32, 93
Home キー 13

I

- Insert キー 12
Intellisync 143
Internet ボタン 15
IRQ 137

L

- LAN カード 78
LOW バッテリ状態 50

M

- MAIN スイッチ 5

MB	19
MO ドライブ	105
MPEG1 形式	103

N

Num Lock キー	12
Num Lock 表示	11

P

Page Down キー	13
Page Up キー	13
PC カード	64, 78, 84
- アクセス表示	11
- スロット	5
- 取り出しボタン	5
- をセットする	79
- を取り出す	80
PDC コネクタ	9
PHDISK ユーティリティ	141
PHS	64, 82
PHS 接続カード	78
PHS で通信する	85
PHS に接続する	82, 84
PIAFS	82, 84
PMSet98	60
POST	108
Print Screen キー	12

S

Save To Disk 機能	53, 57
Save To Disk 領域	140
Scroll Lock 表示	11
SCSI	105
SCSI カード	78
Shift キー	13
SUS/RES スイッチ	3
SUS/RES 表示	10

T

True Color	32, 93
------------	--------

U

USB	9
USB コネクタ	9, 138
USB マウス	77

W	
Windows キー	14

I

イベントログメッセージ	128
インストール	65
- サウンドドライバ	154
- ディスプレイドライバ	150
インテル® プロセッサ・シリアル・ナンバ	163

工

液晶ディスプレイ	3
- 明るさを変更する	35
- 解像度を変更する	33
- 発色数を変更する	33
液晶ディスプレイの特性	16
エラーメッセージ (BIOS)	125

オ

お手入れ	36
オプション機器	64
音楽 CD	22
音量つまみ	30
音量の設定	31
音量ボリューム	7, 30
音量を調節する	30

力

カーソルキー	13
解像度	32, 93
外部ディスプレイ	64, 89
- 解像度を変更する	94
- 発色数を変更する	94
- を接続する	90
書き込み可能	20
書き込み禁止	20
拡張 RAM モジュール	70
拡張キーボード / マウスコネクタ	9, 139
拡張キーボードコネクタ	139
各部の名称と働き	2
稼動時間	48
カバークローズスイッチ	3
管理者用パスワード	121

キ

キーボード	3,12
- のお手入れ	36
起動時の自己診断テスト	108
起動メニュー	119
曲順表示 LCD	15

ク

空冷用ファン	5
--------	---

ケ

携帯電話	64,82
- で通信する	85
- を接続する	82,84

コ

コネクタの信号名	138
コネクタのピン配列	138

サ

再生時の音量設定	31
サウンドドライバをインストールする	154
サスPEND/レジュームスイッチ	3
サスPEND機能	53,54

シ

充電	46
- 時間	47
終了メニュー	120
仕様	
- パソコン本体	132
- モデム	136
仕様一覧	132
詳細メニュー	114
状態表示 LCD	3,10
省電力メニュー	118
情報メニュー	120
シリアルコネクタ	9,138

ス

スピーカー	3,5,6
-------	-------

セ

セカンダリアダプタ	95
赤外線通信	143
赤外線通信ポート	9

セキュリティメニュー 116

接続・セット

- AC アダプタ	44
- CCD カメラ	98
- CD	23
- CRTディスプレイ	90
- PC カード	79
- PHS	82,84
- 外部ディスプレイ	90
- 携帯電話	82,84
- テンキーボード	77
- バッテリ	51
- プリンタ	67
- フロッピーディスク	19
- マウス	77
- メモリ	72

節電 53

- 機能	58
- の設定を変更する	59

全画面表示 162

ソ

外付けハードディスク 105

テ

ディスプレイドライバをインストールする ... 150

ディスプレイのお手入れ 36

ディスプレイの表示を切り替える 91

デジタル携帯電話接続カード 78

デジタル写真

- を送る	101
-------	-----

- を加工する	101
---------	-----

- を壁紙にする	101
----------	-----

- を撮る	99,100
-------	--------

- を保存する	101
---------	-----

デジタルビデオを撮る 99,101

テンキー ボード 64,77

- を接続する	77
---------	----

テンキー モード 14

電源 40

- の管理	59
-------	----

- を入れる	40
--------	----

- を切る	42
-------	----

ト

盗難防止用ロック 5

ドライバ 65

ドライバのインストール	149	- の注意	50
- 注意事項	149	- を交換する	51
取り出す・取り外す		- を充電する	46
- AC アダプタ	45	パラレルコネクタ	9,138
- CD	24	半角 / 全角キー	13
- PC カード	80		
- バッテリ	51		
- フロッピーディスク	20		
- メモリ	76		
取り付け			
- AC アダプタ	44		
- CCD カメラ	98		
- CRT ディスプレイ	90		
- PC カード	79		
- PHS	82,84		
- 外部ディスプレイ	90		
- 携帯電話	82,84		
- テンキー・ボード	77		
- バッテリ	51		
- プリンタ	67		
- マウス	77		
- メモリ	72		
ナ			
内蔵バッテリパックスロット	5		
内蔵マイク	3		
ハ			
ハードディスク	105		
ハードディスクアクセス表示	10		
廃棄	16		
パスワード			
- を削除する	123		
- を設定する	121		
- を入力する	122		
- を変更する	123		
パソコンのお手入れ	36		
発色数	32,93		
バッテリ	46		
- 残量表示	10,48		
- 充電表示	10		
- 装着表示	10		
- で使う	46		
- の異常表示	49		
- の稼動時間	48		
- の残量を確認する	48		
- の充電時間	47		
ヘ			
ヘッドホン・ジャック	6		
ホ			
ボタン	15		
マ			
マイクイン・ジャック	7		
マウス	64,77		
- を接続する	77		
マルチモニタ機能	95		
- 解像度	97		
- 発色数	97		
メ			
メール着信ランプ	15		
メインメニュー	113		

メモリ	64,70
- を取り付ける	72
- を取り外す	76
- を増やす	70

モ

モードスイッチ	15
モジュラーコネクタ	7,139
モジュラージャック	147
モデル	136,146
- の認証番号	148

ユ

ユーザー用パスワード	121
------------------	-----

ラ

ラインイン・ジャック	6
ラッチ	3

リ

リソース一覧	137
--------------	-----

レ

レジューム	56,58
-------------	-------

ロ

ローゼット	147
録音時の音量設定	31

ワ

割り込み番号	137
ワンタッチボタン	3,15,26
- アプリケーションの起動	26
- 音楽CDを聞く	28
- 割り当ての変更	27

MEMO

MEMO

Microsoft および Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。
Celeron は、米国インテル社の商標です。
RAGE は、ATI Technologies, Inc. の商標です。
K56flex は、Lucent Technologies 社、Conexant Systems Inc. の商標です。
MNP は、Microcom 社の登録商標です。
Zaurus は、シャープ株式会社の登録商標です。
GlidePoint® は、米国 Cirque 社の登録商標です。
Adaptec およびアダプテック社のロゴは登録商標です。
Easy CD Creator は、アダプテック社の商標です。
DirectCD は、アダプテック社の商標です。
その他の各製品名は、各社の商標または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright® 富士通株式会社 2000
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

FMV-BIBLO NE3/500LR, NE3/500L

NE3/45LW, NE3/45LR, NE3/45L

使いこなす本 ハード編

B3FH-5831-03-00

発行日 2000年2月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

(ア) 0002-1

OPEN



箱を開けたら…

箱の中身を確認してください。
ご購入後、できるだけ早く添付品を確認
しましょう。

はじめに読む本

まず最初に…

1 取扱説明書



ビデオを見てから
本を見よう!



パソコンが初めてなら…

2 かるがるパソコン入門



CD-ROMが
付いています!



FMVを知ろう!

3 FMV総合案内



使いこなす本

インターネット編



- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す

ソフト編



ハード編



- ・デジタル写真を利用する
- ・はがきを作る
- ・電車の経路を調べる
- ・地図で調べる

ハード編

- ・各部の名称を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす

困ったときの本

お役立ちシート

- お手元に置いてお使いください
 ・ありがちなトラブルの解決
 ・文字入力早わかり



トラブル解決Q & A

- ・パソコンが動かない!
- ・サポート情報
- ・パソコンをふりだしにもどす



画面で見る パソコン情報ランド

- 今すぐ役立つ情報がいっぱいです!
 ・豊富なQ&A情報
 ・マニュアル検索
 ・パソコン用語集
 ・トラブル解決のヒント



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。



T4988618875745